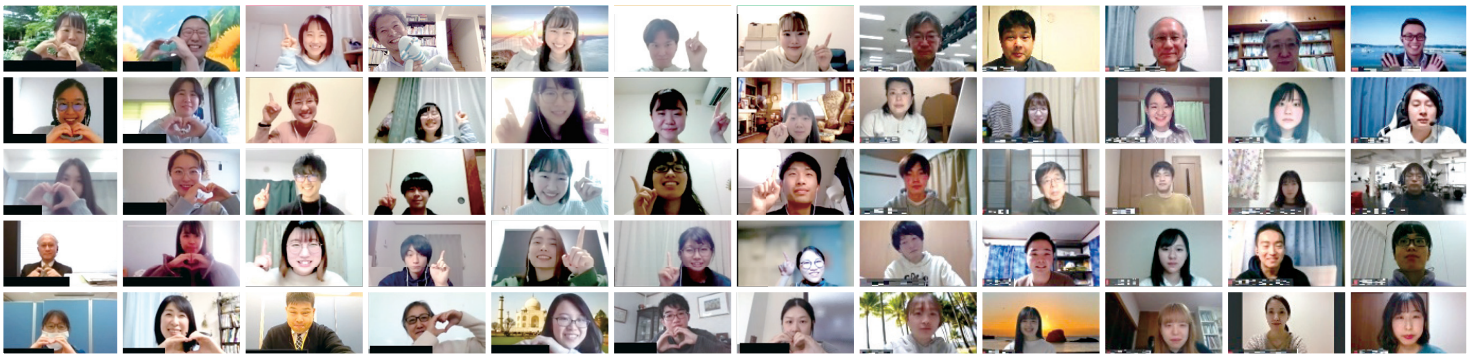
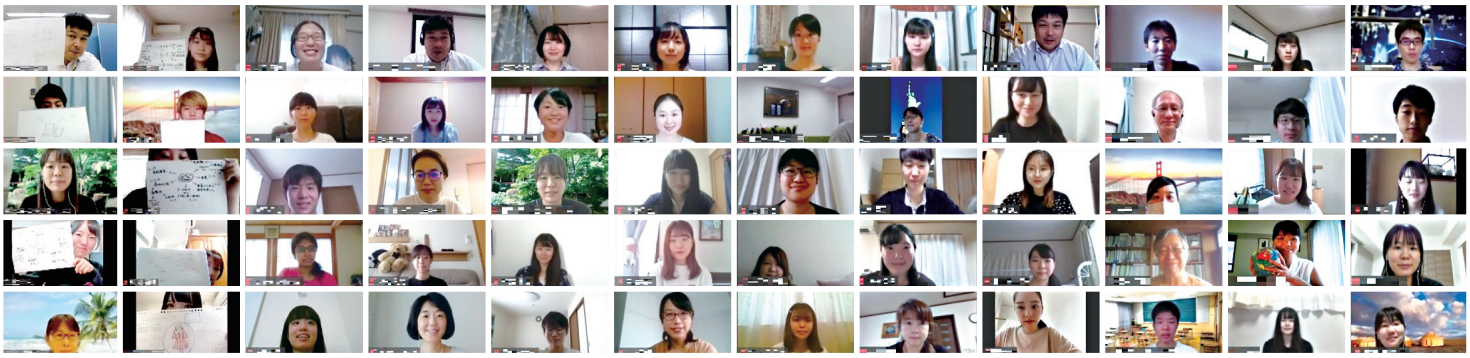


2020年度版

東洋大学
ボランティア支援室年報

TOYO University Volunteer Support Office 2020 Annual Report



東洋大学

東洋大学ボランティア支援室開設４年目の活動について

ボランティア支援室長　森田　明美

東洋大学は、教育理念の中で「主体的に社会の課題に取り組む」人間の育成を大きな柱としてきました。また、前身である哲学館の創立直後より「余資なく、優暇なき者」のために『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。このように東洋大学は、社会貢献を建学の精神を具現するための柱の一つとし、人材育成をしてきた大学です。

そして、21世紀の大学にとって、地域社会から厚い信頼を受け支援されることが必要条件で、そのためにも積極的な社会貢献を進めることが期待されています。それは地域社会のためであると同時に、大学自身のためでもあると言えます。本学は、３万人超の学生を擁する総合大学です。大学に蓄積された人的・知的資源を供出し、これらを必要としている地域に支援を届ける１つの方法が、学生によるボランティア活動であると思われます。

東洋大学では、既に様々なボランティア活動が展開されています。複数の学生団体、教員・学生によるゼミ他の活動は、多岐に亘ります。しかし、対外的に見ればこれら全てが東洋大学のボランティア活動となります。これらの活動を一元的に把握する部署がないため、今、どこでどのような団体が、どういった活動をしているか、大学全体としては、把握できていないのが現状でした。

そこで、これらの活動をはじめる前に、ボランティア支援室にお知らせいただき、情報が閲覧できる環境を整えるとともに、これらを把握し、本学の活動を外部に発信していくことにより、社会貢献活動の一層の充実を図ることに繋がるのではないかと考え支援の仕組みを作りました。

2017年度ボランティア支援室開設初年度の学生支援は、手探りでしたが、白山キャンパス２万人の学生に対し、ボランティア活動を希望する学生への相談対応を中心に行いました。

また、本学の学生にボランティアとして来てもらいたい団体の申し込み受付および相談窓口となり、適切な場所に学生を送り出していきました。実際、ボランティア活動に出て行く学生の安全確保のためには、大学としても受け入れから、準備、実施中の相談、とりわけ危機管理体制の構築を含む多様なバックアップ体制の整備が不可欠です。大学が学生のボランティア活動を支援しなければ、学生の様々な活動は発展せず、大学生の協力を必要としている方々へ活動を届け続けるのは難しい状況になります。

そこで、これらの活動を実施するために専門のスタッフを配置し、ボランティア先の開拓、学生とのマッチングに加え、実施後の検証、まとめ、実施報告などを連続的に実施してきました。また、ボランティア支援室では、大学のボランティア活動の中期・長期的な方向性を策定し、さらに学生や卒業生、地域に向けた様々な企画を検討することで、大学が設置するボランティア支援室の機能を果たしてきました。前述の活動は、ボランティア支援室に設置した専門部会や運営委員会の先生方を中心に検討を重ね、学生に対するボランティア活動の支援策を策定してくださいました。

ボランティア支援室の開設は、多くの教職員の方々に支えられながら、学内にボランティア活動の拠点を組織化するための挑戦でした。

２年の活動を積み重ねて、３年目の2019年度には、東洋大学学生課外活動育成会費などを更に活用し、活動を充実させることができるようになりました。また、初めてボランティア活動をする学生の支援として、Toyo 1 Day ボランティアの実施やボランティア支援室の活動に、学生の声を反映させるために学生イベントスタッフを育成し様々な企画に協力を得ました。また、東洋大学ボランティア WEEK では、人権週間を含む15日間に人権尊重やボランティアに関する講座を全キャンパスで開講しました。

この他にも学生と教員の協働活動は様々な地域と分野で展開しました。

こうした経験をもとに、４年目の2020年度は、一層その活動を積み重ね、発展させ、東洋大学のボランティア活動、活動支援のスタイルを確立させる年にしたいと考えていました。けれども残念なことにコロナ禍の中で、ボランティア活動の中核となる形である対面、フィールドに出ることがほとんどできない１年になってしまいました。そこで、非対面でできる活動を工夫して行うことを中心に計画し、実施しました。本年の活動は、非対面と対面いずれの活動においても、これまで以上の工夫と事前の打ち合わせなどの努力を経て行われたものです。その計画がボランティアをするもの受けるものといった双方にとって安全で安心できる活動であり、また有意義なものになるように、ボランティア支援室のスタッフが全力を挙げて支援にあたった結果、やっとできた活動です。そうした意味で、これらの活動の意義は、これまで以上に大きなものであると思います。どうぞご一読いただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。

目　次

東洋大学ボランティア支援室開設４年目の活動について …… 1

目次 …… 3

活動内容

2020年度ボランティア支援室活動内容・利用状況 …… 4

【各企画概要】

1 「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」 …… 14
2 ボランティアサークル向け春のオンラインサロン …… 16
3 ボランティア支援室ガイダンス …… 18
4 白山キャンパスボランティアサークル オンライン説明会 …… 19
5 ボランティア入門講座　ボランティアのファーストステップ
～一歩を踏み出した先に広がる世界～ …… 20
6 ボランティアカフェ ONLINE …… 22
7 東洋大生がワークショップで考える SDGs …… 42
8 福島県の子どもに寄り添うプログラム …… 51
9 福島県いわき市の農業の現状を発信する Online …… 52
10 デイキャンプで遊ぼう会　里親家族とのデイキャンプ …… 53
11 SDGs for Everyone! - みんなで関わる SDGs プロセス -
「東洋 SDGs コンテスト」「SDGs ボランティア情報展」 …… 55
12 「大地震！どうする？どこへいく？？
～『備え』のための1day オンラインワークショップ～」 …… 58
13 「ユニバーサルマナーワークショップ～○○ with Us ～」 …… 60
14 「東日本大震災から10年経った今
被災地の若者と東洋大生が考える震災と復興」 …… 62
15 東洋大学ボランティア WEEK 2020 …… 64
16 ボランティア入門講座（ボランティア WEEK） …… 71
17 ボランティア支援室「しゃべり場（オンライン窓口）」 …… 73
18 「Hands to Hands- みんなで乗り越える、コロナ禍 -」 …… 74
19 「避難所運営させてもらえませんか？～ゲームで学ぶ避難所運営～」
（「避難所 HUG」オンライン体験会） …… 76
20 社会貢献活動　助成表彰式・報告会 …… 78

【2020年度ボランティア支援室　各企画資料】 …… 80

【資料・記録】

ボランティア支援室　ガイダンスの実施 …… 90
東洋大学ボランティア支援室要項 …… 91
ボランティア支援室運営委員会委員名簿・専門部会委員名簿・外部評価委員 …… 94
2020年度　ボランティア支援室専門部会活動記録 …… 96
ボランティア支援室外部評価 …… 98

2020年度ボランティア支援室活動内容・利用状況

ボランティア支援室における活動を振り返って

東洋大学ボランティア支援室は、開設４年目を迎えました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、原則対面でのボランティア・社会貢献活動は行えないという状況下での１年となりましたが、非対面での活動が行えるビデオ会議ツール等を活用しながら、以下の取り組みを重点的に進めました。

【主な取り組み】

1　ToyoNet-ACE「ガクチカサプリ」による、ボランティア活動等情報の全学生への発信

本学の課外活動に関する新型コロナウイルス対応方針により、対面によるボランティア活動情報の掲示見合わせ措置をとらざるを得ない状況が続きましたが、ガクチカサプリでは「自宅にいながら関われるボランティア・社会貢献活動等関連情報」コースニュースの設置をはじめ、非対面で活動できるボランティア活動の情報やイベント等の情報提供に力を入れました。

2　ボランティア・コーディネーターによる相談対応

５月より新コーディネーターが着任し、新たな体制で相談対応を行いました。

７月からはオンライン相談窓口を常設。オンライン化に伴い、白山キャンパスのみならず、他キャンパスからの相談対応も手軽に行えるようになりました。

対面授業の一部再開後は、ボランティア支援室窓口においても、相談対応を行いました。

3　ボランティア活動促進のための講座、イベント等の実施

ボランティア入門講座を計３回、SDGs ワークショップを計5回実施しました。

11月から12月にかけ、「東洋大学ボランティア WEEK2020」を、今年度は SDGs をテーマにし開催しました。ボランティア活動や SDGs に関する「講演･ワークショップ」「学生企画」「展示」などを、４キャンパス (白山、朝霞、川越、板倉) で実施しました。

4　授業におけるボランティアセミナー等の実施

ボランティア支援室のボランティア・コーディネーターがオンライン授業（リアルタイム配信）に登壇し、ボランティア活動に関する入門的な講義・ワークショップやコメンテーションなどを合計８回実施しました。

また、ボランティア支援室のガイダンス映像を作成し、オンデマンド教材として活用できるよう整備しました。

5　学生スタッフ（サポートスタッフ）

学生のボランティア活動や社会貢献活動に関する理解を深めリーダーシップの涵養を図ることと、ボランティア支援室の活動の学生へのアプローチ力を高めるための試みとして、昨年度より学生スタッフが活動を展開しています。今年度は「ボランティア支援室サポートスタッフ」として、新たに２名が加わり計６名で活動を行いました。

今年度はすべてオンラインでの活動となりましたが、白山キャンパスで活動するボランティアサークルの合同説明会の企画や、ボランティアコーディネーションに関するテキストを用いた輪読形式の学習会の実施、ボランティア入門講座における講師としての登壇や、社会福祉学科の授業における活動発表などの活動を通じ、ボランティア活動を学生に推進していくことの意義を確認しました。

6　交流会の実施

昼食を持ち寄って気軽に情報交流を行うことを目的に従来開催されてきた＜ボラカフェ（ボランティアカフェ）＞を、オンライン化に合わせリニューアルし、7テーマ計18回実施。ひと月にテーマを１つ設定し、そのテーマのもと２回から３回の連続開催を行う形態へと改め、「再会の場」を一定保障することにより学生間の関係づくりを目指しました。もとより東洋大学の学生以外の参加者も受け入れて開催していましたが、オンライン環境という特性を活かし、首都圏以外の地域からも学生が参加をし、新たな関係が生まれる場面が見られました。

白山キャンパスでは、ボランティアサークル間の横のつながりを強めるためにオンラインサロンを５月に実施。コロナ禍における新入生歓迎活動についてサークル間で意見交換を行い、Twitter や Instagram で使用できるハッシュタグ「#toyo_volu」を策定し、情報発信を一元化する試みもなされました。

7　活動支援

国内外でボランティア活動など社会貢献活動を行う学生団体への資金助成プログラム「社会貢献活動プロジェクト助成」を行い、８つのプロジェクトが採択されました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、当初予定していた活動を中止せざるを得ない場面も多く見られました。

ToyoNet-ACE では、学生ボランティアサークルからのお知らせを配信する専用チャンネルを作成し、情報発信の面での支援を行いました。特に今年度はサークルにとって、新入生歓迎が極めて難しい状況にあり、年間を通じてサークルの新規メンバー獲得のための情報支援を行いました。

また、オンラインでの活動が続く中で本来計画していた活動を再開できないことによる、サークルメンバーのモチベーション低下といった課題が幾つかのサークルで顕在化しました。サークルからの求めに応じ、コーディネーターがミーティング等に帯同し、アドバイス等の対応を行ったケースも見られました。

8　災害対応

新型コロナウイルス感染症の影響は、災害ボランティア活動においても影響を及ぼしました。

今年度は令和２年７月豪雨（九州南部豪雨災害ほか）が発生し、現地に甚大な被害がありましたが、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）が発表した「新型コロナウイルスの感染が懸念される状況におけるボランティア・NPO 等災害対応ガイドライン」等に沿って被災地での災害ボランティアの受け入れが行われていたこともあり、学生を現地に送り出す取り組みは行いませんでしたが、災害復旧活動を行う団体や被災自治体への寄付に関する情報を提供するなど、首都圏にいながらにして被災地に寄り添うための方法について、情報発信を行いました。

また、７月には５大学の合同で、防災教育コンサルタントが講師となったオンラインセミナーを共催しました。

12月には、学生団体の主催により、災害時の避難場所や避難グッズの備えなど、自分が実際に被災した場合を想定してオンラインワークショップを行った他、３月には「避難所運営ゲーム」のオンライン版の体験を通じて、災害時に起こり得る問題や日ごろの備えの重要性について学びました。

また、今年発災から満10年を迎えた東日本大震災に関して、東洋大学の学生や教職員による支援活動を振返り、これからの災害支援について考えるイベントを執り行いました。

9　SDGs に関連した取り組み

昨年度実施した SDGs ワークショップが好評であったことから、さらに多くの学生が SDGs について関心を持つことを目的に、「東洋大生がワークショップで学ぶ SDGs」と題した学びの場を計５回開催しました。ワークショップでは毎回多様な分野の講師を招き、パーム油問題、気候変動、ジェンダー格差など SDGs のゴールに関する様々な社会問題を切り口に、SDGs への理解を深めました。

また学生発の SDGs に関する取組みも生まれました。ボランティア WEEK 内では学内の図書館及び事務局と協働したパネル展示企画を行い、好評を博しました。また、「SDGs コンテスト」と題したコンテスト企画では、学生から SDGs にまつわる写真やスローガン（標語）の作品を募集し優秀作品を表彰。オンラインツールを活用し、学生の参加の機会を創ることにつながりました。

10　新型コロナウイルス感染症に関する対応

新型コロナウイルス感染症の影響は、学生生活に大きな影響を与えました。支援室ではコロナ禍でのボランティア活動支援の在り方を模索するため、全学生へ向けたアンケート調査を実施し、約700件の回答を得ました。アンケート結果の中では、ボランティアや社会貢献活動への高い関心と、コロナ禍での時間を自分自身の学びやスキルの向上に使いたいという前向きな意欲が見受けられました。

一方、対面で集うことが困難な中、特に新入生にとっては学生間のつながりを築けないまま時間が経過し、心身の不調を訴えるケースも顕在化しました。夏季休暇期間中は、１人自宅で過ごす時間が長期化することから、オンライン上で学生が顔を合わせることのできるコンテンツの提供が求められ「夏休みおうち時間応援プロジェクト」と銘打ち、多数のオンラインイベントを開催しました。

また、秋学期には学生・教職員が一体となってコロナ禍を乗り越えていこうというメッセージのもと、卒業生の協力も仰ぎながらコロナ禍で苦しい生活を強いられている学生への支援の取り組みとして、「Hands to Hands ～みんなで乗り越える、コロナ禍～」と題したフードパントリーの取り組みも行いました。

11　他機関・地域・他大学等との連携

東京ボランティア・市民活動センター主催の大学ボランティアセンター連絡会に参加。他の大学ボランティアセンターのコロナ禍での活動状況について情報交換を行いました。

また、本学は大学間連携災害ボランティアネットワークに加盟していることから、ネットワークのメーリングリストを通じて届く情報を、必要に応じてガクチカサプリ「大学間連携災害ボランティアネットワーク情報」コースニュースに掲載し、学生に提供しました。

12　その他

各事業の実施においては、ボランティア支援室だけではなく、学生部等、関係する部署との連携・協働に力を入れました。

ボランティア・コーディネーター　日比野　勲
山本　奈央

2020 年度　ボランティア支援室活動状況

2020年度春学期はコロナウィルス感染拡大防止対策のため、「対面」課外活動が休止

月	日	種別		業務内容
4月	20日	●	会議	ボランティア支援室サポートスタッフミーティング (Web)
5月	6日	★	イベント	オンラインワークショップ「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」(Web)
	13日・20日	◆	ガイダンス(授業協力)	社会学部社会福祉学科授業「社会貢献活動入門」[実施コース：D コース (Web 動画)]
	20日	★	イベント	「ボランティアサークル向け春のオンラインサロン」(Web 開催)
	27日	◆	ガイダンス(授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」[実施コース：D コース (Web 動画)]
6月	2日	●	会議	ボランティア支援室サポートスタッフミーティング (Web)
	2日	◆	ガイダンス(授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」[実施コース：D コース (Web 動画)]
	4日	◆	授業協力	「ボランティア活動入門」[コーディネーター登壇]
	9日	◆	ガイダンス(授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」[コーディネーター登壇]
	9日	◆	ガイダンス(授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」[実施コース：D コース (Web 動画)]
	10日	●	会議	ボランティア支援室サポートスタッフミーティング (Web)
	11日	●	会議	第1回　ボランティア支援室専門部会
	15日	◆	ガイダンス(授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」[コーディネーター登壇]
	16日	◆	ガイダンス(授業協力)	社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」[実施コース：D コース (Web 動画)]
	17日	◆	ガイダンス(授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」[コーディネーター登壇]
	23日	◆	ガイダンス(授業協力)	社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」[コーディネーター登壇]
	25日	◆	授業協力	「ボランティア活動入門」　[講師紹介]
7月	1日	★	イベント	大学生・教員の方向けオンラインミーティング（セミナー）「防災・災害ボランティアってなんだろう？」(6大学合同)
	2日	●	会議	ボランティア支援室サポートスタッフミーティング (Web)
	6日	★	イベント	ボランティア支援室「しゃべり場（オンライン窓口)」運用開始 (Web)
	6日	●	会議	第2回　ボランティア支援室専門部会（書面会議）
	7日	◆	ガイダンス(授業協力)	社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」[コーディネーター登壇]
	11日	★	イベント	東洋大生がワークショップで考える初めての SDGs(Web)
	14日	★	イベント	白山キャンパスボランティアサークル オンライン合同説明会① (Web)
	15日	★	イベント	ボランティア支援室のご案内① (Web)
	16日	★	イベント	白山キャンパスボランティアサークル オンライン合同説明会② (Web)
	20日	★	イベント	ボランティアカフェ「あつまれ！『国際』ボランティアやってみたい人」① (Web)

月	日	種別		業務内容
7月	21日	★	イベント	白山キャンパスボランティアサークル オンライン合同説明会③ (Web)
	22日	★	イベント	ボランティア支援室のご案内② (Web)
	27日	★	イベント	ボランティアカフェ「あつまれ！『国際』ボランティアやってみたい人」② (Web)
8月	9日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 「福島県の子どもに寄り添うプログラム」 (コロナウィルスの関係で Web に変更)
	11日	★	イベント	「ボランティア入門講座」① (Web)
	18日	★	イベント	ボランティアカフェ「子どもが好きな人、大集合！」① (Web)
	20日	★	イベント	「ボランティア入門講座」② (Web)
	25日	★	イベント	ボランティアカフェ「子どもが好きな人、大集合！」② (Web)
	28日	★	イベント	東洋大生がワークショップで考える SDGs 「SDGs を自分ゴトとして考えてみよう」(Web)
9月	3日	★	イベント	ボランティアカフェ「子どもが好きな人、大集合！」③ (Web)
	7日	★	イベント	ボランティアカフェ「わたしたちにできる SDGs アクション！」① (Web)
	8日	★	イベント	「Hands to Hands プロジェクト」物資受付開始
	14日	★	イベント	ボランティアカフェ「わたしたちにできる SDGs アクション！」② (Web)
	18日	●	会議	第3回　ボランティア支援室専門部会
	27日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 「福島県いわき市の農業の現状を発信する」 (コロナウィルスの関係で Web に変更)
10月	1日	★	イベント	「Hands to Hands プロジェクト」配布開始
	3日	★	イベント	東洋大生がワークショップで考える SDGs 「環境問題から学ぶ初めての SDGs」(Web)
	16日	●	会議	第4回　ボランティア支援室専門部会
	19日	★	イベント	「Hands to Hands プロジェクト【第2弾】」物資受付開始
11月	3日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画＆1 Day ボランティアプログラム「デイキャンプで遊ぼう会」
	7日	★	イベント	ボランティアカフェ「意外と広い、ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」① (Web)
	9日	★	イベント	「Hands to Hands プロジェクト【第2弾】」配布開始
	20日	●	会議	第5回　ボランティア支援室専門部会
	23日	★	イベント	ボランティアカフェ「意外と広い、ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」② (Web)
	28日	★	イベント	ボランティアカフェ「意外と広い、ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」③ (Web)
	24日～ 12月15日	★	イベント	ボランティア WEEK 2020 ～ SDGs とボランティアについて考えよう～ (Web)
	24日～ 12月15日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 「東洋 SDGs コンテスト」
	24日～ 12月15日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 ［白山］「SDGs ボランティア情報展」

月	日	種別		業務内容
12月	1日	★	イベント	［川越］「企業と人権」～就職先を選ぶにあたって～ (Web)
	5日	★	イベント	［白山］東洋大生がワークショップ考える SDGs「今知っておきたい 世界のジェンダー問題と私たちの権利」(Web)
	7日	★	イベント	［朝霞］「子どもの権利実現のために自分たちにできることを考える」(Web)
	8日	★	イベント	［白山］「エイズってなんだろう？　～楽しく正しく学ぶ！性感染症・エイズ～」(Web)
	9日	★	イベント	［白山］ボランティアカフェ「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」① (Web)
	10日	★	イベント	［白山］「ボランティア入門講座」(Web)
	12日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 ［白山］「大地震！どうする？どこへいく？？～『備え』のための1day オンラインワークショップ～」(Web)
	13日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 ［白山］「ユニバーサルマナーワークショップ～○○ with Us ～」(Web)
	16日	★	イベント	［白山］ボランティアカフェ「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」② (Web)
	16日	★	イベント	［白山］「SDGs と子どもの人権」(Web)
	28日～ 1月8日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 ［朝霞］「SDGs ボランティア情報展」
	24日	★	イベント	［白山］ボランティアカフェ「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」③ (Web)
1月	5日	◆	授業協力	社会学部社会福祉学科授業「社会福祉の基礎」 ［コーディネーター、学生ボランティア登壇］
	19日～ 30日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 ［板倉］「SDGs ボランティア情報展」
	22日	●	会議	第6回　ボランティア支援室専門部会
2月	15日	★	イベント	ボランティアカフェ「町で、森で、海で ～環境活動で見つけるジブンゴト～」① (Web)
	20日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 東日本大震災から10年経った今　被災地の若者と東洋大学生が考える震災と復興
	22日	★	イベント	ボランティアカフェ「町で、森で、海で ～環境活動で見つけるジブンゴト～」② (Web)
	25日	★	イベント	東洋大生がワークショップ考える SDGs「SDGs ゴール 1「貧困」ってなんだろう？～日本での子育てとキャリア、ミャンマー子ども支援の経験から～」(Web)
3月	2日	★	イベント	ボランティアカフェ「わたしの3.11、あなたの3.11 ～震災10年と、これから～①」(Web)
	3日	★	イベント	「避難所運営させてもらえませんか？～ゲームで学ぶ避難所運営～」
	7日～ 8日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画 福島県いわき市の漁業の現状を発信する　→中止
	9日	★	イベント	ボランティアカフェ「わたしの3.11、あなたの3.11 ～震災10年と、これから～②」(Web)

3月	16日	★	イベント	学生の社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会
	16日	★	イベント	ボランティアカフェ「わたしの3.11、あなたの3.11 ～震災10年と、これから～③」(Web)

【種別】
● 会議
★ イベント（ボランティア支援室企画）
☆ イベント（東洋大学学生課外活動育成会企画）
◆ ガイダンス（授業協力）
◇ その他

その他ボランティアコーディネーター、担当職員の外部視察および外部研修等参加

月	日	種別		業務内容
8月	24日	▲	参加	大学･短大等における学生ボランティア活動支援連絡会議（オンライン）
9月	30日	▲	参加	第１回企業地域連携推進ネットワーク会議（オンライン）
10月	30日	△	視察	文京区地域連携ステーション　フミコム訪問
12月	12日	▲	参加	大学間連携災害ボランティアシンポジウム（オンライン）
1月	27日	▲	参加	SDGs 大学連携プラットフォーム　第４回ワークショップ（オンライン）
2月	25日	▲	参加	第2回企業地域連携推進ネットワーク会議（オンライン）

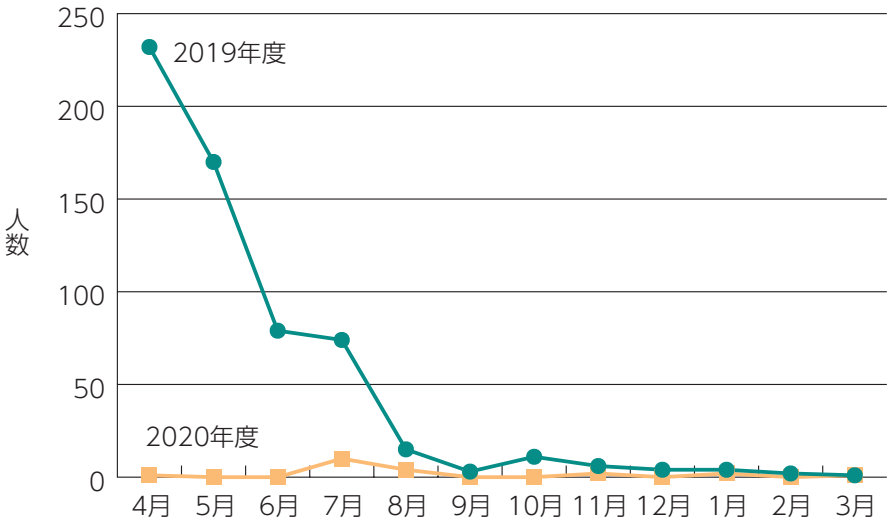
【種別】
△ 視察
▲ 参加

ボランティア支援室　2020 年度 利用状況報告

(1) 学部別ボランティア支援室来訪者数（人数）※オンライン窓口への来訪者（7月6日以降）

所　属	4月	5月	6月	※7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
白山キャンパス													
文学部	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	4
経済学部	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
経営学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学部	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7
社会学部	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
国際学部	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
国際観光学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤羽台キャンパス													
情報連携学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
板倉キャンパス													
生命科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食環境科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝霞キャンパス													
ライフデザイン学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川越キャンパス													
理工学部	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
総合情報学部	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他													
通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
記入総件数	1	0	0	10	4	0	0	2	0	2	0	1	20
(参考) 2019年度	232	170	79	74	15	3	11	6	4	4	2	1	582

ボランティア支援室　学生来訪者数（月別推移）



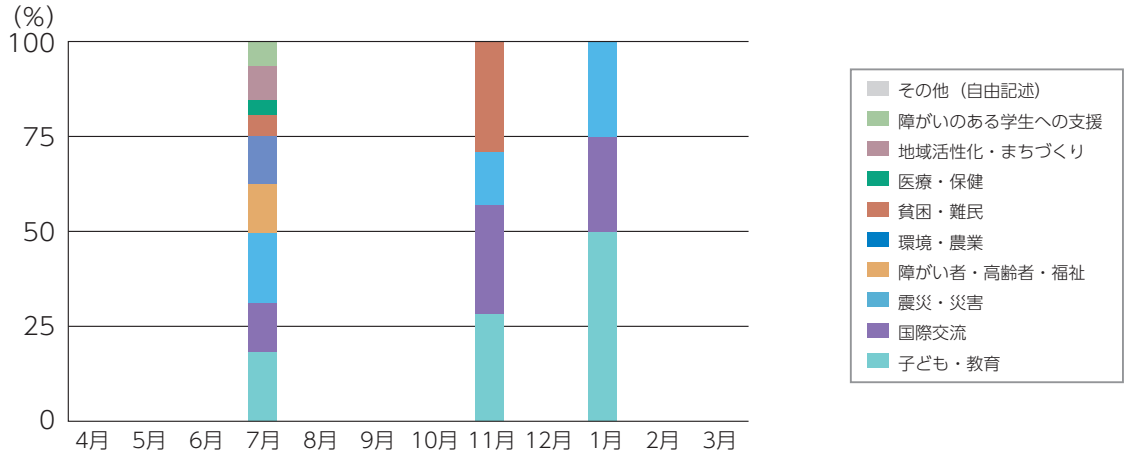
（2）ボランティア支援室来訪者の紹介経路（件数）※複数回答を含む

所　属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
Toyonet-ACE（ガクチカサプリ）	0	0	0	8	2	0	0	1	0	2	0	0	13
ボランティア支援室主催ガイダンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学内掲示板	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
教職員からの紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サークルからの紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
友人・知人からの紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋大学ホームページ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

（3）学生が興味を持ったボランティア活動分野（件数）※複数回答を含む

所　属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
子ども・教育	0	0	0	6	0	0	0	2	0	2	0	0	10
国際交流	0	0	0	4	0	0	0	2	0	1	0	0	7
震災・災害	0	0	0	6	0	0	0	1	0	0	0	0	7
障がい者・高齢者・福祉	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
環境・農業	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
貧困・難民	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	4
医療・保健	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
地域活性化・まちづくり	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
障がいのある学生への支援	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3
その他（自由記述）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

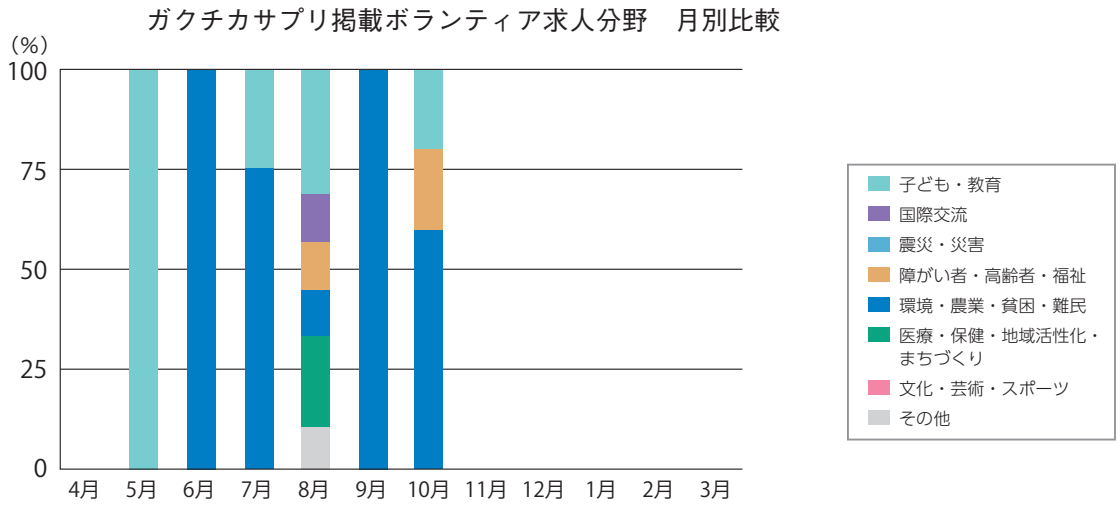
学生が興味を持ったボランティア活動分野　月別比較



（4）ToyoNet-ACE ガクチカサプリ掲載ボランティア求人数（件数）

所　属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
子ども・教育	0	1	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	6
国際交流	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
震災・災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障がい者・高齢者・福祉	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
環境・農業・貧困・難民	0	0	3	3	1	7	3	0	0	0	2	0	19
医療・保健・地域活性化・まちづくり	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
文化・芸術・スポーツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
総件数（月別）	0	1	3	4	0	7	5	0	0	0	2	0	22
（参考）2019年度	4	6	6	12	12	10	8	11	8	5	5	8	95

※9月以降は受付のみ（掲載休止）



（5）ToyoNet-ACE ガクチカサプリ
閲覧者数　累計数

集計期間	閲覧者数（人）
2020年4月	21,830
5月	28,399
6月	25,738
7月	31,163
8月	11,893
9月	18,486
10月	19,935
11月	18,291
12月	16,368
2021年1月	24,405
2月	13,847
3月	14,011
計	244,366

※2019年度累計　76,729

ボランティア支援室イベント

1 「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」

ファシリテーター	日比野　勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	2020年5月6日（水）　16:30～19:00
会場	Cisco Webex Meetings によるオンライン開催
目的	ボランティア・社会貢献活動への理解を深め、社会問題に対する認識を深める
参加者数	ボランティア支援室サポートスタッフ3名
協力	認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR）

活動内容（概要）

ボランティア支援室では、昨年度より支援室サポートスタッフの学生を募集し、ボランティア支援室の事業運営などを協働することを通じて、ボランティア・社会貢献活動への理解を深め、社会問題に対する認識を深めるための試みをしています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、サポートスタッフも非対面での活動に限定して行わざるを得なくなりました。こうした時期に、何かできることを模索していたところ、認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR）が製作したワークショップの情報を入手し、オンライン開催をしました。

内　容

5月6日（水）に、「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」を用いて、オンラインでのワークショップを実施しました。私たちの生活に少なからず影響を及ぼした新型コロナウイルスについて、ワークシートを用いながら、じっくり話し合うことができた貴重な時間となりました。

●アクティビティ1「わたしの気持ち」

新型コロナウイルスにまつわるニュースを見ての自分の気持ちについて、ワークシートに示された選択肢をもとに共有しました。

※ワークシートは、以下の URL から参照してください。

http://www.dear.or.jp/books/book01/2645/

《参加者が選択した気持ち》

くやしい、どうにもできない、有効に使いたい、怖い、おどろいた 不安、受け入れよう、役に立ちたい、前向き

毎日、新型コロナウイルスの報道がされる中、改めて自分の気持ちを整理し、知ることができました。同じ気持ちを選んだとしても、それぞれ理由は異なっていました。しかし、この状況をポジティブに捉えようとする気持ちは共通していました。

●アクティビティ２「なにが起こった？どう感じた？」
　新型コロナウイルス発生から半年ほど経過していたこと、志村けんさんが亡くったことは、共通して大きな驚きでした。新型コロナウイルスに対する危機感を持った時期、新型コロナウイルスを意識してマスクを着用するようになった時期等が違いました。お互いに、どのように春休みを過ごしていたのかなど報告しあう時間にもなりました。

●アクティビティ３「様々な意見を読んで考える」
　それぞれ驚いた意見・情報が違い、その理由も知れました。ワークシート③にはコロナウイルスに関する8つの意見・情報が載っているのですが、このワークシートを通じて初めて知るものもありました。

●アクティビティ４「これからの世の中」
　テーマごとに、コロナウイルスの影響で変化すると思うこと、そして自らが変えたいと思うこと、こんなふうに変わっていってほしいために自分ができることはなにか？について考えました。
　※テーマの例：仕事・雇用、政治、衣・食・住 暮らし方、経済・産業など

　個人的な感想なのですが、ワーク④における自分の考えをまとめるのに時間がかかったと同時に、他の人がどんなことを考えたのか気になりました。そのため、さまざまな意見が聞け、このような社会の動きもあるのかと新たな気づきの連続でした。自分が変えたいと思うこと、あるいはこんなふうに変わっていってほしいと思うことに対して自分ができることについては、これからアイディアが思いつくのかもしれない、と思います。
　当たり前かもしれませんが、意見交換をすると、さまざまな気持ち･意見が聞けるため、共感したり、気づきを得たり、新たな考え方を知れたりしたことは大きな収穫でした。
　それぞれの状況により、新型コロナウイルスに対する気持ち・意見はさまざまですが、このワークショップ全体を通じて、「前を向いて進んでいこう！何かチャレンジしてみよう！」というポジティブな気持ちを共有できました。

（ボランティア支援室サポートスタッフ　下井田絢子）

ボランティア支援室イベント

2 ボランティアサークル向け春のオンラインサロン

開催日時	2020年5月20日（水）　18:30～21:30
会場	Cisco Webex Meetings によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークル間の関係構築 ・新入生歓迎活動の状況をサークル間で相互に共有すること
参加者数	16名 ・参加サークル ISR ConnAction、IVUSA、環境系サークルエコボラ、Team Value Creation、DAISY、TIPS、バリアフリーサークル歩み、読み聞かせ朗読会 ・ファシリテーター 日比野　勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター） ・進行サポート 下井田　絢子、宮下　亜美（ボランティア支援室サポートスタッフ）

活動内容（概要）

ボランティア支援室では、ボランティアサークル間の関係構築と、新入生歓迎活動の状況を相互に共有することを目的として、春のオンラインサロンを開催しました。

例年、ボランティア支援室は4月にボランティアガイダンスを、４月から５月にかけての時期にサークル合同説明会を開催していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度はオンラインイベントの開催という形で、サークル間の関係構築の機会をもつこととしました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、対面によるボランティア活動ができない中、Cisco Webex Meetings を使い、ボランティアサークルを集めた2020年春のオンラインサロンを行いました。2020年度の東洋大学ボランティアサークルメンバーの顔合わせとコロナ禍での各サークルの活動状況の共有をしました。１年生も参加してくれ、とても貴重な意見を聞くことができました。

例年はチラシ配布など新入生歓迎を行うことで１年生との交流をしているのですが、今年は不可能なためどのサークルも情報発信に苦しんでいるようです。授業のみならず、サークル活動においてもオンライン化に対応して活動を切り替えているところです。

各サークルの状況は様々ですが、Twitter や Instagram といったソーシャルメディアを使い宣伝をしたり、動画作成や Zoom などのようなビデオ会議システムを使い交流会や説明会を開いたりなど、試行錯誤をしながら活動を続けています。毎週決まった曜日にミーティングを開いているサークルもあるので、興味のある方は見学してみるといいかもしれませんね。

私自身各サークルの活動内容を聞くのは初めてでしたが、似ているようでそれぞれ違った目標をもって活動をしていることがわかりました。入部を考えている方はぜひ自分のやりたいことにあてはまるサークルを見つけてほしいと感じました。そういった意味でも、

さまざまなボランティアサークルの説明を一度に聞けて比較できるような場があるといいと思いました。

最後には、東洋大学のボランティアサークルが協力して何かアクションを起こせないかという視点で話を進めました。１年生からは、オンライン授業だけでは友達作りが難しい、サークルにおいても対面ではないので雰囲気をイメージするのが難しいという意見が出ました。今後はアイディアやノウハウを共有しながら、１年生同士が交流できるような機会、コロナが収まってからの合同説明会について検討していく予定です。

新入生にとっては、サークルのミーティングなどに参加することで同期や先輩と仲良くなれるチャンスがあります。コロナウイルスが収まってからでも遅くないので、積極的に探してみてほしいです。ToyoNet-ACE「ガクチカサプリ」のコースニュースや、Twitter で「＃春から東洋」というハッシュタグで検索すると、サークルの情報がたくさん出てくるので、実践してみてください。

（ボランティア支援室サポートスタッフ　宮下亜美）

ボランティア支援室イベント

3 ボランティア支援室ガイダンス

司　　会	山本　奈央（ボランティア支援室　ボランティアコーディネーター）
開催日時	第１回：2020年７月15日（水）　12:30 ～ 13:00 第２回：2020年７月22日（水）　12:30 ～ 13:00
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	・ボランティア活動に関心のある学生を対象に、ボランティア支援室の活動紹介およびボランティア活動の基本的な考え方を伝える。
参加者数	第１回：３名 第２回：２名

活動内容（概要）

ボランティア支援室では、ボランティア活動に関心のある学生を対象に、ボランティア支援室の活動紹介およびボランティア活動の基本的な考え方を紹介するガイダンスを実施しました。従来、このガイダンスは新１年生を対象に春に実施をしておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンラインでの実施となりました。

ガイダンスでは、現在展開されているさまざまな形でのボランティア活動の活動例を紹介し、ボランティア活動の幅の広さを伝えるとともに、活動を展開する上で考え方の柱となっている「ボランティア活動の４原則」を解説しました。また、ボランティア支援室の活動紹介として、ボランティア支援室の使い方や役割・機能について写真を交えて紹介し、授業再開の際には支援室を活用して貰えるよう PR しました。

ガイダンスの最後には、現在オンラインで開催しているボランティア支援室のイベント情報やボランティア系サークルの SNS について情報発信し、今後もオンライン上でのつながりを作れるように促しました。

参加した学生はいずれも１年生で、「まずは１日体験をしてみたい」「学校が再開したらボランティア室を利用したい」との声がありました。

オンライン授業の期間が長く続く中、オンラインの利点を活かした情報発信を心がけ、学生たちが自分の時間を有効に活用できるようサポートしていきます。

ボランティア支援室イベント

4 白山キャンパスボランティアサークル オンライン説明会 第1回～第3回

参加団体	第１回：バリアフリーサークル歩み、エコボラ、DAISY 第２回：東洋大学 IVUSA、読み聞かせ朗読会 第３回：フェアトレードサークル HEART BAZAAR、ISR-ConnAction
企画・運営	ボランティア支援室サポートスタッフ
開催日時	第１回：2020年７月14日（火）12:20～13:00 第２回：2020年７月16日（木）12:20～13:00 第３回：2020年７月21日（火）12:20～13:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	新型コロナウイルスの影響により、対面での勧誘およびサークル活動ができないという状況の中、新入生に向けてサークル活動の紹介や勧誘の機会を提供するため
参加者数	オープン Web 開催のため、集計無し

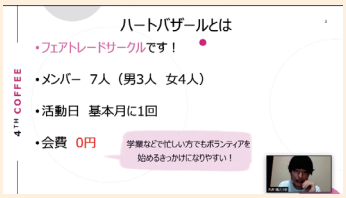
活動内容（概要）

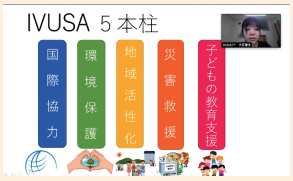
５月にボランティアサークル向けに実施したオンラインサロンでの意見交換を受け、ボランティア支援室サポートスタッフが企画運営を担う形で、本オンライン説明会を企画しました。

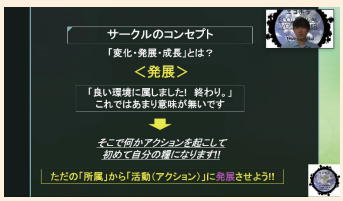
新型コロナウイルスの影響により、人が対面で活動できないという状況の中、新入生がサークル加入決定の決め手を欠いていたり、対面活動の再開を待ってサークル入会を決めたりする動きが見られています。対面活動再開の見通しが立たない中での開催となりましたが、東洋大学のボランティアサークルがどのような活動をしているのか、その情報発信をとりわけ新入生に対し行うとともに、サークル間でお互いの取り組みを共有する機会ともなりました。

参加者は、ボランティア活動について知りたいというきっかけでこの説明会に参加を決めた人が複数見受けられ、ボランティアサークルに加入することをボランティア活動のための手段の１つと考えていることが見て取れました。３日間に日程が分かれた形にはなりましたが、複数のボランティアサークルの活動について話を聞くことができ、各団体から複数人が説明会に参加していたことで、サークルの雰囲気を感じやすかったといった感想も寄せられ、個々のサークルが行うオンライン説明会とはまた違った効用があったということを確認できました。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野　勲）







ボランティア支援室イベント

5 ボランティア入門講座　第１回・第２回

ボランティアのファーストステップ～一歩を踏み出した先に広がる世界～

講　　師	日比野　勲（ボランティア支援室　ボランティアコーディネーター）
開催日時	第１回：2020年８月11日（火）10:30 ～ 12:30 第２回：2020年８月20日（木）14:00 ～ 16:00
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	ボランティア活動の基礎を学ぶ
参加者数	第１回：８名 第２回：９名
協　　力	ボランティア支援室サポートスタッフ

活動内容（概要）

ボランティア支援室では、ボランティア活動に初めて触れようとする学生を主な対象として、ボランティア入門講座を、オンライン形式で開催しました。

「ボランティアとはなにか？」ということについて、楽しく分かるようになることを目指し、クイズを出題しながら参加者に考えていただく場面を、今年度初めての試みとして創出しました。その他、講師自身のボランティア活動体験の紹介や、新型コロナウイルス感染拡大防止を図る中で、いまできることとは何だろうか？ということについて問題提起を行いました。

私は第２回の８月20日の日程でボランティア入門講座に参加させていただきました。講座は全員の自己紹介から始まり、和やかな雰囲気でスタートしました。講座に参加している人は、ボランティアをしてみたいけれど何をしたらよいかわからなかったという人から、ボランティア経験が豊富な人までさまざまな理由で集まったメンバーでした。私はオンライン講座に参加したのは初めてでしたが、チャット機能を使ったり反応ボタンを使ったりと受け身だけで終わらない参加型のイベントだったのでとても楽しく学ぶことができました。

まず初めに、Zoom のチャット機能を使いみんなのボランティアに対するイメージを出しました。オンラインならではのチャット機能を使った交流は、意見を出しやすくみんなの答えの多様性がひと目でわかります。チャットには“困っている人を助ける”という言葉から、“人とつながる”、“居場所になる”という私の想像していなかった言葉まで出てきました。ボランティアの支援をするという部分だけでなく、自分がボランティアをすることで人との交流を通して新しい仲間ができ、時には今後のボランティア活動につながるようなきっかけを得られて自分の居場所となる、という新しい視野に気が付くことができました。本講座でも交流や雑談を通して一緒に活動をしていくつながりを生み出すきっかけになりました。

その後はクイズ形式で、解説とともに楽しくボランティア活動を学びました。

私は講座を通して特に心に残っていることが三つあります。一つ目はボランティア活動

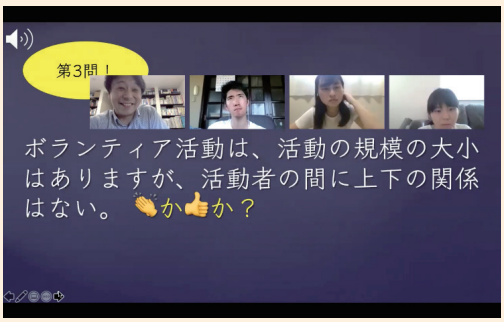
とは何か特別な分野や種類に特化するものではないということです。清掃、福祉、災害、オリンピックなどの種類のものだけがボランティア活動なのではなく、イベント運営のお手伝いなど他にも種類はたくさんあります。私も自分で気が付いていないだけで身近なところでボランティアをしていることに気が付きました。何からはじめれば良いか分からないという人も、難しく考えず自分の好きなことや興味のあることから気軽にボランティア活動を始められるということを学びました。

二つ目はボランティアで一番重要なことは自発性である、ということです。ボランティア活動の4原則では自発性、無償性、公共性、先駆性があるということを知りましたが、中でも自ら進んで行動しようという気持ちがボランティアでは一番大事なのです。ボランティア活動に参加する側、イベントを企画する側のどちらの立場でも、義務感をあまり抱くことなく自発性を発揮できるような場を選び、提供することが大切だと感じました。

三つ目に述べたいことは、ボランティアをする上で気を付けたいことです。ボランティアをしていると、現状をよくするためにまだ自分には何かできるのではないか、と考えすぎてしまうことがあると思います。しかし、自分が無理をしてしまうと、相手もつらいと感じてしまいます。そのことを念頭に置いて、無理をしすぎないことも大事だと教えていただきました。

最近のコロナ禍では海外に行ったり大勢の人が集まったりすることはできず、思うようにボランティア活動ができないということが多いと思います。私も昨年からボランティア支援室サポートスタッフとして多くの人から刺激をもらったので、2020年は実際に足を運んでさらに活動の幅を広げていきたいと思っていました。しかし、新しい生活様式を受け止め、家にいながらできることをしたいと思っています。本講座もオンラインで実施していただき、新たな視野を持ちボランティアの基礎知識を習得することができました。私は、この期間をコロナが収まったときのための蓄積期間だと思い、オンラインイベントに参加したり情報収集をしたりして今だからできることを探していきたいと思います。今回のボランティア入門講座はボランティア活動を始める前、またはボランティア活動を見直すことのできる良い機会になったと思います。最後に日比野さんから教えていただいた、ボランティア活動を「手段」として社会に関わるというメッセージを忘れずに、今後も活動していきたいです。

（ボランティア支援室サポートスタッフ 宮下 亜美）



ボランティアカフェ ONLINE　企画概要

企画概要

実施方法	開催日	企画名	ゲスト他
オンライン	7/20（月）	「あつまれ！国際ボランティアやってみたい人」第１回	赤池 稀未さん（東洋大学学生、国際ボランティアサークル Salamat 代表）
オンライン	7/27（月）	「あつまれ！国際ボランティアやってみたい人」第２回	
オンライン	8/18（火）	「子どもが好きな人、大集合！」第１回	久保 穂華さん（東洋大学学生、NPO 法人 Learning for All 学生ボランティア）
オンライン	8/25（火）	「子どもが好きな人、大集合！」第２回	
オンライン	9/3（木）	「子どもが好きな人、大集合！」第３回	早川 七海さん（プレーワーカー、こどもの声プロジェクト代表）
オンライン	9/7（月）	「わたしたちにできる SDGs アクション！」第１回	東洋大学 TIPS の皆さん ・三浦　央稀さん（TIPS 代表） ・山本　亜美さん ・髙橋　由奈さん ・山崎　翼さん
オンライン	9/14（月）	「わたしたちにできる SDGs アクション！」第２回	
オンライン	11/7（土）	「意外と広い、ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」第１回	賀上 桜子さん（東洋大学学生、バリアフリーサークル歩み）
オンライン	11/23（月）	「意外と広い、ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」第２回	
オンライン	11/28（土）	「意外と広い、ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」第３回	賀上 桜子さん 髙本 恵さん（株式会社 LITALICO LITALICO ワークス札幌大通、東洋大学卒業生） 山本 詩菜さん（高知大学学生、社会福祉法人福祉楽団 内定者） 平岩 なつみさん（福祉 KtoY 代表、コミュニティデザイナー）
オンライン	12/9（水）	「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」第１回	赤羽 真萌さん（東洋大学学生、IVUSA 白山クラブ）
オンライン	12/16（水）	「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」第２回	
オンライン	12/24（木）	「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」第３回	赤羽 真萌さん　沼能 奈津子さん（旅行代理店 エコ・スタディツアー企画担当）
オンライン	2/15（月）	「町で、森で、海で～環境活動で見つけるジブンゴト～」第１回	小山 貴理人さん（東洋大学学生、環境系サークルエコボラ） 大石 百音さん（北海道教育大学函館校学生、アースデイ函館実行委員会） 相良 菜央さん（I.C.E.R.C Japan（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）代表）
オンライン	2/22（月）	「町で、森で、海で～環境活動で見つけるジブンゴト～」第２回	
オンライン	3/2（火）	「わたしの3.11、あなたの3.11～震災10年と、これから～」第１回	渡邉 蛍都さん（東洋大学学生、学ボラ TOP 大船渡、ボランティア支援室サポートスタッフ） 那須 彩乃さん（大正大学学生、NPO 法人きっかけ食堂、一般社団法人未来の準備室） 沼能 奈津子さん（旅行代理店エコ・スタディツアー企画担当）
オンライン	3/9（火）	「わたしの3.11、あなたの3.11～震災10年と、これから～」第２回	
オンライン	3/16（火）	「わたしの3.11、あなたの3.11～震災10年と、これから～」第３回	

6 ボランティアカフェ ONLINE

国際編

「あつまれ！国際ボランティアやってみたい人」第１回・第２回

リソースパーソン（共同企画者）	赤池 稀未さん（東洋大学学生、国際ボランティアサークル Salamat 代表）
モデレーター	日比野 勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	第１回：2020年７月20日（月）12:20～13:00 第２回：2020年７月27日（月）12:20～13:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする ・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする
参加者数	第１回：６名 第２回：８名

活動内容（概要）

ボランティア支援室では、例年月に１～２回程度、お茶やお菓子などを囲みながら気楽な雰囲気でボランティア･社会貢献活動に関する話題に触れることのできる機会として「東洋大学ボランティアカフェ（以下、ボラカフェ）」を開催しています。新型コロナウイルスの影響により、今回初めてオンライン環境下での開催となりました。

オンラインによるボラカフェ開催にあたり、参加者間のつながりを築くことを重視して企画を構成しました。そのため、今回のボラカフェでは初の２回連続開催とし、１回目の開催で参加者同士の交流に時間を充て、２回目でリソースパーソンの話を聞きテーマについての認識を深めていくことを目指しました。参加者も東洋大学の他、高知大学や北海道教育大学函館校からも集まり、全国どこからでも参加ができるオンラインイベントの特性を打ち出すことのできた企画となりました。

１回目の開催は「サイコロトーク」を行い、モデレーターがアプリ上で振ったサイコロの出た目の数字ごとに設定されたお題に沿って、参加者が話をするという形で進み、参加者間の交流を深めました。

２回目は、序盤にアイスブレーキング（雰囲気ほぐし）のアクティビティとして「ご当地自慢フォトトーク」を実施。予め参加者に、出身地・在住地などにまつわる写真を１枚用意していただき、その写真にまつわるエピソードをお話しいただきました。東洋大生も香川県や福岡県からオンラインで参加しており、日本各地から参加者が集った企画ならで

はの盛り上がりを見せました。

赤池さんのお話しは、国際ボランティアサークル Salamat の紹介にはじまり、Salamat の活動を通じて訪れるスラム街での子どもたちとの触れ合いの中で感じたことに話が及びました。目の前で関わっている子どもたちは、Salamat の学生がそこを訪れることによって笑顔を見せるものの、スラムの取り巻く社会環境に対して、それを変えられないという無力感を感じたことがあったと赤池さんは話していましたが、活動中に先輩にボランティアについて尋ねたところ、返ってきた言葉が「Have a great hobby」という言葉だったのだそうです。「ボランティア活動を、趣味のようなものだと考えているんだ」というニュアンスを、その先輩は込めたのだとか。

ボランティア活動や NPO・市民活動が広がりを見せ、一般的になるにつれて、成果主義的な側面が強まってきている傾向があると筆者は感じることがあります。もちろん、社会課題の解決を図るという意味において、成果にこだわることも大切ですが、「業務」や「ビジネス」とはまた違った、無償であるがゆえの自由度の高さ、柔軟性をもって関われるというボランティア活動の特性もまた、大事にされるべきであると考えます。

ボランティア支援室という「場」も、学生の皆さんに構えずふらっと立ち寄ってもらいたいというコンセプトとしていることや、「ボラカフェ」という緩やかな「場」も、改めて意識化してみるとそんな「hobby」としての感覚を大切にしていたのかも知れないと、赤池さんのお話から教えてもらったように思いました。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野　勲）

子ども編

「子どもが好きな人、大集合！」第１回・第２回

リソースパーソン（共同企画者）	久保　穂華さん （東洋大学学生、NPO 法人 Learning for All 学生ボランティア）
モデレーター	日比野　勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	第１回：2020年８月18日（火）12:00～13:00 第２回：2020年８月25日（火）12:00～13:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする ・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする
参加者数	第１回：８名 第２回：９名

活動内容（概要）

今年度のボランティアカフェは、複数回のシリーズ開催を通じ、参加者間の交流を重視して内容を構成。参加者も東洋大学の学生のみならず、高知大学や山形大学、北海道教育大学函館校からも迎えました。

８月18日に開催した1回目では、カードゲーム の要領で、参加者の「子ども時代」を紹介し合いながら交流を深めました。８枚のカードには、それぞれお題が記されており、リソースパーソンがピックアップしたカードに基づき、参加者が話をする形で進めました。初めて出会う人が互いに親しみを感じられるだけでなく、既に一定の関係が築かれている間であっても、よりよく相手を知るきっかけとなりました。

８月25日開催の２回目では、リソースパーソンの久保さんに、NPO 法人 Learning for All の学習支援ボランティア活動を通じての子どもたちとの関わりについてお話しいただきました。

以下、久保さんからの報告です。

今回のボラカフェでは、私自身が子どもと関わってきた経験やそれに対する思い、実際にボランティア活動をしている Learning for All の活動紹介や実際の体験談をお話ししました。現在私は、NPO 法人 Learning for All に学生ボランティアとして関わっています。私は「発展途上国の子どもの貧困」に興味を持ち、東洋大学国際学部国際地域学科に入学しました。入学後、国際ボランティアサークル Salamat（フィリピンの子ども達の支援を行う）で活動し、子どもの貧困から発展する課題は金銭的な問題にとどまらないということを学びました。特に、貧困など子どもが抱えるさまざまな課題が子どもの心理に与える影響に興味を持った私は、学童保育でアルバイトを始めました。もっと一人ひとりの子どもの成長に寄り添った活動をしたいと考えていた時に出会ったのが、Learning for All でした。

Learning for All は、子どもが抱える様々な問題や課題を本質的に解決することをミッションに掲げて活動している団体です。学生が参加できるボランティアは、学習支援と居場所支援という二つの形があります。私が参加している学習支援の活動では、１人の教師が１～３人の小中学生の子どもと向き合い、週に１回、学習指導や生活指導を行います。活動を通して、一人の子どもと向き合う時間が長いからこそ難しいこと、嬉しいことを経験しています。実際に、私の担当する子どもが私に心を開いてくれるまで時間がかかりました。その経験から、子どもの表面的な言動だけではなくて、その奥にある思いを考えることが大切だと学びました。今後も子どもと向き合い、子どもの「こうしたい！」に寄り添う存在になれるよう頑張っていきたいと思います。

ボラカフェに参加してくれた皆と自分の子ども時代を話すことは、新鮮な体験でした。また、みんなからの感想で「意外と子どもと関わったり、考えたりする機会は多くないので、新鮮だった」という感想が多かった印象があります。今回のボラカフェで何か子どもと関わる経験につながることがあったらいいなと思います。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター　日比野　勲
リソースパーソン　久保　穂華）

【参加者からのコメント：
森田　千智さん（東洋大学学生、NPO 法人 Learning for all 学生ボランティア）】

私は今年の春から NPO 法人 Learning for all(以下 LFA) で学習ボランティアをしている縁で、今回のリソースパーソンの久保穂華さんにご紹介いただき、今回初めてオンラインボラカフェに参加しました。

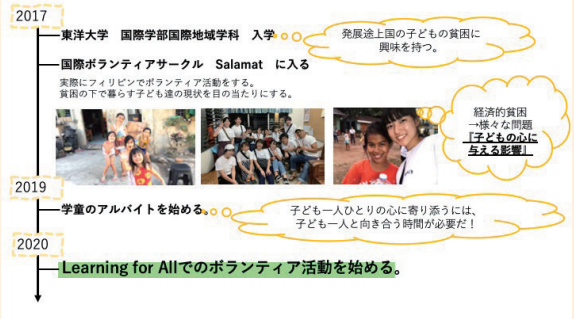
今回は子どもや教育に関心のある、広い地域からの学生が集まっていて、お互いの子ども時代の経験や、いまの子どもとのかかわり方などを話しながら和気あいあいと交流ができました。地方の大学生の方々の子どもに関わるボランティアについての経験も興味深く、子ども分野のボランティア活動に関する視野が広がりました。

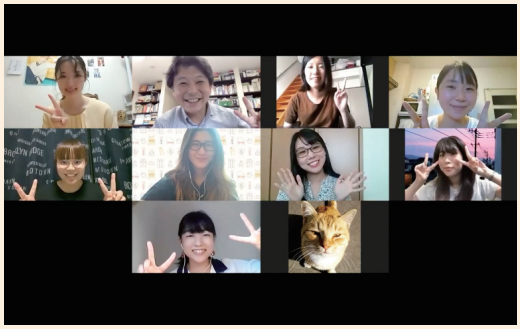
２回目の開催となった25日は、真摯に子どもと向き合ってきた久保さんだからこそできるお話を聞き、一緒に活動していた頃のことを思い返し、私は春のプログラムで何を子どもに届けられたのかと改めて考えなおしました。

今回、私自身もプログラムでの経験を話させていただき、自分の経験を聞いてもらえたことで、自分の子どもや教育に対する思いを再確認できる機会となりました。

今年はコロナ禍で、当初予定していた学習ボランティアもオンラインでのスタートでしたが、よいご縁に恵まれ、オンラインで出会いや学びが広がる機会に巡り会えました。

そして何よりも、LFA での Zoom を用いた研修及び学習支援活動もそうでしたが、このボランティアカフェでも、ネットを介した中でも笑顔溢れる温かな交流が生まれる『居場所』ができることに感動しました。機会があれば、また参加させていただきたいです。ありがとうございました。





子ども編

「子どもが好きな人、大集合！」第３回

スペシャルゲスト	早川 七海さん（プレーワーカー、こどもの声プロジェクト代表）
モデレーター	日比野 勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	2020年９月３日（木）　12:00 ～ 13:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする ・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする
参加者数	８名

活動内容（概要）

８月に２回開催したボラカフェ「子ども編」の追加開催となった第３回では、学生時代にボランティア活動に取り組み、卒業後ボランティア・社会貢献活動に関連する仕事に就いた方を迎え、学生時代のボランティア活動がキャリア形成に影響を与えたロールモデルを示すというコンセプトで企画しました。

今回のゲスト、早川七海さんは「プレーワーカー」として活動していますが、プレーワーカーとは、プレーパーク（冒険遊び場）において子どもたちの遊びをサポートする専門スタッフのことです。

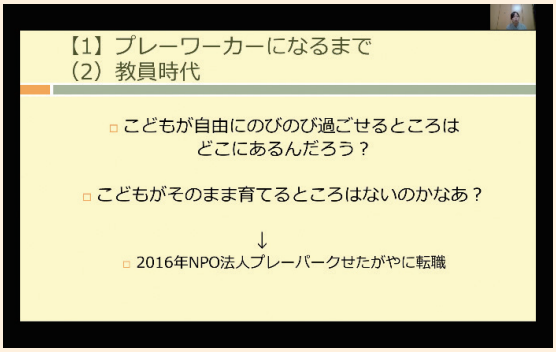
近年、近隣住民から公園で遊ぶ子どもたちの声が「騒音」として疎まれるような事例も見られるようになり、一部の公園ではボールあそびをはじめとして「禁止」される事柄が増えています。70年代、地域で子どもたちがのびのびと自分たちであそびを創造し、豊かな育ちを願った市民の行動から、行政との協働に発展し、日本にプレーパークが生まれました。

早川さんは埼玉大学在学中、学内の放置自転車を修理し、東ティモールやモンゴル、東日本大震災で被災した福島県いわき市などへ送るボランティアサークルで活動し、卒業後小学校教員となりました。しかし「子どもたちの豊かな育ち」を考えたときに、学校にいて感じた違和感がきっかけとなり、プレーパークの世界に飛び込みました。日本のプレーパーク発祥の地・羽根木プレーパークを運営するNPO法人プレーパークせたがやに入職しプレーワーカーとして活躍したのち、現在は首都圏近郊の複数のプレーパークに、フリーランスのプレーワーカーとして関わっています。また、プレーワーカーとして子どもたちと関わる中で、聞こえてきた子どもたちの声を可視化し、大人たちや社会に向けて発信する「こどもの声プロジェクト」を立ち上げ、活動を行っています。

今回は「こどものあそび」を切り口に、子どもたちとの関わり方について考えていきましたが、そもそも「あそび」とは、なんらか目的のために遊ぶのではなく、各々が「やりたい」と思うことをするものです。自己決定し自らの責任のもとで楽しむという過程を通じて、人生を自ら切り拓いていくことのできる力となります。

「あそび」とは、一見無駄に見えるようでいて、それがなければうまく回らないもののことを指します。「無駄」という「余白」を、効率化・合理化の名のものに埋めてしまい、心のゆとりがもてなくなっていないだろうか？ハプニングやリスクが発生することを恐れて、自由な挑戦を止めてしまうよう誰かに働きかけてはいないだろうか。そんなことを考えさせてくれるボラカフェでした。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター　日比野　勲）



SDGs 編

「わたしたちにできる SDGs アクション！」第１回・第２回

リソースパーソン（共同企画者）	東洋大学 TIPS の皆さん ・三浦　央稀さん （TIPS 代表） ・山本　亜美さん ・髙橋　由奈さん ・山崎　翼さん
モデレーター	日比野　勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	第１回：2020年９月 ７日（月）14:00 ～ 16:00 第２回：2020年９月14日（月）14:00 ～ 16:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする ・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする
参加者数	第１回：13名 第２回：16名

活動内容（概要）

2016年から2030年の15年間に、国連加盟193カ国が達成すべき目標を掲げた SDGs（持続可能な開発目標）。前身ともいえる MDGs（ミレニアム開発目標）が、どちらかというといわゆる途上国が目指すべき目標を掲げていたのに対し、SDGs では先進国として果たすべき責任が目標として示されたこともあり、市民･NGO セクターのみならず、企業･行政セクターの間でも関心事となっています。

社会課題にアプローチする学生ボランティア団体においても、SDGs は親和性の高いテーマであり、ボランティア活動に関心のある本学学生の間でも SDGs へ一定の関心が向けられていますが、一方で具体的にどのように SDGs 達成に向けたアクションに取り組めば良いかわからないという声も聞かれます。

今回のボラカフェは、東洋大学で SDGs 達成に向けたプロジェクトを展開している TIPS を迎え、SDGs に向けた具体的なアクションへの関わり方のヒントを学ぶことを目的に開催しました。

７日に開催した第１回では、参加者に予め SDGs にちなんだ（と自分で考える）写真を１枚用意いただき、それをビデオ会議システムのバーチャル背景または画面共有の機能を使って紹介するというアクティビティを実施しました。ある人は「質の高い教育」のイメージとして、ある人は自身の留学先の写真を示しながら、SDGs を語る人の中に社会課題の当事者がいなかったことを問題提起し、またある人は自身の故郷の写真を紹介しながら、グローバル化の渦中ローカルな視点を持ちながら、住みつづけられるまちづくりに貢献したいという目標を語るなど、参加者の数だけ多様な SDGs の視点があるのだということを実感できるアクティビティとなりました。

14日に開催した第２回では、TIPS の皆さんにその取り組みを紹介していただきながら、ブラウザ＆スマートフォンアプリ「Kahoot!」を活用した SDGs クイズを実施しました。

TIPS は、SDGs とダイバーシティ（多様性）を軸に活動を行っていますが、何よりも大切にしていることは、活動を通じての学生の成長です。SDGs とダイバーシティを軸に据えた意味での「よりよい社会」の実現を目指すために、ものごとの本質を見つめ、先入観や偏見にとらわれず、自分たちで知り、考え、行動することのできる「担い手」となれるべく成長できる場をつくることを目指しています。そのことは、東洋大学の考える「哲学する」こと[*1]にも相通じるものであるといえます。

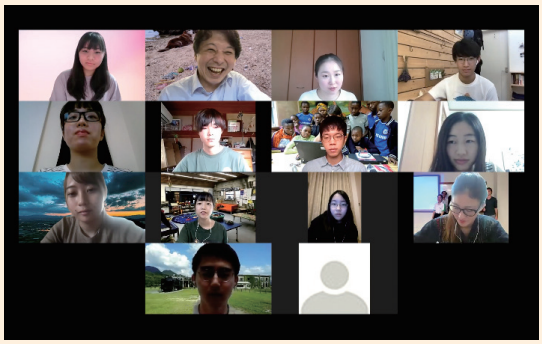
TIPS のウェブサイト[*2]では、TIPS の SDGs に関する取り組みや、白山キャンパスをサステイナブル（持続可能）なキャンパスにしていくためのビジョンが示されており、この日のボラカフェでも紹介されました。

キャンパスライフを送る中で気がついたなにげない疑問。その疑問を本質的に考え、向き合い行動する中で、気がつくと SDGs アクションになっている。わたしたちにできる SDGs アクションとは、そのために何かしようと思って行動することよりも、もっと身近なところにヒントがあるのかも知れません。

*１：「哲学する」こととは、「先入観や偏見にとらわれず物事の本質に迫って、自らの問題として深く考えることととらえ、その営みの下で深く社会の課題に取り組む」ことであるとしています。（引用元：『「哲学する」姿勢が世界を生き抜く力になる』竹村牧男談、東洋経済企画広告制作チーム制作、東洋経済オンライン、2016）

*２：https://toyotips.themedia.jp/
上記ウェブサイトにおいて、今回のボラカフェにリソースパーソンとして参画したことのレポートが掲載されています。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター　日比野　勲）



福祉編

「意外と広い、ふくしの話 ～ふだんの、くらしの、しあわせを～」第1回・第2回

リソースパーソン（共同企画者）	賀上　桜子さん （東洋大学学生、バリアフリーサークル歩み）
モデレーター	日比野　勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	第１回：2020年11月 7日（土）10:40～12:10 第２回：2020年11月23日（月）10:40～12:10
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする ・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする
参加者数	第１回：10名 第２回：９名

活動内容（概要）

11月度は福祉編として、３回シリーズを企画し、第１回・第２回を以下の通り開催しました。

７日に開催された第１回は、バリアフリーサークル歩みの交流企画においても実施された、「カタカナ語のものを、カタカナ語を使わずに説明する」ゲームを３チーム対抗で行い、参加者間の関係を深めました。

23日に開催された第２回は、リソースパーソンの賀上さんより、バリアフリーサークル歩みの取り組みについてお話しいただきました。

バリアフリーサークル歩みは、現在40名ほどのメンバーが集まり活動を行っています。

2019年度は障害者スポーツボランティア活動や、メイン活動の１つに位置づけられる大学のオープンキャンパス時の移動支援活動、学園祭（白山祭）でのミニパンケーキ販売、年２回行われる合宿などです。今年度はコロナ禍でここに挙げられているような対面型の活動は行うことができませんでしたが、オンラインツールを活用しメンバー間で顔を合わせながら、ボランティア支援室や株式会社ミライロとの共同企画などの実施を予定[*1]しています。

はじまりは、創立者のオープンキャンパス時の経験にありました。車椅子に乗って生活していた創立者がオープンキャンパスへの参加を申し出たところ、別日程での参加を担当者に勧められました。その対応に配慮を感じたものの、オープンキャンパスを通じて感じたかった大学の雰囲気や、共に入学しようとしている学生の様子が、別日程への参加では感じ取れないということに不安を感じたそうです。そこで思い立ったのは、学生がオープンキャンパスの案内役となり、障害をもつオープンキャンパス来場者に対応すること。そうすることで、学生はバリアフリーについて考えながら行動することを通じて学びを深め、来場者は大学の雰囲気を掴むことができ、入学後に授業がはじまってからのキャンパスライフのイメージをより膨らませやすくなり、安心感を得られることにつながるからという

考えからです。

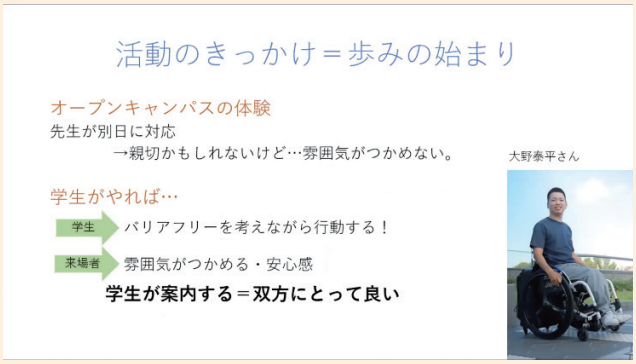
こうして2013年から活動を続けている歩みですが、障害領域に留まらない多様性を大切にするという価値観を、無意識的であってもメンバー間で共有していて、そのことが場にも現れているというメンバーからのコメントもありました。

今回は山梨学院大学からの参加者があり、山梨学院大学においてもスポーツで活躍する学生に対するピアサポート体制があるという事例の紹介から、学生によるピアサポートに関する話題へと発展していきました。山梨学院大学においても従来は教職員によって行われていたサポートが、数年前から学生によるピアサポート活動へと発展し、近年こうした動きは全国的に見られるようになってきています。それはまさに、歩みが発足した経緯でもある「学生にとっても、当事者との関わりを通じて大きな学びが得られること」が、一般的にも認知されたことにもよる広がりであるのではないかと考えられます。

賀上さん発表の最後の「誰もが暮らしやすい社会とは？」という問いについては、十分話し合う時間が取れないままにボラカフェは終了することになりましたが、この問いに対する思索は、次回第３回へと引き続いていくことになりました。

*１：本企画実施当時の記述。当該企画は2020年12月13日に実施されました。（本書60ページを参照）

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野　勲）



福祉編

「意外と広い、ふくしの話 ～ふだんの、くらしの、しあわせを～」第3回

リソースパーソン（共同企画者）	賀上　桜子さん （東洋大学学生、バリアフリーサークル歩み）
スペシャルゲスト	髙本　恵さん（株式会社 LITALICO　LITALICO ワークス札幌大通、東洋大学卒業生） 山本　詩菜さん（高知大学学生、社会福祉法人福祉楽団 内定者） 平岩　なつみさん（福祉 KtoY 代表、コミュニティデザイナー）
モデレーター	日比野　勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	2020年11月28日（土）9:30～12:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする ・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする
参加者数	17名

活動内容（概要）

第３回は11月ボラカフェで１番多くの参加者が集まりました。お話をしてくださるのは、福祉に携わる仕事をしている３名のスペシャルゲストです。

１人目。東洋大学を卒業後北海道へ渡り、社会福祉法人ゆうゆう（生活介護事業所）を経て現在株式会社 LITALICO で就労相談員として働く髙本さんは、「○○さん」をキーワードにお話をしてくださいました。「みんな」とは誰か、福祉とは誰のためにあるのかということを自らに問い、「それは『○○さん』というたった一人の人のため」であるのではないか、ということをお話しいただきました。仕事を通して得た経験と考えたこと、特に自閉症の方が書いた個性的な文字が印象に残っています。関わる具体的な相手を考えることから、１人の人を思うことの重要さを感じました。

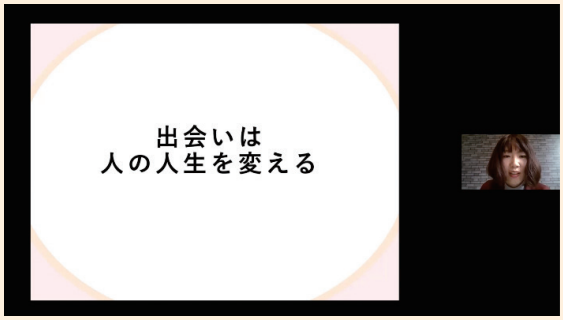
２人目は社会福祉法人福祉楽団に内定した高知大学4年生の山本詩菜さん。理学部で地震について研究しており、一見福祉とは無縁そうでした。しかし、災害ボランティア活動を通じて聞いた生の声と、日本語パートナーズ派遣事業（主催：国際交流基金アジアセンター）での経験を通して、「社会的マイノリティ」を感じたそうです。この社会に対する生きづらさが「障害」と結びつき、福祉の世界で働くことに繋がったというお話でした。

３人目は平岩なつみさん。福祉を「ふだんの　くらしの　しあわせ」と考え、デイサービス職員の他に、幸せを創造するコミュニティデザイナーとしても活動されています。きっかけは周りを見渡すと福祉職で働く人がいなかったこと。福祉を目指す若者のキャリア支援が必要と思い、出会いの場を創出するべくご縁を求めてさまざまな場所に出向いているそうです。それらの想いが、福祉職のイメージを変える「福祉 KtoY」の立ち上げ、医療福祉系コミュニティ「WelCaMe」の運営に表れているのだと感じました。

福祉を学んだ人だけが福祉の道に進む、あるいは福祉の道に進んだ人はみんな同じよう

な経歴をたどってきているとは限らないと改めて思うような回でした。参加者の中には「福祉」への関心が高まり、選択肢の多さに驚きと発見をした人も多いのではないでしょうか。スペシャルゲストの個人、海外、防災、キャリアという別の切り口からのお話は、全て「福祉」と結びつきました。「福祉」はより身近にあり、意外と広いのだと感じました。

（東洋大学学生、リソースパーソン　賀上　桜子）



旅編

「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」第1回・第2回

リソースパーソン（共同企画者）	赤羽　真萌さん（東洋大学学生、IVUSA 白山クラブ）
モデレーター	日比野　勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	第１回：2020年12月 ９日（水）10:40～12:10 第２回：2020年12月16日（水）10:40～12:10
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする ・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする
参加者数	第１回：３名 第２回：９名

活動内容（概要）

好きなことや趣味を訊ねられて、「旅」や「旅行」を挙げる方は少なくないと思いますが、「旅」も形を変えると、スタディツアーやワークキャンプという形で、ボランティア・社会貢献活動につながることがあります。今回のボラカフェは、そうした「好きなこと」で関わるボランティア・社会貢献活動を提案するというコンセプトで実施しました。

アイスブレーキングの意味合いを込めた９日を経て、16日はリソースパーソンの赤羽さんより、新潟県関川村への「旅」の話題を共有いただきました。

「旅」といっても、いわゆる観光旅行とは趣が違い、赤羽さんが所属する学生団体IVUSAで取り組む、関川村での地域活性化活動に伴うものです。

IVUSAの関川村での活動は、過去に関川村出身のメンバーが所属していたことにありました。人口約5300人の関川村もまた、過疎化の影響が深刻化し消滅可能性都市にも加えられているという状況の中で、かつてIVUSAで活動をしていた村出身の学生の「自分の故郷を元気にしたい」という想いから、村の年中行事である「大(たい)したもん蛇(じゃ)まつり」の運営補助をはじめたことがきっかけとなって始まっています。そうした意味では、この活動もまた当時の学生が当事者として感じていた地域課題をなんとかしたいと思い、自発的にはじめられたものです。2014年にはIVUSAと関川村との間に、地域連携協定が結ばれ、相互に協力して地域振興を図ることや、災害時に協力することなどを確認するに至り、今年はIVUSAが関川村での活動を開始してから17年目を迎えました。

「大(たい)したもん蛇(じゃ)まつり」は夏に行われる年中行事で、全長82.8メートル、重さ２トンにも及ぶ大蛇を、神輿のように担ぎ、街を練り歩くお祭りです。82.8メートルという長さはギネス記録にも認定されていますが、この数字は1967年８月28日の羽越大水害の惨事を次代へと語りつぐために設定されたものとのことです。

この祭りの運営に関わるために村を訪れるIVUSAメンバーは、数日間村に滞在し祭り以外にも村でさまざまな活動を行います。2019年度は４日間滞在し、「孫の手ボランティア」と呼ばれる、村の方々の手の届かない地域の困りごとを学生が「孫の手」となって手助けするという活動や、村のお祭りの活性化について村民の方々とともに語り合う「未来サミット」の開催などを行います。IVUSAの関川村での活動は、夏だけでなく冬にも行われ、赤羽さんも冬は「七ヶ谷雪ほたる祭り」の活性化活動に関わった経験があり、夏同様に数日間村に滞在しながら、村民とともに村を盛りあげます。

関川村では、長年の活動により学生と地域との間に信頼関係が築かれてきました。学生が、自ら考え「自分ごと」として地域に関わるためには、地域で受け入れをされている方々が学生たちを尊重し、「任せる」場面を創出していることが大きいのではないかと考えます。「横」につながるボランティア活動を通してだからこそ、同じ関川村の未来を素敵なものにしたいという方向を、学生も地域の方々も一緒になって見ることができ、それが信頼関係を生むことにつながっているのではないでしょうか。

活動を通じて赤羽さんが魅力を感じるのは、関川村が自分にとっての第2のふるさとになるという感覚と、村の未来に関われるという実感を得ていることだといいます。そして、関川村で考えたこと、学んだことを大学のキャンパスのある朝霞市周辺のコミュニティ形成にも活かせるのではないか、という気づきを得ることができたといいます。非日常の「旅」の経験から、日常生活を送る中では見えてこなかった日常の姿が見えてくる、そんなきっかけになるのかも知れません。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野　勲）

旅編

「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」第３回

リソースパーソン（共同企画者）	赤羽　真萌さん（東洋大学学生、IVUSA 白山クラブ）
スペシャルゲスト	沼能　奈津子さん（旅行代理店 エコ・スタディツアー企画担当）
モデレーター	日比野　勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催日時	2020年12月24日（木）9:30～12:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする ・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする
参加者数	11名

活動内容（概要）

12月24日に行われた第３回目のボラカフェは、「旅」のテーマのごとく、出身・現住、全国各地からオンライン上に集まりました。今回お話をしてくださったのは、旅行代理店で働いている沼能さんです。

沼能さんは「多様化する旅のかたち」をテーマに自身が担当しているスタディーツアーと絡めてお話をしてくださいました。スタディーツアーとは一般的に知られているレジャー旅行に、変化する社会の中で大切にされてきた「テーマ性」を加えたイメージであり、沼能さんの旅行代理店では、『私と社会の「豊かな未来」につながる旅』を定義として、学びや持続可能性がある旅を提供しています。具体的には、地域×交流×まちづくりで福島県の資料館や東日本大震災を考えるプログラムなどです。旅行に行くことが学びではなく、行く前そして行った後にも自分ごととしてその地域を考えられるツアーだと実感しました。

話の後半ではスタディーツアーに関わってからの学びにについて３つのお話をしてくだ

さいました。

１つは「なんでもスタディ！」。現地に行った時の少しの心の変化に対してなんで？どうして？と素直な気づきが学びになると話していたのが印象的でした。

２つ目は「魅力発信だけではない旅の可能性」。旅行の楽しさだけでなく、現状や課題を把握する必要があると話してくださいました。

そして３つ目は「お互いの持続性を考える」。現地に行く私たちはただ支援するだけではなく、生活に私たちが介入することで自立を妨げてしまうのではないかと考える大切さを感じました。

そして最後には、今のかたちということで、オンラインで行われている旅についての紹介で話を締めてくださいました。

今回のボラカフェでは旅は知るきっかけになると学ぶことができました。行きたい！楽しい！という旅も、なんで？どうして？と疑問持つことで知らなかったこと、見えていなかったことを知るきっかけになります。『旅＋ボランティア＝？』の答えは、１つの正解はなく、感じ方・学んだことによって様々な答えがあるのではないでしょうか？身近である旅には、多くの学びが転がっているように感じました。

（東洋大学学生、IVUSA 白山クラブ 赤羽　真萌）

環境編

「町で、森で、海で～環境活動で見つけるジブンゴト～」第1回・第2回

リソースパーソン（共同企画者）	小山　貴理人さん（東洋大学学生、環境系サークルエコボラ）
スペシャルゲスト	大石　百音さん（北海道教育大学函館校学生、アースデイ函館実行委員会） 相良　菜央さん（I.C.E.R.C Japan（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）代表）
開催日時	第１回：2021年2月15日（月）16:30～18:00 第２回：2021年2月22日（月）16:30～18:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・環境活動の多様性について、実践者からの話を聞くことにより実感し、自分にあった環境活動を見つけるきっかけとすること ・さまざまな地域、活動を行っている人同士が対話を通じて交流を深め、関係を築くきっかけとすること
参加者数	15日：８名、22日：７名
協力	東洋大学環境系サークルエコボラ

活動内容（概要）

気候変動、そのことに伴うとされる自然災害発生の頻繁化など、私たちの日頃の生活レベルにおいても地球環境問題を意識せざるを得ない場面が増えてきていると感じる昨今、SDGs の認知の拡大に伴い、それぞれのできる形で地球環境を意識した行動に共感が集まるようにもなってきています。

今回は、15日にスペシャルゲストとして北海道・函館から登壇していただいた大石さんに、22日にリソースパーソンとして共同企画を担っていただいた小山さんに、そして相良さんには15日・22日の両日に内容を分割して、それぞれお話しいただきました。

大石さんが活動するアースデイ函館実行委員会は、現在北海道教育大学函館校の学生団体として活動していますが、もともと「アースデイ」は1970年代にアメリカではじまった、地球環境問題についての認識を共有し、行動するためのムーブメントです。毎年４月22日を「アースデイ」として定め、この日の前後に世界中でさまざまな環境問題に対するアクションが行われます。日本では1980年代にアースデイがはじまり、全国各地で市民団体などによって実施されてきましたが、函館においては学生の手によって活動が展開され、子どもたちに自然に親しむきっかけを提供したり、ビーチクリーン活動を行ったりしています。（なお、近年の彼らの活動は、「まいにちがアースデイ」をコンセプトに、４月22日を必ずしも意識しない形で展開されています）

大石さんの出身は、流氷が流れ着くオホーツク海の町、紋別市。小中学生時代から、紋別市より地理的にも近いロシア・サハリンの青少年との国際交流活動に参加し、ロシアをはじめ海外への関心を深めます。大学入学後、NPO 法人 NICE を通じてモンゴルのワークキャンプに参加。雄大な自然に囲まれた中で生活する中、都市部ではストーブが要因とされるスモッグによる大気の汚染を目の当たりにします。９月からキルギスへの留学を予定しており、留学先でもアースデイを展開したいと意気込む大石さん。知らない土地に行き、自分の目でものごとを見ること、人と繋がること、そして自分自身を知ることの大切

さについてお話しいただきました。

小山さんが活動する東洋大学環境系サークル「エコボラ」は、主に文京区や北区などの自治体・商店会などの組織との協力のもと、地域密着型のボランティア活動を行う団体です。メンバーの興味関心を取り入れ、地域のさまざまな団体と連携しながら活動を行っています。

活動の１つが、文京区リサイクル清掃課が実施する「子ども用品とりかえっこ」事業のサポート活動です。子どもが大きくなるにつれて、不要になった子ども用品を交換する取り組みを文京区では行っており、ボランティア支援室にもリサイクル清掃課から相談が寄せられたことがありました。その他、文京区でのごみ拾いの活動や、商店街のイベントで子どもたちと遊ぶなど、多様な活動を行い、これらを通じてメンバーが具体的なアクションに参画できるように心掛けています。

地球環境問題というと、問題が大きすぎてどこから手をつければ良いかわからないということがありますが、まず自分たちの関わる地域を具体的に良くしていくことからはじめてみることで、社会が変わるきっかけとなるのかも知れません。

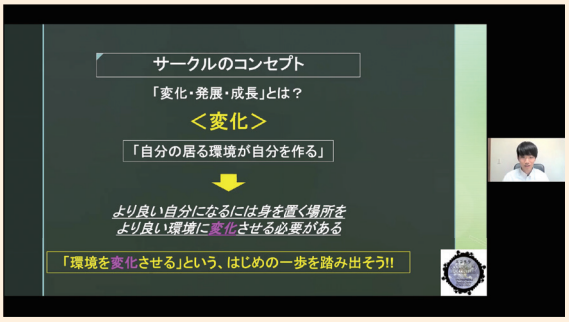
I.C.E.R.C（アイサーチ）ジャパンの活動は、町と海とで展開されています。

町での活動は、イルカ・クジラなどの鯨類についての理解を広めるため、鯨類調査員の方を講師に迎えたレクチャーや、子どもたちを対象とした環境教育活動、海での活動は、ビーチクリーン活動やイルカ・クジラの生態を見に行くウォッチングの活動などを行っています。

これらの活動は、「知る」「会いに行く」「大切にする」の３つの段階を意識して展開されています。イルカ・クジラについてまずは「知る」ことで関心をもち、野生のイルカ・クジラたちに「会いに行く」ことで彼らを取り巻く環境を感じ、その生態環境が私たちの暮らしと密接に関わっていることを実感することで、「自分ごと」としてイルカ・クジラのことを考えられることにつながります。レイチェル・カーソンが著した「センス・オブ・ワンダー」にも「知ることは感じることの半分も重要ではない」とありますが、五感を使って自分自身と地球環境との「つながり」を感じることで、たくさんのことに気づくことができるのだと思います。

最後に１つ。相良さんからボラカフェの中で、「イルカとクジラの違い、わかりますか？」との問いかけがありましたが、実はどちらも「クジラ」であり、大人になったときの体長が４ｍを超えるものをクジラ、超えないものをイルカと称するのだそうです。初めて知ることがたくさんあるボラカフェとなりました。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野　勲）



東北編

「わたしの3.11、あなたの3.11～震災10年と、これから～」第１回～第３回

リソースパーソン（共同企画者）	渡邉 蛍都さん（東洋大学学生、学ボラ TOP 大船渡、ボランティア支援室サポートスタッフ）
スペシャルゲスト	那須 彩乃さん（大正大学学生、NPO 法人きっかけ食堂、一般社団法人未来の準備室） 沼能 奈津子さん（旅行代理店エコ・スタディツアー企画担当）
開催日時	第１回：2021年３月 ２日（火）17:00～18:30 第２回：2021年３月 ９日（火）17:00～18:30 第３回：2021年３月16日（火）17:00～18:30
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	・ボランティア活動が社会において一般化するきっかけの一つとなった東日本大震災を取り上げ、その復興過程に関わるボランティアのロールモデルを示すことにより、ボランティア活動の多様な魅力を伝えること ・被災地域に関わる活動の話題を通じて、地域の過去・現在・未来の状況を掴み、参加者それぞれが自らの問題として考えるための素材を提供すること
参加者数	２日：22名、９日：10名、16日：17名

活動内容（概要）

2021年３月11日に東日本大震災から10年を迎えるにあたり、ボランティアカフェ東北編「わたしの３.11、あなたの３.11～震災10年と、これから～」を開催しました。

東北編は三回開催し、第1回では参加者同士の交流を図ることを目的としてアイスブレイクを行った後に、グループに分かれて2011年３月11日の出来事を振り返り、この10年の変化や、これからの10年について考え意見を共有しました。

第２回では東北に関わりのある那須彩乃さん、沼能奈津子さんの２人をゲストスピーカーとして迎えお話をいただき、話を聞く中で生まれた質問や感想を参加者全員で共有しました。

那須彩乃さんは東京生まれの大正大学４年生で、大学の地域実習を通して東北に関わり、東北に夢中になった経験をもとにお話をいただきました。この春大学を卒業し、福島県白河市の一般社団法人未来の準備室のスタッフとして新たなスタートを切りますが、実習に参加するまで特に接点のなかった東北が、大学生活の大半を占めるようになり、卒業後の進路を切り拓くまでに至りました。

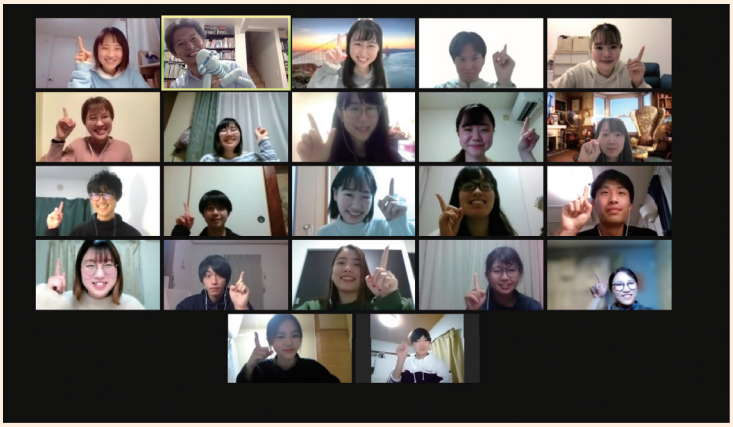
沼能奈津子さんは、福島県浪江町にあった自宅が、福島第一原子力発電所事故に伴い帰還困難区域に指定され、その経験を通じて自身に起こった変化や、その後のことについてお話をいただきました。特に、福島出身であることで、「被災者」としての役割を周囲から期待されることへの違和感を、率直にお話しいただきました。

第3回では、ボランティアやインターンの活動を通して東北に関わってきた東洋大学3年生の渡邉蛍都さんにお話をいただきました。高校時代、大船渡にボランティアとして足を運んだ際、「お客様」になってしまったことへの後悔から、大学入学後学ボラに加入し、TOP（東北応援プロジェクト）大船渡の活動に主体的に関わります。そこから、復興庁が主催する「復興・創生インターン2020」（オンライン開催）に参加。岩手県宮古市のホタテ漁師のもとでインターンを行った渡邉さんは「ホタテアンバサダー」として、宮古のホタテの魅力を、インターン終了後も発信し続けています。ボランティアカフェ内にお

いても、見事なホタテさばきを披露いただきました。

　ボランティアカフェ東北編には東洋大学の学生だけでなく、たくさんの地域から参加者が集まりました。
　当時のテレビはどんな事を報道していたのか、学校ではどんな変化があったのかなど、参加者一人一人が当時の事を思い出す事や、他者の経験を知ることができました。
　参加者の１人が「今10才にならないくらいの子は東日本大震災を体験していないから、自分たちが当時の事を伝えていかなければならない」と言っていた事が印象的でした。今回のボランティアカフェで参加者同士共有したことはとても価値があるものなのではないでしょうか。
　この10年の節目の捉え方は人それぞれだと思います。新型コロナウイルスの影響により、対面で会えない中でも東北に関心のある人が集まり、たくさんの思いを知ることができたこの「節目」はとても大切なものだと思いました。

（東洋大学学生、ボランティア支援室サポートスタッフ 中川 優子）



東洋大生がワークショップで考える SDGs 企画概要

企画概要

実施方法	開催日	企画名	講師他
オンライン	7/11（土）	東洋大生がワークショップで考える初めての SDGs	ファシリテーター：八木　亜紀子さん（認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR）） アシスタント：木村　明日美さん
オンライン	8/28（金）	「SDGs を自分ゴトとして考えてみよう」身近なものから世界とのつながりを考える	岩岡　由季子さん、中村　絵乃さん（認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR））
オンライン	10/3（土）	「環境問題から学ぶ初めての SDGs」	星野　智子さん（一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク）
オンライン	12/5（土）	「今知っておきたい世界のジェンダー問題と私たちの権利～ SRHR（性と生殖に関する健康と権利）を知っていますか？～」	柴　千里さん（公益財団法人 ジョイセフ）
オンライン	2/25（木）	「SDGs ゴール1『貧困』ってなんだろう？～日本での子育てとキャリア、ミャンマーこども支援の経験から～」	甲野　綾子さん (NGO　SOSIA　代表)

ボランティア支援室イベント

7 東洋大生がワークショップで考える初めての SDGs

講　　師	ファシリテーター： 八木　亜紀子さん（認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR）） アシスタント：木村　明日美さん
開催日時	2020年７月11日（土）　13:00 ～ 15:00
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	・SDGs の概要について学ぶ。 ・SDGs についての関心を高め、今後の更なる学びや行動に繋がるきっかけを作る。
参加者数	計23名 (学生18名、教員２名、ボランティア支援室スタッフ３名)

活動内容（概要）

ボランティア支援室における SDGs 推進の一環として、１年生や初めて SDGs を学ぶ学生を対象に「東洋大生がワークショップで考える初めての SDGs」と題したワークショップを開催しました。

今回のワークショップは、昨年のボランティア WEEK で開催した同ワークショップが好評であったことから、さらに多くの学生が SDGs について学び、関心を高めるきっかけを作ることを目的に、昨年同様に認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR）の八木亜紀子さんに講師をお努めいただき実施しました。

今回のワークショップは新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンラインでの実施となりました。

ワークショップではまず、今回の新型コロナウイルスに関して、感染が国内で広まり始めてからの約半年を振り返り、自分の率直な気持ちを語り合うことからスタート。「不安」や「くやしい」というネガティブな感情が語られる一方、自分に向き合う時間が出来たことを歓迎する気持ちや、何かの役に立ちたいという前向きな気持ちも語られました。同じ現象でも人によって感じ方が様々であること、時間の経過とともに感情が変化していくことを確かめ合いました。

お互いの気持ちを言葉にしてオンラインの場が少し和んだところで、15年前の世界と今の世界を比較する６つのグラフが登場。グループに分かれて、何についてのグラフかをクイズ形式で考えました。６つのグラフは、「１人あたりの CO_2排出量」や「所得の格差」、「女性の国会議席数の割合」などを示すもので、15年間でどのような変化があったのかを、ディスカッションを通して学び合いました。また続けて、その数値は今後どう変化していくと思うのかを意見交換しました。

世界の現状、そして過去15年における変化について理解を深めたところで、2030年に向けた課題解決の目標である SDGs について学びました。アジェンダ2030に記された今日の世界に対する「強い危機感」を受け取り、SDGs が示す「持続可能な開発」とはどういうことなのかを学ぶことで、私たちはこれから何をしなければならないのかを切実に考えさせられました。

参加者からは、「自分の考えを持とうと思えるきかっけになった。」、「SDGs を身近に感じられた。」という感想が寄せられた他、「17のゴールについて具体的に学びたい。」、「解決に向けて自分たちにできることを考えたい。」など、次の学びのステップへの意欲を感じるコメントが多く寄せられました。

ボランティア支援室では、引き続きより多くの学生が SDGs について身近に感じられるよう学びの場を提供するとともに、学生一人ひとりが自分の関心のある分野について更に学びを深め、課題解決に向けて具体的なアクションを模索し実行できるような機会を作っていきたいと思います。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター　山本　奈央）

「SDGs を自分ゴトとして考えてみよう」
～身近なものから世界とのつながりを考える～

講　　師	岩岡　由季子さん（認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR）） 中村　絵乃さん　（認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR））
開催日時	2020年８月28日（金）　11:00 ～ 13:00
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	・身近なものと社会問題とのつながりを知る。 ・SDGs について関心を深めるきっかけをつくる。
参加者数	25名 （内訳：学生21名、教員１名、ボランティア支援室スタッフ３名）

活動内容（概要）

ボランティア支援室では SDGs 推進の一環として、学生が SDGs について知り身近な問題として関心を深めるための学びの場を提供しています。本ワークショップは、初めて SDGs を学ぶ学生を対象とした学びの場として、今年度２回目の開催となりました。今回は、講師として認定特定非営利活動法人　開発教育協会（DEAR）より、岩岡さん、中村さんにお越しいただきました。

今回のワークショップでは、「身近なものから世界とのつながりを考える」という副題のとおり、“パーム油”に焦点を当て、私たちの身近な食品や日用品が作られる過程に潜む大きな社会問題について学びました。ワークショップの中では、“見えない油”と呼ばれているパーム油が、その扱い易さや価格の安さから、私たちが普段よく手にする食品や日用品に多く活用されていること、そしてその精製の過程では熱帯林の破壊やこどもの労働問題等の多くの問題を孕んでいることを知りました。

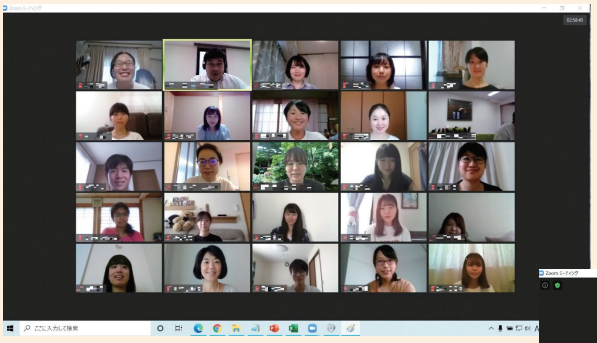
ワークショップの後半では、より深く問題を理解するためにロールプレイを実施。パーム油の生産から製品化・消費までに関わる異なる立場の登場人物を６名の学生に演じてもらいました。政治・経営の立場、そこで働く人の立場、製品を製造し消費する人の立場、そして人間以外の立場。６名の異なる視点からの意見を聞くことにより、１つの問題には多くの側面があり、複雑に絡み合っていることを知りました。

ロールプレイの後は少人数のグループに分かれ、ロールプレイを経て感じたことをシェア。自分とは異なる意見に接することで、新たな考え方や見方に気付いたり、自分自身の価値観に気付くことにも繋がりました。また、それぞれのグループでは「自分たちにできること」についても意見交換を行い、知識を学ぶだけでなく、自分たちの生活や日々の行動に紐づけて考えることができました。

参加した学生からは、「パーム油の問題をはじめて知った」、「問題をいろいろな面からとらえることの大切さに気付いた」という声や、「まずはもっと知ることから始めたい」、「家族に共有したい」、「買い物の際に気をつけようと思う」など、具体的な行動へのモチベーションも高めることができました。

今回のワークショップを通じて、自分たちの身近な生活の中にも、SDGs のゴールを達成するためにできることがたくさんあるということに気付くことができました。今後とも、学生が SDGs を身近な問題として捉え、関心を深めるきっかけとなる場をつくっていきたいと思います。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター　山本　奈央）



「環境問題から学ぶ初めての SDGs」

講　　師	星野　智子さん（一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク）
開催日時	2020年10月３日（土）　11:00 ～ 13:00
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	・身近なものと社会問題とのつながりを知る。 ・SDGs について関心を深めるきっかけをつくる。
参加者数	22名 (内訳：学生19名、ボランティア支援室スタッフ３名)

活動内容（概要）

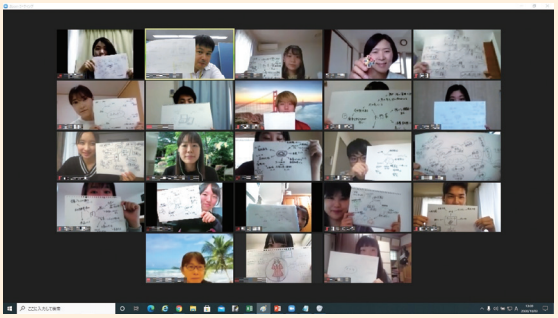
本ワークショップは、初めて SDGs を学ぶ学生を対象とした学びの場として、今年度３回目の開催となりました。今回は、講師として一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワークより、星野智子さんにお越しいただきました。

今回のワークショップでは「環境問題から学ぶ初めての SDGs」と題し、環境問題を切り口に SDGs への理解を深めました。近年、日本でも自然災害による風水害が頻発したり、夏には40度を超える猛暑となるなど、異常気象に見舞われることが多くなりました。また、スーパーやコンビニ等でもレジ袋有料化が進むなど、環境問題を身近な問題として実感することが増えています。星野さんの講義からは、世界規模での環境破壊や気候変動、それにともなう人間社会や経済への影響は非常に深刻で、一刻も早く改善に向けてのアクションを進めなければならない状況であることを学びました。日本においても SDGs のゴールを達成するべく国や企業・団体が積極的に取り組みを進めています。環境問題はあらゆる問題のベースであり、SDGs の17のゴールのほとんどが環境問題にリンクしているため、「環境問題は経済問題であり、人権問題である。」という言葉が非常に印象に残りました。

講義で環境問題の現状と SDGs について学んだ後、それぞれが自分の身近なものと SDGs とのつながりを捉えるワークを行いました。まずは、各自で自分の身近にあるモノ・コトを選び、それがどんな社会問題につながっているかを想像し、ネットワーク図に描いていきます。普段何気なく手にしているものが、どんな原料で、誰の手によって作られているか、その原料や労働力はどこから来ているのか。１つのモノの背景に想像力を働かせてみることで、身近なものが社会問題につながっていることを実感できました。さらにグループで共有することにより、お互いの気付きを共有して学びを深めることができました。

環境問題は、地球規模で改善していかなければならない大きな問題ですが、小さくても一人ひとりの日々の積み重ねが大切です。ワークショップを通じて、私たち一人ひとりにできることがあるということ、日常生活の中でも改善できることがたくさんあるということに気付けたのではないでしょうか。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター　山本　奈央）



今知っておきたい世界のジェンダー問題と私たちの権利
～ SRHR（性と生殖に関する健康と権利）を知っていますか？～

講　　師	柴　千里さん（公益財団法人 ジョイセフ）
開催日時	2020年12月５日（土）　11:00 ～ 13:00
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	・身近なものと社会問題とのつながりを知る。 ・SDGs について関心を深めるきっかけをつくる。
参加者数	21名 (内訳：学生19名、ボランティア支援室スタッフ２名)

活動内容（概要）

本ワークショップは、初めて SDGs を学ぶ学生を対象とした学びの場として、今年度４回目の開催となりました。今回は、講師として公益財団法人 ジョイセフから柴千里さんにお越しいただきました。

今回のワークショップでは「今知っておきたい世界のジェンダー問題と私たちの権利」と題し、「ジェンダー問題」の切り口から SDGs について学びました。

講義では、途上国におけるジョイセフの活動についてお話いただくとともに、途上国の多くの女性が望まない妊娠・中絶や不衛生な環境の中での出産により、命を落としているという事実を知りました。その数は１日に約800人。驚くべき数字にショックを受けた参加者も多かったようです。また、男尊女卑の文化や人身売買の被害、性感染症などに巻き込まれる若い女の子が多くいること、その状況を打破するために現地の女の子たちに正しい知識を教えることや、自己効力感を得てもらう取組みが行われていることを知りました。

講義後半では、日本や私たちをとりまく「性の問題」に目を向けました。日本は先進国にも関わらず、2019年の「世界男女平等ランキング」において121位（調査対象153 ヵ国）にランクしており、ジェンダー平等の観点からは取組みが遅れている現状を学びました。日本では、学校における性教育の開始年齢が各学校の自由裁量に委ねられているなど、

「性」に関して積極的に語る文化が少なく、「性」にまつわる問題についても主体的に発言したり声を挙げる人が多くない現状があります。性感染症や避妊の方法などについての正しい知識、自分の性別や好きになる人の性別の多様性など、私たち自身の身体や生き方そのものに密接する「性」の話を、日本においてももっと当たり前に語られる必要性を感じました。

ジョイセフでは、自分の人生を自分で選択して生きることができるよう、ILADY. という取組みを通じて、啓発活動を行っています。ワークショップの中では、参加者が自分の人生を振り返って「人生グラフ」を絵にかき、その折々でどんな困難があったか、どんな選択をしたか、どうやってそれを乗り越えたのか、などをグループでシェアしました。自分が一生付き合っていく「自分自身」という存在について、誰かの意見に流されるのではなく、自分で「選択」していくことの大切さについて気付かされる時間となりました。

人生にはさまざまな「選択」の場面がある中で、見えない差別や固定観念に左右されることなく、自分の意志を持つことが、社会を変えていくために私たちにできる一歩であると感じました。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター　山本　奈央）

「SDGs ゴール1『貧困』ってなんだろう？
～日本での子育てとキャリア、ミャンマーこども支援の経験から～」

講　　師	甲野　綾子さん（NGO　SOSIA　代表）
開催日時	2021年２月25日（木）　11:00 ～ 13:00
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	・身近なものと社会問題とのつながりを知る。 ・SDGs について関心を深めるきっかけをつくる。
参加者数	23名 （内訳：学生18名、教員１名、オブザーバー１名、ボランティア支援室スタッフ３名

活動内容（概要）

今年度５回目の開催となったワークショップは、講師として NGO　SOSIA 代表の甲野綾子さんにお越しいただきました。

今回のワークショップは、SDGs のゴールでも１番目に定められている「貧困」をテーマに行いました。近年では、「こども食堂」の取組みが全国的に展開されるなど、国内でも「貧困」・「こどもの貧困」という言葉を意識することが多くなっています。また、今回の新型コロナウイルスの感染拡大による社会の歪は、大学生の暮らしにも大きな影響を及ぼしました。ワークショップでは、そうした日本国内の「貧困」のリアルを知るとともに、世界的にも貧しい国と呼ばれてきたミャンマーでの「貧困問題」について学ぶことで、「貧困」とは何か？ということを改めて問い直す回となりました。

ワークショップの中では、まず参加者それぞれが「貧困」の持つイメージについて共有し、甲野さんからの講義を聞いた後でそのイメージがどう変わっていったか、新たに気付いたことをシェアしあいました。日本の貧困問題として、甲野さん自身のこれまでの体験やこども食堂での取組みの話からは、「貧困問題は海外の問題だと思っていた。」「貧困とはお金が無いことだと思っていたけど、経済的な面だけでなく周囲からの心無い声かけなど“心の貧困”もあることに気付いた。」などの感想が共有されました。この日本でも本当に身近なところに「貧困」の問題はあること、そして、経済的な苦しさだけでなく孤立や子育て当事者への風当たりの強さといった社会環境から生じる精神的な生きづらさが、日本における貧困問題には潜んでいることに気づかされました。

後半ではミャンマーでの貧困問題について、甲野さんの SOSIA での活動を中心にお話いただきました。最貧国と言われてきたミャンマーでは、こどもたちの進学率の低さやそれゆえの将来の選択肢の少なさなど、日本には無い深刻な問題が見える一方、ボランティア精神・助け合いの文化については先進国であるということを知りました。話を聞いた学生からは、「お金の問題だけが貧困問題とは限らないと思った。」「貧しい環境でもミャンマーのこどもたちの幸せそうな笑顔に考えが変わった。」など、当初の「貧困」のイメージを大きく変える学びとなりました。

日本とミャンマーという異なる２つの国の「貧困」についてその実際を知ることにより、

漠然としていた「貧困」のイメージがリアルになるとともに、「経済的貧困」だけではない貧困の側面を参加者との対話を通じて深めることができました。また、ボランティア先進国であるミャンマーの国民性から、今の日本に足りないものは何なのかを考えさせられる時間となりました。

SDGs に掲げられているゴールの１つ１つは大きなテーマばかりですが、こうして実際の社会でどんな問題が何故起こっているのかを知り、自分自身の体験や暮らしに引き寄せて考えることがとても大切です。こうした学びの場を今後も創っていきたいと思います。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター　山本　奈央）

東洋大学学生課外活動育成会

8 福島県の子どもに寄り添うプログラム

主　催　者	功刀　菜生（東洋大学学生：森田ゼミ）、ボランティア支援室
開催日時	2020年８月９日（日）
主な場所	猪苗代湖町内の農園、猪苗代町体験交流館学びいな、学生の各自宅
目　　的	以下の目的のために、福島県の被災した子どもたちと交流を行う。 1.子どもたちが自分の居場所を感じ、生きていることが楽しい、嬉しいと感じるようサポート。 2.新型コロナウイルス感染症予防のため、オンライン上での交流の試み。
参加者数	50名 【内訳】 本学　34名（森田ゼミ生29名、一般公募学生５名） 学外者　16名（NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島の関係者／子ども13名、スタッフ2名、森田ゼミ卒業生１名）

活動内容（概要）

本企画は、森田ゼミ生有志が中心となり、「NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島」の協力を得て、企画運営した。また、東洋大学学生課外活動育成会の支援金により、本企画を開催することができた。

当初は、現地での対面活動（日帰り）を計画していたが、7月中旬以降の東京都の新型コロナ感染者増に伴い、現地の子どもたちと本学学生のオンラインによる交流に企画変更した。参加募集は、急きょの企画変更のため、日帰り企画の応募学生と他ゼミ生に行った。ゼミ生以外の学生は、日帰り企画10名のうち５名の参加であったが、他ゼミ生が数多く参加してくれたため、多くの学生が交流する形式をとることができた。

当日の午前中は、子どもたちによるジャガイモ堀り（郡猪苗代湖町内の農園）の予定であったが、悪天候のため収穫済みのジャガイモの選別作業を行なった。自宅にいる学生たちは、iPad からの現地中継にて作業を見守りながら、応援メッセージを送った。

その後、子どもたちは「猪苗代町体験交流館学びいな」に移動し、昼食までと午後の時間はグループに分かれ、学生とレクリエーションや学習支援を行った。レクリエーションではジェスチャーゲームなど様々なゲームを行い、最初は緊張気味であった子どもたちも徐々に笑顔が増えた。学習支援では、スケッチブックなどを利用し、分かりやすい支援に努めた。工夫次第でオンライン上での交流も可能であることが分かり、活動の目的は達せられた。

東洋大学学生課外活動育成会

9 福島県いわき市の農業の現状を発信する Online

講　　師	鈴木　薫さん（特定非営利活動法人 いわき市民放射能測定室 たらちね） 松﨑　康弘さん（特定非営利活動法人 いわきオリーブプロジェクト） 福島　裕さん（柳生菜園） 酒井　悠太さん（株式会社 起点）
開催日時	2020年９月27日（日）　12:45 ～ 17:00
会　　場	オンライン開催
目　　的	福島県いわき市で、特に原発事故の影響が大きい農業関係者を応援すること
参加者数	28名 【内訳】学生28名（企画中の入退室は自由）
協　　力	特定非営利活動法人 いわき市民放射能測定室 たらちね／特定非営利活動法人 いわきオリーブプロジェクト／柳生菜園／（株）起点

活動内容（概要）

この企画は、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大により中止となった現地活動に代わるものとして、いわき市をとりまく現状について多方面から知ろう、という趣旨で行われたものです。

講師には、オリーブ・コットンの生産者であり、例年、現地での活動を支えてくれている福島さん、松﨑さんに加えて、農産物の商品化・流通を担う（株）起点の酒井さん、住民の健康・地場産品の放射能測定に携わっている『いわき放射能市民測定室たらちね』の鈴木さんを講師に迎えて、オンラインで講演会を行いました。

現場で活動されている方からの講演であったので、栽培方法、生産・販売や、放射能測定の細かなプロセスまで理解できる講演会となりました。

東洋大学学生課外活動育成会

10 デイキャンプで遊ぼう会

里親家族とのデイキャンプ

開催日時	2020年11月３日（火）　10:00 ～ 15:00
会　　場	船橋市立青少年第２キャンプ場
目　　的	学生は子どもたちとともにあそぶと同時に、里親は里親同士で交流を行える場を提供する。
参加者数	90名 【内訳】学生48名、大学教員関係者２名、里親子32名、協力団体関係者８名
協　　力	共催：千葉県里親家庭支援センター 後援：特定非営利活動法人こども福祉研究所

活動内容（概要）

里親は都道府県知事が委託する事業であり、この親子の実態と支援が基礎自治体ではほとんど行われておらず、地域支援を受ける機会はほとんどないのが現状である。それを学生たちが中心となって仲介し、地域の人たちとデイキャンプをしながら交流するものである。

参加学生には事前学習の機会を設け、里親制度とは何か、子どもたちとどう接していくかなどを協力団体の人の協力を得て学び、体調を整え、実施前２週間は体温などを図り準備をした。

デイキャンプ企画として新型コロナ感染症の影響により、例年のような屋外キャンプ場でのカレー作りはできなかった代わりに、森の中にあるキャンプ場であることを有効活用して、三密を避け、消毒を頻繁に行いながらウォークラリーの形で、森を歩きながらポイントでおにぎりやサンドイッチなどを得ていく形で食事の準備をした。昼食後はかけっこやボールなどで森の広場でおもいきり子どもたちと遊び、里親子との交流を楽しんだ。

【参加学生の声】

- 子どもたちと触れ合うことで自分たちが楽しませてもらった。
- 里親家庭と触れ合う機会もあまりないため、貴重な経験となった。
- 担当の子どもは内気な性格だったため､はじめは一緒に楽しんでもらえるか不安だった。しかし、徐々に心を開いてくれて最後には満面の笑みで接してくれるようになってうれしかった。
- 今回のデイキャンプの中で、里親の方々が子どもの成長を喜んだり、見守ったりしている様子を見て、血縁関係とは別のひとつの「家族」という形を感じた。
- デイキャンプの短い時間であっても子どもの成長を感じることができた。
- 前年交流した子どもが自分の名前を覚えてくれていてとても嬉しかった。

第 2
キャンプ場

東洋大学学生課外活動育成会

11 SDGs for Everyone! －みんなで関わるSDGsプロセス－

「東洋 SDGs コンテスト」「SDGs ボランティア情報展」

主　催　者	小澤　英一さん（東洋大学学生　Team Value Creation） 安田　海太郎さん（東洋大学学生）
開催日時	2020年11月24日（火）～ 12月15日（火）〈ボランティア WEEK〉 以後、朝霞・板倉で展示のみ実施
会　　場	東洋大学　白山キャンパス
目　　的	・本学学生の SDGs への認知を高めること ・本学学生に SDGs を身近に感じてもらい、“自分ごと” にしてもらうこと
参加者数	東洋 SDGs コンテスト：フォト22件　スローガン：21件 SDGs プロモーションプロジェクト：延べ626名
協　　力	Team Value Creation ／ TIPS ／東洋大学白山図書館／朝霞事務課／板倉図書館

活動内容（概要）

学生からの持ち込み企画である。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標『SDGs』ゴールについて、本学の学生への認知度を高めること、学生個々が「身近なこと」として感じてもらうことを目的に下記のイベントを実施した。

①『東洋 SDGs コンテスト』

学生から（1）フォト部門（2）スローガン部門　の２つを募集し、その中から、最優秀作品と優秀作品を決定した。採点はボランティア支援室専門部会のメンバーにお願いをし、受賞者へは2021年2月15日に Web にて表彰式を行い、賞品の受け渡しは郵送で行った。

申込作品については学内の掲示板及びボランティア支援室内に掲示し、学生への SDGs の啓発を引き続き行う。

②『SDGs ボランティア情報展』

SDGs についての理解を深めるポスター型展示を学内に設置した。

- 展示は日本語、英語、韓国語による多言語での表記、車いす対応の高さ、視覚障害者サポート用の音声ガイド QR 等を用意した。
- 展示素材は、民間企業からすでに無償提供していただいた廃材を再利用して「低コストで環境に優しく」作成した。
- 白山･板倉図書館及び朝霞事務課と協力して、展示に関連したブックマーク（しおり）の配布を行い、展示見学者へのアクティブなアプローチも行った。

〈学生主催者より〉

「コロナ禍の中でも SDGs を推進していくことができると感じた。身近なことから SDGs に興味を持ってもらうきっかけとして今後も活動を続けていきたい。(小澤)」

「コロナ禍にも関わらず、多くの企業や仲間の学生に皆様にご協力いただき、完成できました。多くの人に見てもらえていたなら嬉しいです。(安田)」

SDGs ボランティア情報展

①白山キャンパス

②朝霞キャンパス

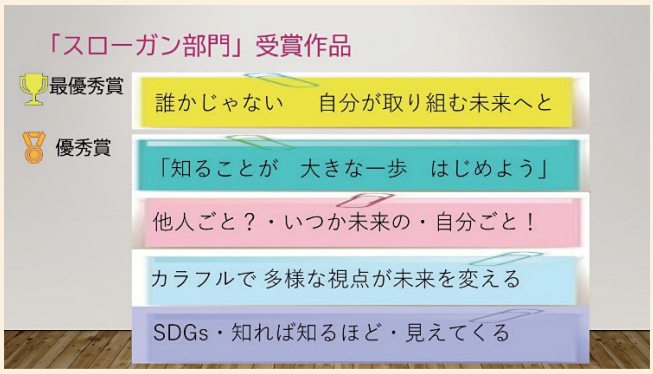
③板倉キャンパス

東洋 SDGs コンテスト応募作品（抜粋）

表彰式

SDGsコンテスト 入賞者表彰式
式 次 第
1. 開 式
1. 式 辞
1. 入 賞 者 紹 介
1. 入賞者代表挨拶
1. 閉 式
東洋大学

「フォト部門」受賞作品
最優秀賞
優秀賞
マイボトルを持つことによってエコフレンドリー（環境とお財布）
国や文化の違いを楽しみ享受することが平和と公正をもたらす
外国の子供達にボランティアで勉強を教えることで「質の高い教育」を


「スローガン部門」受賞作品
最優秀賞
誰かじゃない　自分が取り組む未来へと
優秀賞
「知ることが　大きな一歩　はじめよう」
他人ごと？・いつか未来の・自分ごと！
カラフルで 多様な視点が未来を変える
SDGs・知れば知るほど・見えてくる

東洋大学学生課外活動育成会

12 「大地震！どうする？どこへいく？？ ～『備え』のための1dayオンラインワークショップ～」

インストラクター	宮崎　賢哉さん（防災教育・災害救援コーディネーター、社会福祉士）
司　　会	成田　桜さん　（東洋大学学生、IVUSA 白山クラブ） 根本　有紀さん（東洋大学学生、IVUSA 白山クラブ）
開催日時	2020年12月12日（土）11:00～13:00
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	・主に首都直下型地震を想定した、大規模災害に備えるための知識および考え方を学ぶこと。 ・東洋大学の防災訓練の認知率、参加率の向上を目指すこと。 ・東洋大学の防災・減災のために行動できる学生リーダー創出の足掛かりとすること。
参加者数	13名
協　　力	IVUSA 白山クラブ

活動内容（概要）

ある日強い地震が発生したという場面を想定し、やがて更に激しい地震が起こることに備えるために、何を確認すればよいか、備えるべきもの・ことは何か、ということについて実践的に学んでいきました。

①オープニング

企画の趣旨・流れ説明やスタッフの紹介などを行いました。

②導入

アイスブレーキングとして、地震災害の観点から今自分が暮らしている環境を把握・共有しました。家の築年数や耐久性、自分が住んでいる地域の状況を把握し、その後災害クイズを通して災害関連の知識に触れました。

③ワーク１

ワークは４、５人程のブレイクアウトセッションで行いました。緊急地震速報訓練用動画を見た後に、防災マップ・ハザードマップを見ながら自分の住む地域の現状を把握しました。そして現状を踏まえ、地震発生時に考えられる危険を班で共有しました。自分の地域にはなかった危険や各地域の様々な状況から、身近に潜む危険を考えることができました。

④ワーク2

動画を2本（シミュレーション編・被害想定の全体像編）見た後に、考えられる様々な被害想定をもとに自宅避難をするか、外へ避難するかを具体的にシミュレーションしました。自分の住む環境と照らし合わせて避難を考えるため、同じ被害想定でもそれぞれ違った意見が得られました。

⑤アクティビティ

制限時間を決めて、災害時に使えると思うものを実際に各々家の中で集めて、共有しました。消毒液やマスクなど、コロナ禍での外避難を想定した防災セット・グッズにつ

いても考えることができました。

⑥レクチャー

インストラクターの宮崎賢哉さんに、今までのディスカッションやアクティビティを踏まえて講義をしていただきました。生存避難と生活避難についての講義や、危険や避難場所を考える上でのチェックポイント、家具固定の基本や防災グッズの用意の仕方、頭が真っ白になってしまった時の対処法などを教えていただきました。

⑦アウトプット

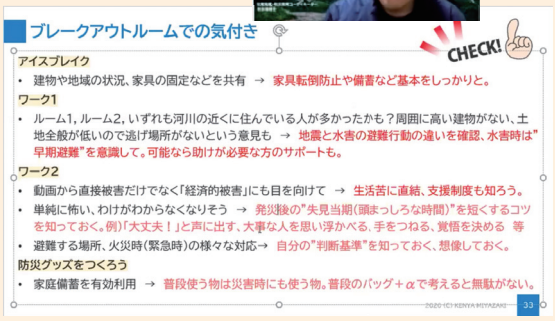
最後にこのワークショップで得られたものや感じたことを共有しました。身近に潜む危険について、今後やっていきたいと思うこと、それぞれに多くのことを感じてくださったかと思います。

防災に興味のある参加者の方々が多く、少人数でのディスカッションを通して一人一人の考えを知ることのできる密度の濃い時間を過ごすことができました。また、それぞれ身を置く環境が違うから今だからこその様々な意見や、他グループの議論の流れを知ることができ、新たな気づきが多くありました。ローリングストックの習慣づけや状況に応じた適切な行動への心がけ等を怠らず、災害時について家族ともしっかり話し合っておきたいと思いました。

（東洋大学学生、IVUSA 白山クラブ　根本 有紀）

後日行われた振り返りのミーティングにて、今回作成したコンテンツを防災に関する活動を行っている学生団体やボランティア支援室を通じて一般の学生と共有し、「防災・減災に関する情報の探し方」の取得と「自分ゴトとして意識をする」ことに役立てたら良いのではないかとアドバイスをいただきました。

（ボランティア支援室）



東洋大学学生課外活動育成会

13「ユニバーサルマナーワークショップ～○○ with Us ～」

講　　師	原口　淳さん （一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会講師、株式会社ミライロ）
司　　会	岩田　完治さん（東洋大学学生、バリアフリーサークル歩み） 賀上　桜子さん（東洋大学学生、バリアフリーサークル歩み）
開催日時	2020年12月13日（日）　10:00～12:30
会　　場	Zoom によるオンライン開催
目　　的	・自分とは異なる立場にある人のことを思いやり、行動できる「ユニバーサルマナー」について理解を深め、率先して行動できるようになること。 ・視覚障害について学び、自分ごととして考え行動できるようになること
参加者数	13名
協　　力	株式会社ミライロ

活動内容（概要）

「ユニバーサルマナー」とは、高齢者や障害者、ベビーカー利用者や外国人など、多様な立場の方々と向き合うためのマインドとアクションのことを指します。今回は、視覚障害を題材に取り上げ、前半は株式会社ミライロより視覚障害当事者として講演やテレビ出演など幅広く活躍されている原口淳さんを講師に迎え、ご講演をいただきました。

原口さんによる講演は、講師自身の体験談からはじまりました。生まれつき、目に障害をもって生まれてきた原口さんは子どもの頃、「ふつうの人として見られたい」という思いを持っていました。

転機となったのは高校時代。クラス担任だった教員が放送部の顧問をしていたこともあり、放送部に勧誘され、そこに入部。すると、もともと耳で聞いたことを発声することに長けていた原口さんはみるみるうちに上達し全国大会に出場。更には夏の全国高校野球兵庫県大会での司会という大役を担う機会も得ることになり、そこでの活躍が他の高校生にも知られるところになると、視覚障害者としてではなく「高校野球の司会者としての」原口さんと認知されるようになり、「ふつうの人」として見られるという夢が叶ったということでした。そして、そのことと同時に、「目が見えないからこそできること」を探すようになり、現在講師として、視覚障害の特性について伝えることに携わっています。

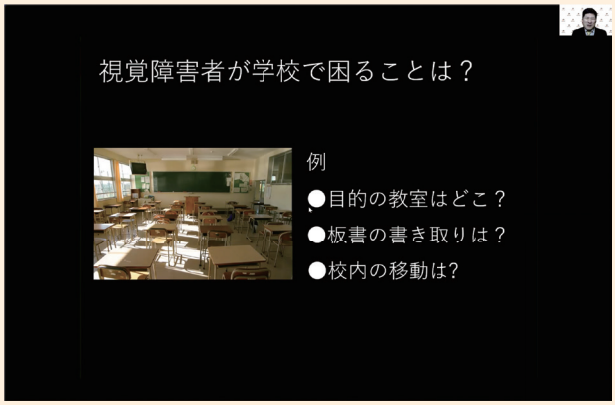
講演はその後、ユニバーサルマナーへの理解を深めるレクチャーと個人ワークへと展開しました。「学校の教室におけるバリア」について、できるだけたくさん列挙してみるという個人ワークでは、バリアとなっているものが意外と多いことを実感しました。人間は、視覚から情報の87% を得ているそうで、いかに視覚に頼っているのかということを追体験することができました。別の視点をもつことで、解決策が見えてくることを学びました。

後半はバリアフリーサークル歩みで企画した、視覚障害のケーススタディを、グループに分かれる形で実施しました。日常生活における困りごとを例にあげながら視覚障害の方との向き合い方についての知識を深めていきました。「分からないことは、勝手に判断せず相手に聞いてみる」（may I help you ？）という、ユニバーサルマナーの観点を盛り込みながら、「もし、あなたが街中で視覚障害者を見かけたらどうしますか」というグル

ープワークを通じて皆で考えていきました。

2020年に実施される予定だった、東京オリンピック・パラリンピックでは、まさにさまざまなバックグラウンドをもった方々が東京に集まり、ユニバーサルマナーを体得し実践していくことが望まれていました。オリンピック・パラリンピックは延期が決まりましたが、コロナ禍の中で新しい日常が求められるようになり、難しい状況に置かれる人もいます。それぞれの立場に寄り添いながら、無関心ではなく、かといってお節介になりすぎず、「何かお手伝いすることはありますか？」とさりげなく声をかけることから、誰もが暮らしやすい社会への道筋は始まっていくのだろうと思います。

（東洋大学学生、バリアフリーサークル歩み 岩田 完治）



東洋大学学生課外活動育成会

14 「東日本大震災から10年経った今 被災地の若者と東洋大生が考える震災と復興」

開催日時	2021年２月20日（土） 18:30 ～ 20:30
会場	オンライン実施
目的	2021年で東日本大震災から10年になる。10年が経った今、被災経験をした若者との交流を通じて、東北における「震災」「復興」に向き合い、同じ大学生としてできることは何かを深める。 １.被災経験をした若者から語り部を聞き、現地の現状や取り組みについて学習する ２.過去の災害についての学習を通じて防災意識を高め、緊急時における知識や行動力を身につける
参加者数	27名 【内訳】学生16名、教職員５名、一般６名（南三陸の皆さん他）
協力	Project “M” ＝宮城県南三陸町出身の学生を中心として、震災経験の過去と、東北の今を発信する活動を行っている

活動内容（概要）

【活動内容】

昨年、宮城県南三陸町出身の学生を中心として、震災経験の過去と、東北の今を発信する活動を行っている〈Project “M”〉とともに現地でワークショップを行っているが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、「オンライン」での企画を行った。

現地とオンラインで繋ぎ、東日本大震災から10年が経過する中で、被災経験をした若者と本学の学生との交流を通じて、各自ができることは何かを考える機会となった。

【当日のプログラム】

・自己紹介、アイスブレイク等
・10年前の震災当時の参加者自身の記憶の共有
・「Project “M”」による語り部
・「語り部」を聞いての感想共有
・「自分たちが次に起こせるアクション」は何かを共有
・まとめ

【アンケートより（抜粋）】

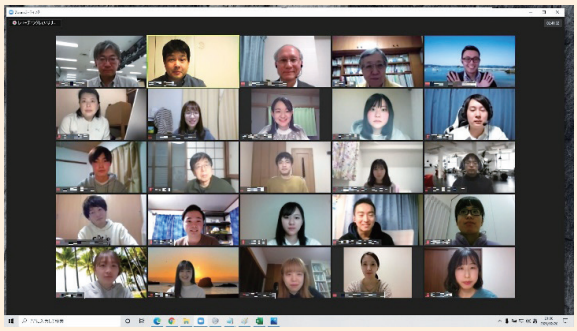
・震災が起こった際、正しい判断ができる大人がいなければ多くの命がなくなることを知り、正しい判断を決めることが大切であることを学びました。
・防災の意識を変えるべきだとおもった。
・project “M” の皆さんも私たちと同じように生活していて、たまたま住んでいる地域で大きな地震があって、たまたま被災地になってしまっただけなんだと改めて感じた。それは誰にでも起こり得ることであって、だからこそ自分と歳の近い方々がこのような経験をして、色んな思いをして生きてきたということを知ろうとしなければいけないと

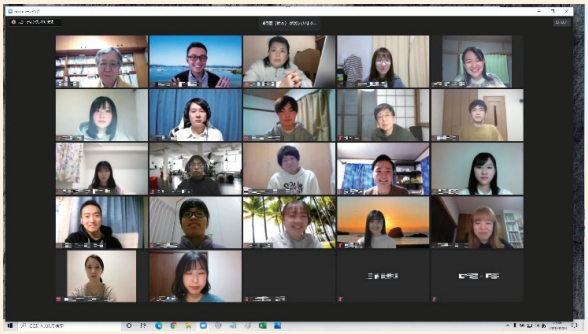
思った。

・実際にご家族を亡くされた方のお話を聞いたのは初めてでした。今ある時間、今関わりがある人々を大切に生活したいと、改めて感じました。

・記憶を記録し情報を発信すべきだと思った。

・ツアーに参加したことや、今回のワークショップで“M”の皆さんのお話を聞いたことはとても貴重な体験だと思う。お話を聞いただけでは終わらせずに、身近な人に被災地の話を伝えたり、今後の災害の備えに繋げていきたい。





東洋大学ボランティア WEEK 2020 ～ SDGs とボランティアについて考えよう～

各種イベント概要

実施方法	開催日	企画名	講師他
オンライン	12/1（火）	「企業における人権への取組」	秋山　映美さん（株式会社クレアン）
オンライン	12/7（月）	子どもの権利実現のために自分たちにできることを考える　～国連・子どもの権利条約と SDGs の視点から～	出野　恵子さん（認定特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン　副代表理事・ファシリテーター）
オンライン	12/8（火）	「エイズってなんだろう？」	和田　翔雅さん（オカモト株式会社） 【協力】公益財団法人エイズ予防財団、東洋大学学生団体 DAISY
オンライン	12/16（水）	「SDGs と子どもの人権」	秋山　映美さん（株式会社クレアン）

実施方法	開催日	企　　画　　名
全キャンパス	11/24（火）～ 12/15（火）	東洋大学学生課外活動育成会 「SDGs for Everyone! －みんなで関わる SDGs プロセス－『東洋 SDGs コンテスト』
白山・朝霞・板倉キャンパス	11/24（火）～ 1/30（土）	東洋大学学生課外活動育成会 「SDGs for Everyone! －みんなで関わる SDGs プロセス－『SDGs ボランティア情報展』」
オンライン	12/12（土）	東洋大学学生課外活動育成会 「大地震！どうする？どこへいく？？～『備え』のための1day オンラインワークショップ～」
オンライン	12/13（日）	東洋大学学生課外活動育成会 「ユニバーサルマナーワークショップ～○○ with Us ～」
オンライン	12/10（木）	ボランティア入門講座（ONLINE）
オンライン	12/9･16･ 24（木）	ボランティアカフェ ONLINE 「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」
全キャンパス	9/8（火）～ 寄贈品がなくなるまで	「Hands to Hands －みんなで乗り越える、コロナ禍－」

15 東洋大学ボランティア WEEK 2020

「企業における人権への取組」

講　　師	秋山　映美さん（株式会社クレアン）
開催日時	2020年12月１日（火）　9:00 ～ 10:30
会　　場	東洋大学　川越キャンパス　2107教室 Webex 及び YouTube ライブを用いた配信
目　　的	企業の社会的責任（CSR）の一環で、人権への取組についての基本的な考え方と具体例を学ぶことで、人権への理解を深めること。
参加者数	64名 【内訳】総合情報学部「CSR 論」履修者59名、一般学生５名
協　　力	総合情報学部の専門科目「CSR 論」（担当：小瀬　博之先生）と連携して実施

活動内容（概要）

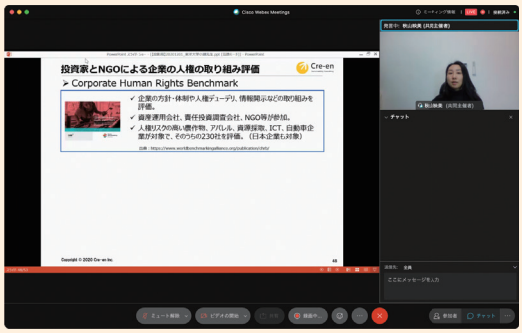
「企業における人権への取組」というテーマで、株式会社クレアンの秋山映美氏にご講演いただいた。

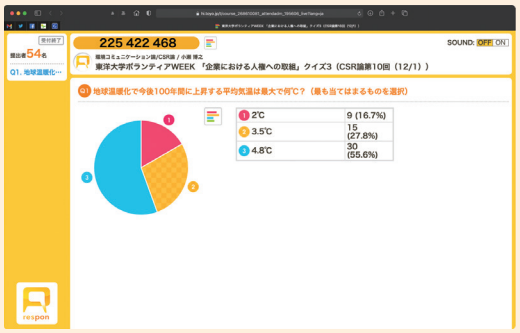
最初に「人権とは」というテーマで、人口問題や地球温暖化問題、水問題などの社会及び環境問題を取り上げながら、これらにも深く関する人権課題をグローバルに取り上げ、日本の人権と世界の人権に対する認識の違いを明らかにした。さらに SDGs（持続可能な開発目標）のベースに人権があることを取り上げ、人権の重要性を説いた。

次に「ビジネスと人権に関する社会動向」として、企業における人権尊重の責任を取り上げ、企画・設計から使用までのバリューチェーンにおける人権の関わりについて説明した。また、森林伐採や化学物質流出などによる汚染、児童労働や劣悪な労働環境、ダイバーシティ（多様性）推進の阻害となる無意識の偏見による人権侵害の発生、外国人技能実習生制度の構造的な人権侵害など、企業活動がさまざまな人権に影響を与えていることを説いた。

最後に、「企業の取り組み」として、日本企業によるトラブル事例を取り上げるとともに、国連による「ビジネスと人権に関する指導原則」や各国での法制化の動き、投資機関による人権問題を理由とした投資引上げ、企業の人権への取り組み評価の状況、外国企業や経団連の動向について説明した。また、結論として企業が人権問題を「引き起こさないこと」「加担しないこと」を問いた。

講師がオンライン上で講演される状況で、教室での受講も５名にとどまる中で、respon を活用しながら双方向のやり取りがなされるように工夫しながら進めていただいた。学生からは人権問題を具体的に、また詳しく知ることができた、企業の対応の難しさがよくわかったなどの好意的な感想が多くあげられた。





子どもの権利実現のために自分たちにできることを考える ～国連・子どもの権利条約と SDGs の視点から～

講　　師	出野　恵子さん（認定特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン　副代表理事・ファシリテーター）
開催日時	2020年12月7日（月）　13:00 ～ 14:30
会　　場	Zoom での配信授業
目　　的	国連・子どもの権利条約と SDGs の理念、子どもの権利の視点を踏まえた子ども支援のさまざまな場面における子どもへのまなざしや子どもへの接し方について、専門家の方を迎えて学生とともに考える
参加者数	95名 【内訳】学生86名、他学部学生６名
協　　力	ライフデザイン学部の専門科目「教育制度論」（担当：内田　塔子先生）と連携して実施

活動内容（概要）

国内外の子どもの貧困や差別の解消のために取り組んでこられた認定特定非営利活動法人「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」の副代表理事の出野恵子さんをお招きし、「子どもの権利実現のために自分たちにできることを考える　～国連・子どもの権利条約と SDGs の視点から～」というテーマで講義をいただいた。

最初に、講師の経歴および「この道」に進むきっかけとして、教員を目指していた講師が「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」にかかわりを持っていくきっかけをお話ししていただいた。

続いて、「人権の歴史」を通して、「子どもの権利条約の」採択から日本での取り組みについて紹介をしながら、子どもを「保護される対象」から、「権利の主体」へと捉える子ども観への転換が行われた経緯について説明があった。

ワーク１では、「子どもの権利が守られていなかったと思われる場面」を学生自身の過去を振り返りシェアを行うことで、「権利」について考えた。

次に当団体に関する説明が行われ、12歳の少年が立ち上げ子どもたちが「主体」となって活動を行ってきた歴史について説明があった。

また、「SDGs」とのかかわりについて、子供たちが「どのように目標に向かって活動をしているのか」事例を交えて紹介され、デモ・学校での活動・SNS・演劇を用いた活動など、それぞれの子どもたちが「得意なもの」を生かして活動をし、まずは「自分でできること」から始められることが説明された。

さらに、「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」の運営方法について、「子どもが運営に参加」「大人にも会の運営について理解をしてもらう（書面にサイン）」「子どもたちが自らアクションを行えるよう導く」という点を意識して活動を行っていると説明を受けた。

最後にワーク2では、「子どもをサポートしよう」と題して、傾聴力・質問力を身に着ける方法について、説明を受けた。

受講者の声としては、「今まで保育者になりたいと思っていたけど、子どもとかかわる職業は他にも多くの選択肢があることが分かったため、もっと視野を広く持って大学生活を過ごしたいと思った。」「子どもの権利はどういうものなのか、改めて理解できた。」「子どもの権利条約と自分の子ども時代の体験を合わせて考えることで子どもの権利が守られていた経験と守られていなかった経験についてよく考えることができました。」という感想が多く寄せられた。

「エイズってなんだろう？」

講　　師	和田　翔雅さん（オカモト株式会社）
開催日時	2020年12月8日（火）　16:30～18:00
会　　場	東洋大学　白山キャンパス　6101教室　webex を用いた配信
目　　的	HIV/ エイズを含む性感染症予防についての知識を広めること
参加者数	60名 【内訳】学生45名、履修生以外15名 ＊「学生」に学内配信等イベント運営担当学生を含む
協　　力	社会学部の専門科目「貧困と社会的排除」（担当：川原　恵子先生）と連携して実施 公益財団法人エイズ予防財団、東洋大学学生団体 DAISY

活動内容（概要）

川原が担当する「社会福祉学専門演習」履修学生の運営による世界エイズデーにちなんだ参加型イベントを実施した。当日のスケジュールは以下の通り。

1．当イベントの目的・趣旨説明（川原）
2．性感染症に関する学内調査結果報告（ゼミ学生・調査班）
3．ゼミ学生によるプレゼン（性感染症および性感染症予防に関するクイズを出題、双方向）
4．オカモト株式会社和田様よりプレゼン
5．東洋大学学生団体DAISYによる性的同意・避妊具に関するピア・エデュケーション
6．事後アンケート

エイズ・性感染症に関してはこれまでの学校教育において幾度となく学んでいるはずであるが、学内調査結果からは正確な知識を身に着けている学生が必ずしも多数とはいえない状況であり、交友関係が活発になる大学時代にピアでの啓発活動を行う意義を改めて感じた。性に関する内容は学生同士でも話題にしづらい人もいるため、今回のイベントをきっかけにエイズ・性感染症について正確な知識を得て、男女関係においてもお互いを尊重しあえる関係を構築していくことの大切さを学ぶことができたと考える。今回は、東洋大学学生団体 DAISY さんの協力を得て、性的同意についても触れることができたため、性教育・ジェンダー平等にまつわる社会課題についても幅広くとらえることができたと思われる。また、今回オンラインイベントで実施したため、朝霞キャンパスからも1名参加があった。

〈イベント後のアンケート、N=28〉

【イベントの感想】 79%が「よかった」と回答

「とてもよかった」「まあよかった」22、「どちらともいえない」 3、「あまりよくなかった」 3

【講義内容の理解度：5件法】 82%が「理解できた」と回答

「よく理解できた」「理解できた」23、「どちらともいえない」 3、「あまり理解できなかった」 2

【感想】＜一部抜粋＞

- メディアなどに取り上げられる機会も少なく、知識を身につける場がほとんどなかったため、分かりやすく良いイベントであったと思う。（白山・２年生）
- コンドームや性的な話というのは日常においてなかなかない。しかし、このような機会があることで解決する方法が身につくと思うので、とても良かったです。（白山・２年生）
- 正直なところ、どうしても性的会話はタブーというイメージがあったのですが、正しい知識を持たず、無知であることが問題であるように思いました。そのため、今回のような気軽に学ぶ機会がもっと増えてほしいと思いました。私自身、コンドームや避妊に対する見方が変わり、勉強になりました。（白山・３年生）
- 性的同意の場面で相手の意思を尊重することは知っていたが、自分の意思をはっきりと主張するべきであるという自覚を持つことができた。（朝霞・１年生）
- ゼミ生の発表 (クイズやアンケート調査の発表) の際に私語が多かったことや、段取りが悪かったことが気になりました。時勢が時勢なので難しかったのかと思いますが、もう少しリハなどを行い観衆から「ふざけているのかな？」と思われないようにされた方がいいかと思います。（白山・３年生）

「SDGs と子どもの人権」

講　　師	秋山　映美さん（株式会社クレアン）
開催日時	2020年12月16日（水）　15:15 ～ 16:15
会　　場	webex を用いた配信　※事前学習として、YouTube で資料動画を配信
目　　的	SDGs と子どもの人権に焦点をあて、国際社会における子どもと SDGs、子どもを取り巻く環境と人権、企業が取り組む子どもの人権などについて学び、自分たちができることを考える。
参加者数	18名 【内訳】履修学生13名、履修生以外５名
授業履修者数	148名　授業外申込者：７名にオンデマンドを配信している。 ※この授業は事前にオンデマンド (YouTube にて講義を受講し、当日は担当教員、外部講師および受講者でディスカッションや質疑応答を行う
協　　力	社会学部の専門科目「児童福祉論 B」（担当：森田　明美先生）と連携して実施

活動内容（概要）

企業の CSR 報告書企画制作支援、CSR/ サステナビリティ推進支援、また自治体等に研修等を行っている、株式会社クレアンの秋山さんを迎え、「SDGs とは」「SDGs と子どもの権利」「企業がどのように取り組みをしているのか」を事前テキストにより学習の上、ディスカッションを行った。

当日は Web での実施であったことから、香港や中国にいる学生からも参加もあった。

参加学生より各自質問を受け、外部講師及び担当教員より説明を行った。

○テレビ等で最近「SDGs」のキーワードをよく聞くようになったが、日本の取り組みは世界と比べるとどの程度なのか？

→一言に「日本」といっても、「政府」・「企業」によって、回答が異なる。「政府」としては、目標の設定に関しては遅れていると思われる。「企業」については、“今やっていることを SDGs ゴールに当てはめる”、“現在抱えている課題を解決していく”という形が多い。

→政府及び企業が「SDGs」に対して“積極的”なのかについては、判断が分かれる。政府は「今までやっていること」を積み重ねている。という状態。

企業については、「17のゴール」によって取り組みのレベルが違うように思える。

5.「ジェンダー」については女性管理職や役員、議員の数等を見ても遅れていると思われる。

16.「平和と公正」についても取り組みとしては難しい。

○東洋大学が「SDGs」に対して最近積極的になってきた理由は？

→東洋大学で「SDGs」を推進するプラットフォームが整ったことで、2019年度からボランティア支援室でも企画等を進めている。

→政府＞企業＞ NPO・学校　という流れで、「教育機関」にも SDGs に関する取り組みが具体化され実際に活動を行っている段階となっている。

皆さん自身も身近なことから「SDGs」にかかわる活動をすることができる。

NGO 等の活動に参加や寄付をする、「商品」を買う際に“認証マーク”がついているものを買うことで、SDGs に取り組みをしている企業を“消費者として選択”する。ことも活動の一つとなる。

○取り組めない企業がある場合はどのような理由があるか？

→「規模が小さい会社」については難しいのではないか。「社員の生活安定」、「専門の担当者必要」

など課題も多い。しかし、「消費者の意識」が向上すれば、企業は取り組まないわけにいかない状況となるので、変わっていくと思われる。

私たちも「おかし」（フェアトレード商品）などを意識して、「消費者としての質」を上げていく必要がある。

○ CM 等で差別的な表現が原因で「炎上」が起こってしまう理由は？

→企業の中心にいる世代は、これまでの教育で「人権」が取り扱ってこられなかったではないか。

企画者としては「差別の意図はない」と思っていることが原因。企業への研修等を行い、専門家を交えることで、リスクの回避が必要。また、最近は教育の現場でも取り組みがされているので、世代が進めば減少すると思われる。

○児童労働について企業は事実を知っているのか。

→現地の企業及び親世代が自分たちも今までやってきていることから「当たり前」だと思っている。

悪い「ブローカー」等もいるので、委託をする企業側が現地の企業へ児童労働の解消に向けた対応を行うことが必要。

他には「差別」に対する世界の対応（アメリカとヨーロッパの違い）や「選択制別姓」について議論を交わすことができた。

ディスカッションに参加した学生は、積極的に質問や意見を口頭およびチャットを用いて表現し、他の学生とも内容を共有することができて有意義な時間を持つことができた。

また、アンケート等により、理解の定着度について調べたところ、17の目標については理解されていることが分かった。ただ、課題として SDGs が発展途上国に向けられた取り組みであると理解した学生が24％もいた。このことから、今後、学生の学習の場としては、自分の生き方などに引き寄せて考える機会を提供することが求められると考える必要があると思う。

16 ボランティア入門講座（ボランティア WEEK）

講　　師	日比野　勲（ボランティア支援室　ボランティアコーディネーター） 杉本　昂熙（たかき）（東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ） 渡邉　蛍都（けいと）（東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ）
開催日時	2020年12月10日（木）10:40 ～ 13:00
主な場所	Zoom によるオンライン開催
目　　的	大学生に少しでもボランティアに興味を持ってもらい、知識を深めてもらうこと
参加者数	28名 （本学学生のほか、早稲田、明治、千葉、お茶の水女子大学の学生及び多摩大学より教員2名）

活動内容（概要）

学生の参加型の講座として、
・ クイズで学ぶ「ボランティア」！
・ Our Volunteer Story
・ 自分にあったボランティア活動の探し方
・ まとめ
の４部構成で実施しました。

日比野コーディネーターによるボランティアのレクチャー、渡邉蛍都さんと杉本昂熙の経験談から学んだボランティアの魅力を存分に詰め込んだ濃い内容の講義となりました。

普段見たり、聞いたりはするが正しい知識を学ぶ機会が少ない「ボランティア」の知識をボランティアコーディネーターから学べることに加え、東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフとして関わる学生二人が、大学生目線でボランティアの魅力を発信するという内容でした。

当日は１年生から４年生までの幅広い学生に参加してもらうことができ、講座ではボランティアに関する新鮮な情報や、同じ学生の頑張りに笑みをこぼす人もいました。

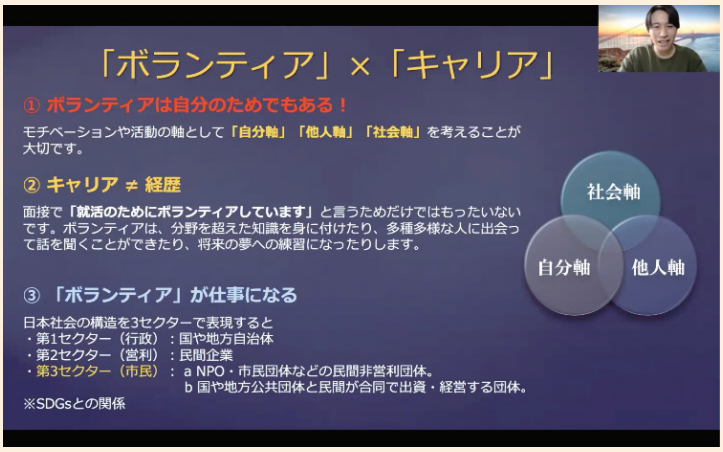
講座は12:30に終了したものの、質疑応答や感想交流で賑わい13:00までの延長をしました。

感想では、「ボランティアに対する考え方が変わった」、「自分もこれから色々なことに挑戦してみたい」また参加した他大学の学生さんからは「東洋大学はボランティアに力を入れていて羨ましい」などという声が散見され、講師一同開催して良かったという満足感でいっぱいになりました。

ボランティアの４原則のうちの一つ「公共性」。ボランティアがより拓かれ、ボランティアの魅力を多くの人に広めたい。そんな想いで引き続きサポートスタッフとしてこのような活動に尽力していきます。

最後に、本講義に参加していただいた皆さん、お越しいただきありがとうございました。

（ボランティア支援室サポートスタッフ 杉本 昂熙（たかき））


「ボランティア」×「キャリア」
① ボランティアは自分のためでもある！
モチベーションや活動の軸として「自分軸」「他人軸」「社会軸」を考えることが大切です。
② キャリア ≠ 経歴
面接で「就活のためにボランティアしています」と言うためだけではもったいないです。ボランティアは、分野を超えた知識を身に付けたり、多種多様な人に出会って話を聞くことができたり、将来の夢への練習になったりします。
③ 「ボランティア」が仕事になる
日本社会の構造を3セクターで表現すると
・第1セクター（行政）：国や地方自治体
・第2セクター（営利）：民間企業
・第3セクター（市民）：a NPO・市民団体などの民間非営利団体。
b 国や地方公共団体と民間が合同で出資・経営する団体。
※SDGsとの関係
社会軸
自分軸
他人軸

17 ボランティア支援室「しゃべり場（オンライン窓口）」

主　　催	ボランティア支援室
開催日時	2020年7月6日（月）～
主な場所	オンライン（Zoom）
目　　的	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、春学期期間にボランティア支援室が閉室となったことにより、Zoom を用いてオンラインでの窓口を開室する。

活動内容（概要）

新型コロナウイルス感染拡大防止対応により、春学期中はボランティア支援室が閉室となった。

そこで、Web 会議システム「Zoom」を用いて、平日の10:30 ～ 15:30の間でWeb 窓口を開設し、学生が窓口に来なくても相談や問い合わせ等に対応できるように体制を整えた。

基本的に学生の課外活動が禁止されていることから、学生からの相談等は多くなかったが、設置当初は新入生が入室し、ボランティアに関することも含めて大学生活全般での相談が多々見られた。

夏以降はイベントを実施する学生や外部講師等との打ち合わせに利用し、メールでは伝わりにくい内容や資料等の共有をすることで、対面が出来ないながら工夫をしながら対応することができた。

本学はボランティア支援室がある白山キャンパス以外に４つのキャンパスを要しており、これまでは他キャンパスの学生に対して、対面で相談を受ける機会がなかったことから、2021年度についても引き続き実施できるように開室スケジュール等を調整していきたい。

（ボランティア支援室）

Toyonet Ace での掲示

ボランティア支援室イベント

18「Hands to Hands －みんなで乗り越える、コロナ禍－」

主　　催	ボランティア支援室
開催期間 日　　時	【第１弾】物資募集：2020年９月 ８日（火）～ 30日（水） 学生配布：2020年10月１日（木）～ 30日（金） 【第２弾】物資募集：2020年10月19日（月）～ 11月13日（金） 学生配布：2020年11月 ９日（月）～寄贈品がなくなるまで
会　　場	東洋大学　白山キャンパス　ボランティア支援室　各キャンパス　教学担当部署
目　　的	2020年は新型コロナウイルス感染拡大のため、実家からの仕送りや、アルバイトが減少し、困窮が一層厳しくなっている多くの学生がいる。 そこでボランティア支援室では、「Hands to Hands ーみんなで乗り越えるコロナ禍ー」として、食料品の寄贈を通じて“学生・校友・教職員がみんなで助け合い 、コロナ禍を乗り越える”『場』を提供し、学生が必要な食料品などを入手することで、学業が継続できる環境を支えあう活動を行うことにした。
協　　力	校友会・甫水会・東洋大学生協

活動内容（概要）

- 支援物資はホームページ、校友会、甫水会等を通じて募った。全国各地の校友、教職員、学生、保護者（甫水会）のほか、本学関係者のほかにも近隣の学外団体からも持参・宅配便で800件10,000点以上の支援物資が届けられた。
- 配布は白山キャンパスについては甫水会館内のボランティア支援室で、白山以外のキャンパスについては学内便を利用して各キャンパスの教学担当課を通じて全学で延べ400名以上の学生に配布した。
- 会場設営、支援物資の整理・梱包はボランティアを募り、「つながり」の場を提供した。ボランティアには学生以外にも業務終了後の他部署の職員も参加し作業に当たった。
- 多くの授業がオンラインになり、イベントも軒並み中止・オンライン開催になる中で、学生には登校の機会を、校友の方には母校とのつながりを持つ機会をもうけ、それぞれに大学への帰属意識をもってもらうこともできた。
- 寄贈者、ボランティア、物資受取者より「メッセージ」を頂戴し、課内掲示や HP 等で紹介を行い、それぞれへのフィードバックを行った。受取学生のメッセージを読むと、コロナウイルスの影響を大きく受け、アルバイト等の減少から起こる経済的危機と、「大学に来られない・外に出られない」という精神的な危機を感じ取ることができた。
  特に「大学に来られない」ことで、「他人と話す機会がない」「外に出ることができないので気持ち的に落ち込む」「新入生だけど友達ができない」等の深刻な思いを述べる学生もおり、コロナの影響が学生に対して大きな影を作り出している現実を知り、2020年度での働きかけに結び付けられることも多くあった。
- 2021年度に向けてもできる範囲であるが、学生の不安を解消できる企画等が実施できるようにしたいと思う。

（ボランティア支援室）

①支援室での様子

②「寄贈者からのメッセージ」貼り付け作業

③他キャンパス生用梱包一式

④「受取者からのメッセージ」掲示

ボランティア支援室イベント

19 「避難所運営させてもらえませんか？～ゲームで学ぶ避難所運営～」（「避難所 HUG」オンライン体験会）

講　　師	宮崎　猛志さん（特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 理事）
開催日時	2021年3月3日（水）　10:00～12:00
会　　場	オンライン開催
目　　的	・避難所運営という具体的なシミュレーション事例をもとに意見交換することを通じて、災害時の対応、とりわけ要配慮者への対応について、具体的に考察すること ・わたしたち自身が被災し避難所に行くことがあった場合、そこで起きうる事象について想定をつくること。また、そうした際に自ら考え行動できるための基盤をつくること
参加者数	22名
協　　力	IVUSA 白山クラブ

活動内容（概要）

「避難所 HUG」とは、静岡県が開発したカードゲームで、避難所運営について具体的なシミュレーションを行うことのできる素材です。（HUG とは、Hinanjo Unei Game の略です）

東洋大学ボランティア支援室においても、防災教育の教材として HUG を備えており、体験会の実施など利用をすることができる環境にありますが、新型コロナウイルス感染対策の観点から、人が集って HUG を行うことが難しい状況にありました。

そのような中、この度 NPO 法人国際ボランティア学生協会より、オンラインで HUG を行うことができる機会をご提案いただき、IVUSA 白山クラブの協力のもと、体験会を行う運びとなりました。

以下、IVUSA 白山クラブ学生による体験会の報告です。

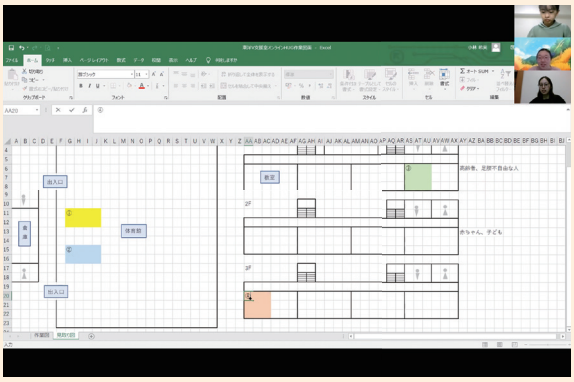
今回のオンライン避難所 HUG は、少人数のブレイクアウトセッションで2つの課題に取り組みました。

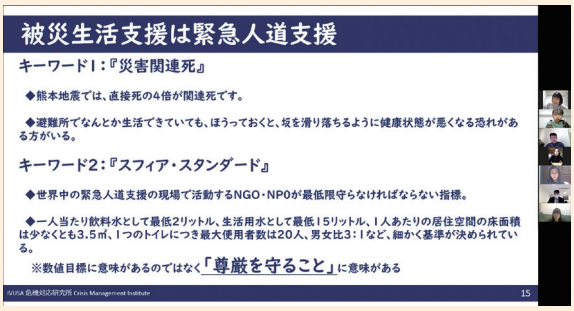
課題①は避難所運営のお手伝いをする設定で、受付で待っている避難者家族を教室や体育館のどこに誘導するのか考えるというものでした。大家族や肢体不自由者がいる家族などさまざまなケースがある中で、私たちのブレイクアウトセッションで一番苦慮したのは「赤ちゃんがいる家族」への対応です。赤ちゃんが夜泣きをしてしまうことを考えると教室にいてもらったほうがいいが、全ての子連れ家族を教室に案内すると入れるところがなくなってしまう。しかし体育館に案内すると他の家族の目が気になってしまうかもしれない。どちらにするべきか参加者が迷っていたところ、あるひとりの学生が、「学校が再開することを考えると、長期滞在する家族は体育館にいてもらったほうがいいかもしれない」という意見を出してくれました。その言葉に他の参加者も納得し、私たちは子連れ家族を体育館の一部の場所にまとめて案内することで夜泣きストレスを最小限に抑える方向にするという答えを出すことができました。今起きている現状だけでなく、その先にまで視野を広げて考えられている様子が伺えました。

課題②は避難所で、⑴避難している人の半分のおにぎりしか届かなかった場合に配るか？⑵さまざまなペットを連れている避難者を受け入れるのか？⑶テレビ局からの撮影依頼を許諾するのか？という3つのことを理由とともに考えました。どれも悩ましく参加の意見が割れることが多かったのですが、⑵のペットの問題では思いもつかなかった回答が出ました。私たちのブレイクアウトセッションではアレルギーの問題があるから教室にケージを置けるのなら受け入れるが、全員受け入れないと不公平感が出てしまうのため、基本誰であっても受け入れないというしっかりとした根拠がある意見が出た後に、「学校以外のところにペットを連れた人用の避難所を作るのがいいのでは？」という新しい視点が出ました。この発言がきっかけで話が進み、1つの答えを出すことができました。課題②は意見が割れることが多く、しっかり意見を持っている学生が多い中、3つの質問全て1つの答えにまとめることができました。全体で共有する際もさまざまな意見が飛び交い、真剣にメモをとっている様子から自分とは違う視点の意見も受け入れられる学生が多いという印象を受けました。

今回の避難所 HUG は災害というテーマではありましたが、終始楽しく話し合うことができました。参加の災害に対する視点や考えが増えたのはもちろんのこと、ファシリテーターをやらせていただけた自分自身も参加者の意見に刺激をもらい、答えは一つではなくどこにポイントを置いて判断するのかの重要性に気づくことができました。オンラインという中でも貴重な経験ができたこと、本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

（東洋大学学生　IVUSA 白山クラブ 赤羽 真萌）





ボランティア支援室イベント

20 社会貢献活動　助成表彰式・報告会

主　　催	ボランティア支援室
開催日時	2021年3月16日（火）　10:30 ～ 11:40
会　　場	Web 会議システム
目　　的	東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援する。
参加者数	40名　（学生・教職員）

活動内容（概要）

2020年度　東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成団体及び社会貢献活動に対する表彰者への授賞式および活動報告会を行った。
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から Web での開催を行ったが、キャンパスを超えた多くの方が参加をしていただき、キャンパス間の問題もなく良い報告につながったと思われる。

はじめに表彰式を行い、センター長の挨拶のあと、学長から式辞を頂戴した。

次に、社会貢献活動に対する表彰を行い、表彰状と目録（賞金）の授与を行った。

そして、社会貢献活動等奨励プロジェクト助成制度に採択された団体に対して、表彰状と楯の授与を行った。

報告会では、各自これまで行った活動をパワーポイントや動画を用いて行った。

それぞれ特色をよくつかんだ報告となっており、わかりやすい内容となっていた。

特にコロナ禍で「対面」での活動が行えない中、「Web」や「手紙」等を通して、人とのつながりを行うのかをそれぞれの学生が考え、工夫を凝らして行う中で、Web での可能性と対面での大切さを認感じることができ、対面での活動が望まれることを強く感じた。

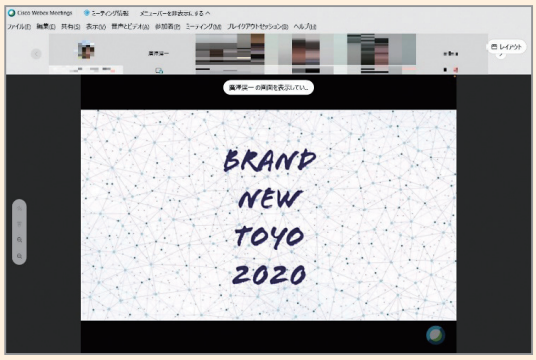
報告後、社会貢献センター運営委員の先生方、川口副学長、学生とともに活動を行った佐々木先生と高山先生より一言感想をお願いした。

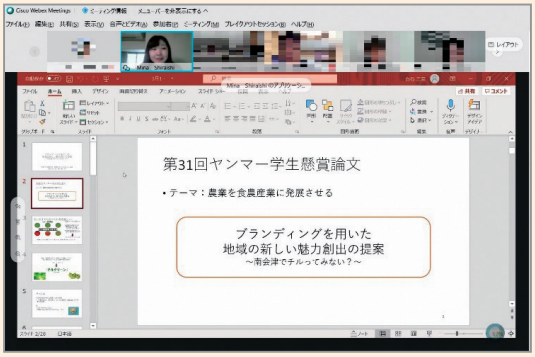
どの先生方からも好意的なご意見を頂戴し、次年度向けての参考になったのではないかと思われる。

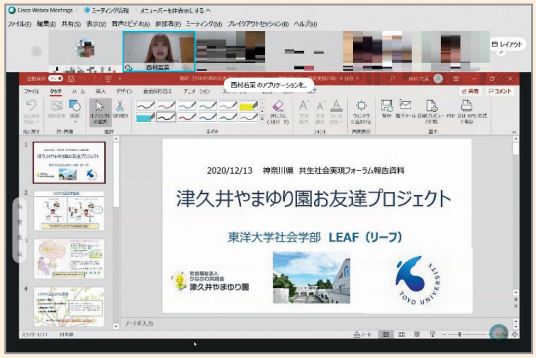
最後に全体で写真を撮影し終了した。

（ボランティア支援室）

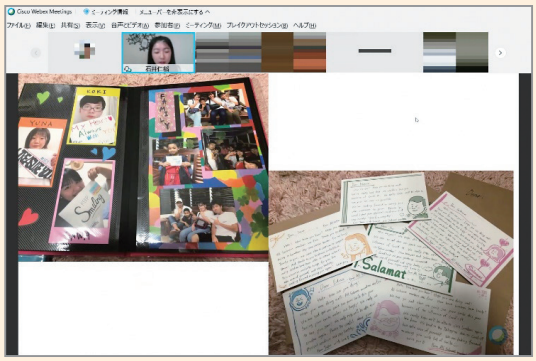
新型コロナ対策サイトの他地域派生
3週間弱で
30以上に派生*
*2020年3月23日時点。本家である東京都のサイトが公開されたのが3月4日。

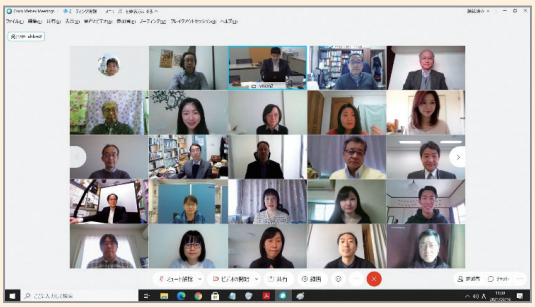

BRAND
NEW
TOYO
2020

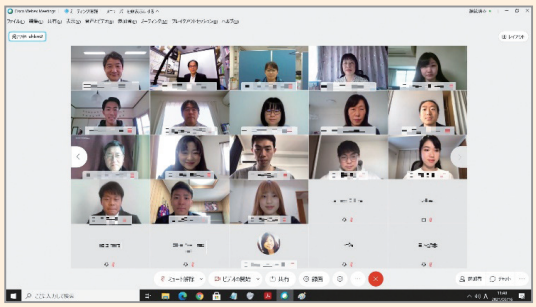

第31回ヤンマー学生懸賞論文
・テーマ：農業を食農産業に発展させる
ブランディングを用いた
地域の新しい魅力創出の提案
～南会津でチルってみない？～


2020/12/13　神奈川県　共生社会実現フォーラム報告資料
津久井やまゆり園お友達プロジェクト
東洋大学社会学部　LEAF（リーフ）

Food Project
Fukushima
――福島県いわき市の農業の現状を多言語で発信する


Salamat





2020年度ボランティア支援室　各企画資料

[夏休み おうち時間応援プロジェクト第1弾]
ボランティア入門講座(オンライン)

ボランティアについて、参加者同士交流しつつクイズを交えながら楽しく学ぶオンラインセミナー（ウェビナー）です。
ボランティアが「何かちょっと気になってる」というくらいの感覚で参加していただいて構いません。気軽な気持ちで参加してみてくださいね。

●日時
以下のいずれかにご参加ください。（内容は、どちらも同じです）
・2020年8月11日（火）10:30～12:30
・2020年8月20日（木）14:00～16:00

●会場：オンライン（申し込みをした方に、URLをお送りします）

●参加の方法：mlvolsup@toyo.jp宛に、氏名・所属（学部学科学年）、メールアドレスを記載し送付してください。また、聞いてみたいことや知りたいことなどがあったら、合わせて記入いただければ幸いです。

●講師：日比野 熹（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）

●その他：本ウェビナーの内容は、社会学部「ボランティア活動入門」や、教育学科・社会福祉学科の基礎演習における日比野の講義をベースにしていますが、クイズを取り入れるなど、一部内容の追加や手法の変更などを行っています。

お問合せ先：03-3945-7927（東洋大学エクステンション課）
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2南水会館1階

ボランティアを通じてみんながつながるトークの場！

東洋大学 ボランティアカフェ ONLINE

今回は、同じテーマでの2回連続開催！
1回目でみんなが「つながり」
2回目をみんなで「深める」初の試みです！

テーマ「あつまれ！「国際」ボランティアやってみたい人」
第１回：2020年7月20日（月）12:15～13:00
第２回：2020年7月27日（月）12:15～13:00
リソースパーソン：赤池 稀未さん
（東洋大学国際学部3年、国際ボランティアサークルSalamat代表）

「いろいろな国の人と仲良くなりたい」、「海外ボランティアに参加して視野を広げたい！」そんな期待を胸に大学に入学した人は少なくないと思います。コロナ禍で、海外はおろか都道府県間の移動も慎重にならざるを得ないこの時期、「国際ボランティア」という共通項でおしゃべりしませんか？

第1回は、参加者の皆さんの海外や国際交流への関心、国際ボランティアについて知りたいことなどを自由に話す回とする予定でいます。
第2回は、リソースパーソンのお話をみんなで共有し、認識を深めていきたいと考えています。

【参加方法】mlvolsup@toyo.jpに氏名、所属、メールアドレスを記入の上送付ください。
参加に必要なURLをお送りします。

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課）
(TEL) 03-3945-7635　e-mail：mlvolsup@toyo.jp

[夏休み おうち時間応援プロジェクト第2弾]

ボランティアを通じてみんながつながるトークの場！

東洋大学 ボランティアカフェ ONLINE

つながり深まる！同テーマ2回連続開催！
1回目でみんなが「つながり」
2回目をみんなで「深める」試みです！

テーマ「子どもが好きな人、大集合！」
第１回：2020年8月18日（火）12:00～13:00
第２回：2020年8月25日（火）12:00～13:00
リソースパーソン：久保 穂華さん
（東洋大学国際学部4年、NPO法人Learning for All 学生ボランティア）

「子どもと関わることが好き」という学生の皆さん！
ひとくちに「子ども」関係のボランティア活動といっても、いろいろあります。
子どもと「遊ぶ」、子どもに勉強を「教える」、困難な状況下に置かれた子どもに「寄り添う」。皆さんは、どのようにして関わりますか？

第1回は、参加者の皆さんの子どもや教育への関心、皆さん自身の子ども時代や、子どもと関わったエピソードなどを交流する予定でいます。
第2回は、リソースパーソンのお話をみんなで共有し、認識を深めていきたいと考えています。

【参加方法】mlvolsup@toyo.jpに氏名、所属、メールアドレスを記入の上送付ください。
参加に必要なURLをお送りします。

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課）
(TEL) 03-3945-7635　e-mail：mlvolsup@toyo.jp

【夏休みおうち時間応援プロジェクト第4弾】

ボランティアを通じてみんながつながるトークの場！

東洋大学 ボランティアカフェ ONLINE

「わたしたちにできるSDGs」を考える2回シリーズ！
SDGs（持続可能な開発目標）達成を目指し、わたしたちにできることってなんだろう？を一緒に考えます！

テーマ「わたしたちにできるSDGsアクション！」
リソースパーソン：東洋大学TIPSの皆さん

第１回：2020年9月7日（月）　14:00～16:00
参加者同士がつながり、交流するセッションです。みなさんがイメージする、SDGsにちなんだ画像をネタにトークをするセッションを通じて、参加者の皆さんのバックグラウンドを共有し、つながりを築くことを試みます。
※「わたしのイメージするSDGs」をテーマにした画像を1枚用意していただき、当日バーチャル背景または画面共有でご紹介ください。

第2回：2020年9月14日（月）　14:00～16:00
TIPSの取り組むSDGsアクションを題材にしながら、どのようにしてSDGsに向けたアクションのアイディアを、実際に形にしていくかのプロセスを共有し、１人１人のSDGsへの取り組みが具現化に近づくためのきっかけをつくりたいと考えています。

【参加方法】mlvolsup@toyo.jpに氏名、所属、メールアドレスを記入の上送付ください。
参加に必要なURLをお送りします。

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課）
(TEL) 03-3945-7635　e-mail：mlvolsup@toyo.jp

ボランティアを通じてみんながつながるトークの場！

東洋大学 ボランティアカフェ

ONLINE

「意外と広い、ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」

リソースパーソン：賀上桜子さん
（東洋大学3年、バリアフリーサークル歩み）

第1回：2020年11月7日（土）10:00～11:30
参加者同士が交流する、アイスブレーキングを主体とした回です。

第2回：2020年11月23日（月・祝）16:30～18:00
バリアフリーサークル歩みの取り組みを皆で共有し、誰もが暮らしやすい社会について考えます。

第3回：2020年11月27日（土）10:00～11:30
大学卒業後に「ふくし」の仕事などに関わる方にお話を伺います。
※ゲスト：高本恵さん（東洋大学卒業生、株式会社LITALICO）
山本詩菜さん（高知大学4年、社会福祉法人福祉楽団　内定者）
平岩 なつみさん（福祉KtoY代表、コミュニティデザイナー）

【参加方法】mlvolsup@toyo.jpに氏名、所属、メールアドレスを記入の上送付ください。
参加に必要なURLをお送りします。
※1回のみの参加も可能ですが、3回参加できる方を優先します。

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課）
(TEL) 03-3945-7635　e-mail：mlvolsup@toyo.jp

ボランティアを通じてみんながつながるトークの場！

東洋大学 ボランティアカフェ

ONLINE

「好きなことでボランティア！～旅＋ボランティア＝？～」

リソースパーソン：赤羽 真萌さん
（東洋大学2年、IVUSA白山クラブ）

第1回：2020年12月9日（水）10:40～12:10
参加者同士が交流する、アイスブレーキングを主体とした回です。

第2回：2020年12月16日（水）10:40～12:10
IVUSAの活動の1つである、新潟県関川村での地域活性化活動の話を聞きながら、新しい「旅」のカタチを提案します。

第3回：2020年12月24日（木）10:40～12:10
「旅＋ボランティア」という関わり方の実践者のお話を伺います。
※ゲスト：調整中

【参加方法】mlvolsup@toyo.jpに氏名、所属、メールアドレスを記入の上送付ください。
参加に必要なURLをお送りします。
※1回のみの参加も可能ですが、3回参加できる方を優先します。

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課）
(TEL) 03-3945-7635　e-mail：mlvolsup@toyo.jp

ボランティアを通じてみんながつながるトークの場！

東洋大学 ボランティアカフェ

ONLINE

「町で、森で、海で ～環境活動で見つけるジブンゴト～」

2021年2月10日（水）、15日（月）、22日（月）
16:30～18:00

お茶やコーヒーを飲みながら、オンラインで学内外さまざまな人と出会い、お話をしてみませんか？

2月のボラカフェは環境編。
環境活動は、別に意識が高い人がやるものではありません。
それは、まちでの暮らしを楽しくすることであったり、アウトドアに近い感覚で、自然と対話することであったり。そうして紡がれたつながりの先に、SDGsが目指すサステイナブルな社会につながるのかも知れません。
ゲストのお話が、あなたの新しい「ジブンゴト」に気づくきっかけになるかも知れません！

【参加方法】mlvolsup@toyo.jpに氏名、所属、メールアドレスを記入の上送付ください。参加に必要なURLをお送りします。
※1回のみの参加も可能ですが、3回参加できる方を優先します。

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課）
(TEL) 03-3945-7635　e-mail：mlvolsup@toyo.jp

第1回：2021年2月10日（水）10:40～12:10
リソースパーソン：小山貴理人さん
（東洋大学社会学部社会福祉学科2年、環境系サークルエコポラ 運営部門所属）

東洋大学の環境系サークルエコポラは、幅広く「環境」を捉え活動し、地域と関係を紡ぎながら活動することを通じて、学生の「変化・成長・発展」を目指しています。
地球規模の環境問題の解決も、具体的に身近な地域を良くしていくことからはじまります。エコポラの地域に密着した活動から、そのヒントを探ります。

第2回：2021年2月15日（月）16:30～18:00
スペシャルゲスト：大石百音さん
（北海道教育大学函館校教育学部地域協働専攻2年、アースデイ函館実行委員会）

4月22日は「地球の日（アースデイ）。アメリカ発のムーブメントは日本に伝わって30年、東京をはじめ全国各地で展開されています。函館のアースデイは、学生団体として運営され、道南地域の団体と連携しながら、自然と触れ合うさまざまな機会を創出しています。大自然を舞台に、自然とのつながりを紡ぐ取り組みを、北海道から届けます！

第3回：2021年2月22日（月）16:30～18:00
スペシャルゲスト：相良菜央さん
（I.C.E.R.C Japan（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）代表）

I.C.E.E.C（アイサーチ）Japanは、イルカ・クジラと自然の素晴らしさ・大切さを伝える環境教育団体です。
楽しくイルカ・クジラと海の自然のことを学べる「海の環境学習教室」を、イベント会場や学校、教育施設等で実施するほか、レクチャーやフィールドツアー等を行っています。SDGs14「海の豊かさを守ろう」にも通じる活動です。

ボランティアを通じてみんながつながるトークの場！

東洋大学 ボランティアカフェ

ONLINE

「わたしの3.11、あなたの3.11 ～震災10年と、これから～」

2021年3月2日（火）、9日（火）、16日（月）
17:00～18:30

お茶やコーヒーを飲みながら、オンラインで学内外さまざまな人と出会い、お話をしてみませんか？

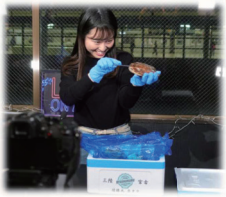
2021年3月11日。東日本大震災から、満10年を迎えます。
いま、大学生になっている皆さんは、当時小学生だったことと思いますが、当時のことは覚えていますか？また、震災がきっかけとなって、いま現在に影響を与えていることはありますか？
10年経ち、さまざまな視点で当時をふりかえることのできる素材が集まっていると思います。
皆で震災からの10年をふりかえりながら、これからの社会の展望を語りたいと思います！

【参加方法】右のQRコードからフォームにアクセスし、必要事項を記入ください。参加に必要なURLをお送りします。
※1回のみの参加も可能ですが、3回参加できる方を優先します。

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課）
(TEL) 03-3945-7635　e-mail：mlvolsup@toyo.jp

リソースパーソン：渡邉 蛍都さん

（東洋大学総合情報学部総合情報学科3年、学ボラTOP大船渡、ボランティア支援室サポートスタッフ）



高校時代、震災復興ボランティア活動に関わった際、「お客さん」になってしまったことへの後悔から、東洋大学入学後に学ボラに加入。TOP（東北応援プロジェクト）大船渡の活動を中心的に引っ張ってきました。その後、復興・創生インターンを通じ、岩手県宮古市のホタテ漁師のもとで活動。東北と共に人生を切り拓いています。

スペシャルゲスト：那須 彩乃さん

（大正大学地域創生学部4年、一般社団法人未来の準備室、NPO法人きっかけ食堂）

東京生まれ東京育ち。
大正大学の授業で、宮城県南三陸町を訪れたことをきっかけに大好きになり、何度も足を運びました。大学の活動と並行し、NPO法人きっかけ食堂で、東北の魅力を食を通じて首都圏に発信してきました。
卒業後は福島県白河市の一般社団法人未来の準備室を通じ、東北に関わり続けます。

スペシャルゲスト：沼能 奈津子さん

（旅行代理店エコ・スタディツアー企画担当 ）

福島県浪江町出身。
かつて実家のあった場所が、福島第一原子力発電所事故による警戒区域に指定されるという経験を持ちながら、自らの実家を題材にしたドキュメンタリー短編映画を作成するなど活躍。
現在は旅行代理店で、エコツアーやスタディツアーの企画に携わり、出身地である浪江町を巡り、地域の「いま」を感じるためのツアープログラムの企画にも関わっています。

東洋大生がワークショップで考える 初めてのSDGs

7月11日（土）13：00～15：00
オンラインでの開催となります。

初級者向け 1年生歓迎！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」（地球上の誰一人として取り残さない）ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。ファシリテーターの八木さんとともに、ワークショップ（参加型学習）を通して、手軽に楽しく深めます。「SDGsってよく分からないけど、気になる」そんな方、歓迎します！

ファシリテーター
八木　亜紀子さん（認定NPO法人開発教育協会（DEAR）事業主任）
静岡県出身。大学時代に国際ワークキャンプに参加したことをきっかけに、ボランティアや市民活動の世界へ。国際協力NGOや中間支援組織を経て、2007年よりDEARの職員となる。広報や教材作成、ワークショップのファシリテーターなどを務めている。2017年度よりアジア人平洋資料センター（PARC）理事。

申込方法：右記のQRコードよりお申込ください。
申込期限：7月4日(土)まで
定　　員：20名（先着順）

東洋大学　ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927　MAIL：mlvolsup@toyo.jp

夏休み　おうち時間応援プロジェクト　第3弾

東洋大生がワークショップで考えるSDGs【オンライン】

「SDGｓを自分ゴトとして考えてみよう」 身近なモノから世界とのつながりを考える

8月28日（金）11：00～13：00

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」（地球上の誰一人として取り残さない）ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。今回はグループワークなどを通して、SDGsを基礎から学ぶとともに、日常生活との接点を見つけ、SDGsを「自分ゴト」として考えます。身近なモノから世界とのつながりを考えてみましょう。

ファシリテーター
岩岡由季子さん(認定NPO法人開発教育協会(DEAR)所属)
神奈川県横浜市出身。大学時代の留学をきっかけに、国際協力や多文化共生に関わる仕事を志す。大学卒業後、コンサルタント企業で採用や教育研修の業務に従事。

申込方法：右記のQRコードよりお申込ください。

申込期限：８月23日まで

定　員：２０名（お申し込み多数の場合は抽選させていただきます）

東洋大学　ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

おうち時間応援プロジェクト　第６弾

東洋大生がワークショップで考えるSDGs【オンライン】
「環境問題から学ぶ初めてのSDGs」

10月3日（土）11：00～13：00

SDGs週間：9/18-26

SDGs (持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」(地球上の誰一人として取り残さない)ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。今回はグループワークなどを通して、SDGsを基礎から学ぶとともに、日常生活との接点を見つけ、SDGsを「自分ゴト」として考えます。身近なことから世界とのつながりを考えてみましょう。

ファシリテーター
星野智子さん（(一社)SDGs市民社会ネットワーク 業務執行理事）
環境とパートナーシップをテーマに、SDGs策定前から関連の市民活動に携わる。ユースや農業、オリンピックに関する環境問題にも関わるなど、あらゆる"つなぐ"を目指して活動中。
(一社)環境パートナーシップ会議副代表理事。

申込方法：右記のQRコードよりお申込ください。

申込期限：9月25日まで

定　員：２０名（お申し込み多数の場合は抽選させていただきます）

東洋大学　ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

東洋大学ボランティアウィーク2020

東洋大生がワークショップで考えるSDGs【オンライン】
「今知っておきたい 世界のジェンダー問題と私たちの権利」
～SRHR（性と生殖に関する健康と権利）を知っていますか?～

「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」（SRHR：性と生殖に関する健康と権利）とは、自分の性や身体のことについて、自分の意志が尊重され、社会的にも心身ともに良好な状態であることを指します。今回のワークショップでは、SDGsゴールの１つである「ジェンダー平等」を切り口に、途上国で見られるジェンダーや格差などの問題を知るとともに、私たち自身の性に関する健康や権利についても、考えてみたいと思います。初めての方大歓迎です！

12月5日（土）11：00～13：00

ボランティアウィーク：11/24-12/15

SDGs (持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」(地球上の誰一人として取り残さない)ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。今回はグループワークなどを通して、SDGsを基礎から学ぶとともに、日常生活との接点を見つけ、SDGsを「自分ゴト」として考えます。身近なことから世界とのつながりを考えてみましょう。

ファシリテーター
柴　千里

国際協力NGOジョイセフにて、I LADY.を担当する他、これまでにタンザニアやネパールの若者支援や、日本やネパール等の被災地支援にも携わる。日本・インドネシア・米国で育つ。

申込方法：右記のQRコードよりお申込ください。
https://forms.gle/JTxGXqHj6GpFb85v5

申込期限：11月25日まで

定　員：２０名（お申し込み多数の場合は抽選させていただきます）

東洋大学　ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

東洋大生がワークショップで考えるSDGs【オンライン】
SDGsゴール１「貧困」ってなんだろう？
～日本での子育てとキャリア、ミャンマー子ども支援の経験から～

開催日：2月25日（木）11：00～13：00

SDGs (持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」(地球上の誰一人として取り残さない)ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。
今回はSDGsのゴールの１つである「貧困をなくそう」をテーマに、世界と日本、そして私たちの身近にある「貧困問題」について、グループワークを通して学びます。私たちの日常生活と社会問題との接点を見つけ、身近なことから世界とのつながりを考えてみましょう。

■ファシリテーター
甲野 綾子さん（NGO　SOSIA代表）

亜細亜大学ボランティアセンターの活動をきっかけに、仲間とミャンマー子ども支援NGOソシアを設立。卒業後はNGO活動を続けつつ、企業、NPOセンター、NGO、JICA研究所を経て2019年よりトヨタ財団に勤務し、外国人材受け入れ助成プログラムを担当。2016年よりママ友と子ども食堂を運営。2018年に名古屋大学国際開発研究科後期博士課程へ進学。
「私は就職氷河期世代で、職業人生のほとんどが非正規雇用でした。ワークショップでは、みなさんと一緒に『貧困』を自分の問題として捉え、学び合うことを楽しみにしています」

■申込方法：右記のQRコードよりお申込ください。
https://forms.gle/3CcVEgMBzeUXqGb89

■申込期限：2月16日（火）まで

■定員：２０名（お申し込み多数の場合は抽選させていただきます）

東洋大学　ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

2020年度　学生課外活動育成会企画
福島県の子どもに寄り添うプログラム

■活動目的、内容

被災地の母子家庭の子ども達と交流することで、復興・創生の現状と向き合い、本学学生として「できる事は何か」を深めます。被災した方々と関わり、現地を知るだけではなく、子どもと遊び、学び、農業体験もできる盛りだくさんな企画ですので、是非ご参加ください!!

８月９日（日）　■集：7:46　掘り　■解　※新　※国　じゃが芋　日まで）

新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため、「web」イベントに変更

■募集内容

対　象	本学学部生（通学課程）　※大学院生、通信教育課程及び交換留学生は申込不可
定　員	２２名　※定員を越えた場合、「応募理由」を確認のうえ、抽選。
持ち物	「参加費（昼食代1,000円）」「農作業装備」「上履き（体育館）」「マスク」 ※参加費は、８月５日（水）以降のキャンセル申出の場合は、後日徴収いたします。 ※農作業装備は、汚れても良い服や靴（長靴）、帽子、軍手を用意してください。
申　込	７月１６日（木）１４：００【厳守】迄に、ｒｅｓｐｏｎ（出席管理アプリ）の受付番号「633 058 739」より申込ください。また、別紙「承諾書」は、参加確定（7/18）後、PDF又は全体を写真で撮影し、7月22日(水)迄にボランティア支援室メール<mlvolsup@toyo.jp>へメール標題を「承諾書（福島県子ども）」と記載し、添付送信してください。 【承諾事項／以下に同意のうえ、申込ください】 ・保証人（大学に届出された保護者等）に、企画参加の承諾を得ること。 ・当日37.5度以上の方や、マスク不着用の方は、参加をお断りいたします。 ・参加が不可能となった場合、集合場所までの交通費を本学は補償しません。 ・学生責任者（森田ゼミ）が当日迄の連絡や参加者名簿等に必要な「学籍番号、氏名、toyoメールアドレス、性別」の参加者の個人情報を、当室から学生責任者へ提供すること。

■申込後の主な流れ（予定）

7月	17日（金）	抽選の場合は、この日までに落選者にtoyoメール宛に連絡いたします（予定）。
	20日（月）	キャンセル申出期限（予約の関係上、この日までに連絡ください）
	22日（水）	事前学習会（顔合せ）を12：15～12：50にWebexで実施（参加者にtoyoメール）。
8月5日（火）～16日（日）		事務局一斉休暇（電話、メール等での対応はできません）

主催：東洋大学ボランティア支援室TEL：03-3945-7927　mail：mlvolsup@toyo.jp

【おうち時間応援プロジェクト　第5弾】
福島県いわき市の農業の現状を発信する（オンライン開催）
2020 学生課外活動育成会企画
本学では、昨年より福島県いわき市で、特に原発事故の影響が大きい農業関係者を応援することを目指して現地で活動を行ってきました。
今夏はコロナウイルス感染症の影響で現地での活動はできなくなりましたが、今回、いわきと本学をオンラインで結んで、中継を交えて講演を行います。
講師は、現地で『コットン』『オリーブ』の生産・流通、放射能、観光等の各方面に携わって活動を続けている方々です。
日時 2020年9月27日(日)
12:30 集合（オンライン入室）
12:45－13:30 NPOいわき放射能市民測定室 たらちね 鈴木さん
13:30－14:15 いわきオリーブプロジェクト 松崎さん
14:30－15:15 ふくしまオーガニックコットンプロジェクト 福島さん
15:15－16:00 (株)起点 酒井さん
16:15－17:00 (株)古瀧 里見さん
期限：9月24日(木)
※申込フォームよりお申し込みください
※現地活動に申込をされた方は改めて申込の必要はありません。
参加定員は設けません。
入退室自由です。お気軽にお申し込みください
※参加者には会場アドレスとともに電子メールでお知らせします。
申込フォーム
3 すべての人に健康と福祉を
15 陸の豊かさも守ろう
東洋大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています
お問い合わせ
東洋大学ボランティア支援室（南水会館1F）
☎：03-3945-7927
✉：mlvolsup@toyo.jp

デイキャンプで遊ぼう会
初めてのボランティア体験
里親家庭とのデイキャンプ（教員引率有）
里親家庭には、多くの場合、里子以外には青年期の家族がいることはほとんどありません。また地域の活動などに参加していないため、子育て中の家族などとの交流の機会が少ないのです。そのような中で、一緒お話やゲームなどの活動をしたり、遊んでくれる大学生との出会いはとても貴重です。
そこで、この里親家庭と大学生達のデイキャンプを実施します！！
屋外のキャンプ場で、子どもたちとあそび、一緒にお話や食事をします。
この活動自体は、児童福祉を学んでいる学生達を中心に、10年余り続けられてきたものです。2018年度より、この活動に一般の学生も参加が可能となりました。ただし、参加を希望する学生には、里親子の置かれている状況を理解するための事前学習を必ず受講いただきます。
日　　時：2020年11月3日(火) 10時～16時30分　小雨決行
場　　所：〒274-0082 千葉県船橋市大神保町594　船橋市立青少年第2キャンプ場
集合場所：東洋大学　白山キャンパス　正門前　バスで現地まで行きます。
集合時間：8時10分
参 加 費 ：無料
参 加 者 ：千葉県里親会の会員と関係者、東洋大学社会学部 森田明美ゼミの学生3・4年生約30名、本学学生、一般市民
引　　率：社会学部社会福祉学科　森田明美教授、森田研究室TA
申し込み：本学学生は以下のフォームより申し込みください。
https://forms.gle/sVH8pEfg5JVheBKG6
締め切り：10月23日（金）13：00まで
定　　員：約20人（定員を超過した場合、選考あり）
事前学習：10月28日（水） 12：20～12：50（参加必須） 教室またはオンライン
注意事項：参加者する方には「行事保険」に加入してもらいます。※費用は大学負担
参加するには別紙「同意書」が必要です。
参加確定（10/22）後、PDF又は全体を写真で撮影し、10月28日(水)迄にボランティア支援室メール＜mlvolsup@toyo.jp＞へメール標題を「承諾書（デイキャンプ）」と記載し、添付送信してください。
【承諾事項／以下に同意のうえ、申込ください】
・保証人（大学に届出された保護者等）に、企画参加の承諾を得ること。
・当日37.5度以上の方や、マスク不着用の方は、参加をお断りいたします。
・参加が不可能となった場合、集合場所までの交通費多本学は補償しません。
・学生責任者（森田ゼミ）が当日迄の連絡や参加者名簿等に必要な「学籍番号、氏名、toyo メールアドレス、性別」の参加者の個人情報を、当室から学生責任者へ提供すること。
問い合わせ：東洋大学　ボランティア支援室
〒113-0021　東京都文京区本駒込1－10－2　甫水会館1F
電話：03-3945-7460　メールアドレス　mlext@toyo.jp
主催：学生課外活動育成会、東洋大学ボランティア支援室
共催：千葉県里親家庭支援センター
後援：特定非営利活動法人こども福祉研究所

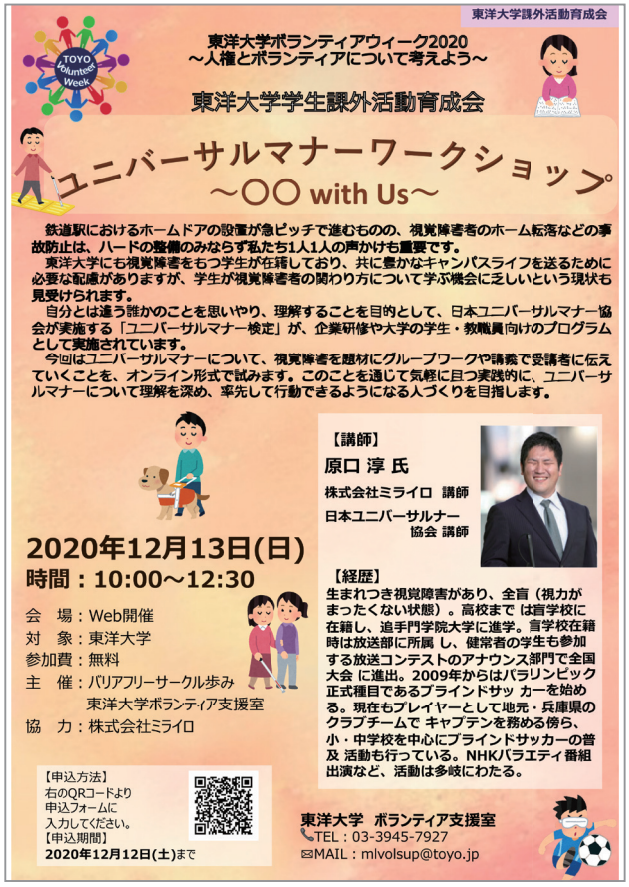
東洋大学ボランティアウィーク2020
東洋大学課外活動育成会
SDGsコンテスト
普段「当たり前のように」使用している場所に“意外なSDGｓ”が隠れていることを学生が知るきっかけを作ることが目的です。
目的
① 本学学生のSDGsへの認知度を高めること。
② 本学学生にSDGsを身近に感じてもらい、“自分ごと”にしてもらうこと。
部門
・フォト部門
身近な出来事、取り組み、風景などを写真で募集する部門。
・スローガン部門
東洋大学のSDGs推進を後押しするようなスローガンを募集する部門。
2部門を募集する。
応募作品の中から優秀な作品を選び、選ばれた方には、後日景品を贈呈します。
入賞者
入賞者にはQUOカードを贈呈
最優秀賞・・・・1万円分
優秀賞　・・・・5千円分
QUOカード
作品募集
フォト部門　スローガン部門
応募期間
2020年11月24日
▶ 12月15日
問い合わせ先
東洋大学ボランティア支援室
電　話：03-3945-7927
メール：mlvolsup@toyo.jp
応募要項の詳細は裏面へ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
探そう！
大学生にできるSDGs！
－東洋大学ボランティアウィーク 2020－
SDGs ボランティア情報展
企画展示
SDGs 開催決定！
11.24（火）～12.15（火）
「就活で良く聞く SDGs ってなんだろう？」
「大学で SDGs 関連の活動がしたい！」
など、SDGs に触れるきっかけにぴったりな情報展です！
大人から子どもまで、車椅子の方にも見やすいバリアフリーな展示です。
また、日本語音声ガイドでもお楽しみいただけます。
オリジナルブックマーク
無料配布中！
【展示場所】
2号館図書館
1F入口
【運営】
TIPS
東洋大学
ボランティア
支援室
【特別協力】
東洋大学
白山図書館
東洋大学
課外活動
育成会
【お問い合わせ先】
東洋大学ボランティア支援室
(TEL) 03-3945-7927
(e-mail) mlvolsup@toyo.jp

探そう！大学生にできるSDGs！
白山キャンパスにつづく
追加展示が朝霞に！
企画展示
SDGs
2020. 12. 20～2020. 1. 8
講義棟1階 学生ホール
ブックマークもらえる！
※数量限定 ※無くなり次第終了です。
スマホで見られる日・英・韓字幕の
日本語音声ガイドも！
TIPS
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
運営 学生団体 東洋大学 TIPS / 東洋大学ボランティア支援室（東洋大学課外活動育成会）
特別協力 東洋大学朝霞事務課

探そう！大学生にできるSDGs！
白山、朝霞につづいて
追加展示が板倉に！
企画展示
SDGs
2021. 1. 14～1. 30
※授業休講の 1. 15～17、19～21、24 は休館です
板倉図書館（1F 展示コーナー）
ブックマークもらえる！
※数量限定 ※無くなり次第終了です。
スマホで見られる日・英・韓字幕の
日本語音声ガイドも！
TIPS
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
運営 学生団体 東洋大学 TIPS / 東洋大学ボランティア支援室（東洋大学課外活動育成会）
特別協力 東洋大学板倉図書館

もし、首都直下地震が発生したら、どうするかあなたは答えられますか？
東洋大学課外活動育成会
東洋大学ボランティアウィーク2020
大地震！どうする？どこへいく？？
～『備え』のための1dayオンラインワークショップ～
およそ100年周期でマグニチュード7クラスの地震が首都圏で発生すると言われている、いわゆる「首都直下型地震」は、今後30年以内に70%以上の確率で発生すると懸念されています。
もし、あなたが在宅中に大地震が発生した場合、自宅に留まりますか？避難所に行きますか？避難所に行くなら、何を持ち出しますか？そもそも、避難所はどこでしょうか？
このオンラインワークショップでは、ある日強い地震が発生したという場面を想定し、やがて更に激しい地震が起こることに備えるために、何を確認すればよいか、備えるべきもの・ことは何か、ということについて実践的に学びます。
12/12（土）
11：00～
【内容】
・運営団体活動紹介（東洋大学 IVUSA）
・アイスブレーキング
・あなたの住む地域で災害が起きたら？-起きうるリスクと避難所を確認しよう-
・災害発生！あなたはどうする？～発災後の行動と、避難について考えよう～
・レクチャー（宮崎賢哉さん） ほか
【インストラクター】
宮崎 賢哉さん（災害救援・防災教育コーディネーター、社会福祉士）
2005年立正大学社会福祉学部卒。阪神・淡路大震災をきっかけにボランティアに携わり、大学在学中に学生団体を設立して災害支援や防災教育に取り組む。2005年より、被災地支援活動や学生団体での経験を活かし、公益法人職員として大学での災害ボランティア講座や学生支援を担当。2014年に社内起業で防災教育を普及する社団法人を設立。
児童・生徒、教職員、企業等での防災教育訓練、災害時要配慮者の防災対策、公園・緑地の指定管理業務など、幅広い分野で活動する。
参加費
無料
定 員
30名
申込多数の場合抽選
対象：学部生のみ
大学院生、通信生の方はお申込みいただけません。
申 込 方 法
申込方法：右のQRコードより申込フォームに入力してください。
https://forms.gle/CNiGrcAmxMY7Z1rh6
申込期間：2020年11月16日（月）～12月6日（月）
※申込み者多数の場合、抽選になります。参加の可否については、12月10日（木）までに申込時に登録したメールアドレスにお送りします。
お問い合わせはこちら
東洋大学ボランティア支援室
TEL： 03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp
TOYO UNIVERSITY


東洋大学課外活動育成会
東洋大学ボランティアウィーク2020
～人権とボランティアについて考えよう～
東洋大学学生課外活動育成会
ユニバーサルマナーワークショップ
～○○ with Us～
鉄道駅におけるホームドアの設置が急ピッチで進むものの、視覚障害者のホーム転落などの事故防止は、ハードの整備のみならず私たち1人1人の声かけも重要です。
東洋大学にも視覚障害をもつ学生が在籍しており、共に豊かなキャンパスライフを送るために必要な配慮がありますが、学生が視覚障害者の関わり方について学ぶ機会に乏しいという現状も見受けられます。
自分とは違う誰かのことを思いやり、理解することを目的として、日本ユニバーサルマナー協会が実施する「ユニバーサルマナー検定」が、企業研修や大学の学生・教職員向けのプログラムとして実施されています。
今回はユニバーサルマナーについて、視覚障害を題材にグループワークや講義で受講者に伝えていくことを、オンライン形式で試みます。このことを通じて気軽に目つ実践的に、ユニバーサルマナーについて理解を深め、率先して行動できるようになる人づくりを目指します。
2020年12月13日(日)
時間：10:00～12:30
会 場：Web開催
対 象：東洋大学
参加費：無料
主 催：バリアフリーサークル歩み
東洋大学ボランティア支援室
協 力：株式会社ミライロ
【講師】
原口 淳 氏
株式会社ミライロ 講師
日本ユニバーサルナー協会 講師
【経歴】
生まれつき視覚障害があり、全盲（視力がまったくない状態）。高校まで は盲学校に在籍し、追手門学院大学に進学。盲学校在籍時は放送部に所属 し、健常者の学生も参加する放送コンテストのアナウンス部門で全国大会 に進出。2009年からはパラリンピック正式種目であるブラインドサッ カーを始める。現在もプレイヤーとして地元・兵庫県のクラブチームで キャプテンを務める傍ら、小・中学校を中心にブラインドサッカーの普及 活動も行っている。NHKバラエティ番組出演など、活動は多岐にわたる。
【申込方法】
右のQRコードより申込フォームに入力してください。
【申込期間】
2020年12月12日(土)まで
東洋大学 ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

東日本大震災から１０年経った今
被災地の若者と東洋大生が考える震災と復興
東洋大学
TOYO UNIVERSITY
東日本大震災から10年が経った今、被災経験をした若者との交流を通じて
「震災」に向き合い、同じ若者としてできることについて考えるプログラムです。
※本イベントは、復興を考える「Project M」に取り組む南三陸出身の方に参加していただきます。東日本大震災を語り継ぐ活動と、若い世代が社会の中で地域交流を実践する活動を行っています。
「震災当時を知る」
語り部や現地の方々との交流を通じて当時の様子を教えていただきます
「今後を考える」
震災について学んだあと私たちにできることは何かを考えます
実施日2021年2月20日(土)　18:30～20:30
実施方法：オンライン開催（webシステムを利用）
主なプログラム
1.被災経験をした若者から語り部を聞き、現地の現状や取り組みについて学習する
2.過去の災害についての学習を通じて防災意識を高め、緊急時における知識や行動力を身につける
定員：30名(申込み者多数の場合、選考となります)※学部生のみ
申込方法：下記のQRコードやURLからアンケートにお答えの上、申込みください
申込期間：2021年2月5日(金)から2021年2月18日(木)まで
〈お申し込み〉
URL： https://forms.gle/ctaD7bp4bhBMXXT87
主催：東洋大学ボランティア支援室　協力：Project M
東洋大学学生課外活動育成会
〈お問い合わせ〉
お問い合わせ先：東洋大学ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927　MAIL：mlvolsup@toyo.jp

参加企画
「東洋SDGs コンテスト」
募集期間：11月24日～12月15日
申込先：ボランティア支援室
展示企画
「探そう！大学生にできるSDGs ～SDGsボランティア情報展～」
展示期間：11月24日～12月15日
展示場所：図書館他学内各地
参加企画
「ボランティアカフェ」
好きなことでボランティア ～旅＋ボランティア＝？～
日時：①12月9日 ②12月16日 ③12月23日 10：40～12：10
会場：オンライン開催
講演会
「ボランティア入門講座」
日時：12月10日（木） 10：40～12：40
会場：オンライン開催
講演会
東洋大生がワークショップで考えるSDGs
「今知っておきたい 世界のジェンダー問題と私たちの権利」
～10代（性と生殖に関する権利）と 人権「知っていますか？」～
日時：12月5日（土） 11:00～13:00
会場：オンライン開催
講演会
「企業と人権①」 ～就職先を選ぶにあたって～
日時：12月1日（火） 9:00～10:30
会場：オンライン開催
講演会
「エイズってなんだろう？ ～楽しく正しく学ぶ！ 性感染症・エイズ～」
日時：12月8日（火） 16:30～18:00
会場：オンライン開催
講演会
「子どもの権利実現のために自分たちにできることを考える」
日時：12月7日（月） 13:00～14:30
会場：オンライン開催
講演会
「SDGsと子どもの人権」
この授業は事前にオンデマンド(youtube)にて講義を発信し、当日はディスカッションを行います
日時：12月16日（水） 15:15～16:15
会場：オンライン開催
講演会
「大地震！どうする？どこへいく？？ ～『備え』のための1dayオンラインワークショップ～」
日時：12月12日（土） 11:00～13:00
会場：オンライン開催
講演会
「ユニバーサルマナーワークショップ ～OO with Us～」
日時：12月13日（日） 10：00～12：30
会場：オンライン開催
参加企画
「Hands to Hands プロジェクト」
募集期間：11月9日～
配布期間：11月16日～
申込先：ボランティア支援室
東洋大学ボランティア支援室
2020年　東洋大学・ボランティアWEEK
～SDGsとボランティアについて考えよう～
2020.11.24～12.15
TOYO Volunteer Week

東洋大学ボランティアウィーク2020
～人権とボランティアについて考えよう～
（オンライン）
CSR論/環境コミュニケーション論
公開講義『企業と人権』のお知らせ
企業活動の発展は社会全体の発展が前提である、という考えから、社会全体への責任として、企業によるCSRの適切な実施が求められています。
そのガイドラインとして国際規格ISO26000が2010年に制定されました。日本語版としては、JIS Z 26000「社会的責任に関する手引」が2012年3月に制定されました。
近年では2015年9月の国連サミットで採択された国際目標としてのSDGs(持続可能な開発目標)を取り込む動きもあります。
12月10日は『世界人権デー』です。本講義ではこのことも踏まえて多くの企業のCSR実務に取り組まれている秋山講師に講演をお願いします。ぜひご参加ください。
日時：12月1日（火）　1限（9：00-10：30）
講師：秋山映美氏（株式会社クレアン）
参加方法：WebexMeetings にて実施
事前申込制：（下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前に当日の参加URLをお送り致します。）11月27日締切
https://forms.gle/2dB5jAYRTL65TS29A
問合せ先：ボランティア支援室
Tel　03（3945）7927
E-Mail　mlvolsup@toyo.jp

東洋大学ボランティアウィーク2020
教育制度論/幼児教育基礎論Ⅱ　公開講座
子どもの権利実現のために自分たちにできることを考える
～国連・子どもの権利条約とSDGsの視点から～
本講座では、国内外の子どもの貧困や差別の解消のために取り組んでこられた認定NPO法人「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」の副代表理事の出野恵子氏をお招きし、グローバル・スタンダードである国連・子どもの権利条約とSDGsの理念、子どもの権利の視点を踏まえた子ども支援の実際について、具体的事例を紹介していただくとともに、小グループに分かれてワークショップを行い、子ども支援のさまざまな場面における子どもへのまなざしや子どもへの接し方について、ともに考え合います。
日時：12月7日（月）　3限（13：00-14：30）
講師：出野　恵子氏
（認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン　副代表理事・ファシリテーター）
参加方法：zoomにて実施
事前申込制：（下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前までに当日の参加URLを　お送り致します。）12月3日締切
https://forms.gle/yk11vZ2YmURvaybH7
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
TOYO Volunteer Week
東洋大学　ボランティア支援室
TEL　：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

東洋大学ボランティアウィーク2020

エイズってなんだろう？

楽しく正しく学ぶ！性感染症・エイズ

日時　2020年12月8日（火）5限16:30～18:00

「貧困と社会的排除」の講義内

参加方法：WebexMeetings にて実施

事前申し込み制（下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前に当日の参加URLをお送り致します。）
https://forms.gle/roCLuwoZr4VQJMrM7

社会福祉学科 川原ゼミではSDGs の取り組みの一環として、エイズ・性感染症予防についての正しい知識を広める活動を行っています！

3 すべての人に健康と福祉を　5 ジェンダー平等を実現しよう

プログラム

16:30～ 当授業の目的・趣旨説明
16:40～ 性感染症に関する学内調査の報告
16:50～ 学生プレゼン
17:05～ オカモト株式会社・和田様によるお話
17:30～ 東洋大学学生団体DAISYによるピア・エデュケーション
17:50～ 事後アンケート

主催：社会学部 社会福祉学科 川原ゼミ
共催：オカモト株式会社、東洋大学学生団体DAISY
協力：公益財団法人エイズ予防財団

お問い合わせ先　社会学部社会福祉学科 河原、中山、鎌田
E-mail　s15301701008@toyo.jp（代表）

東洋大学ボランティアウィーク2020

公開講座　「SDGsと子どもの人権」

SDGs（持続可能な開発目標 は、持続可能な世界を実現するための 17 のゴールと 169のターゲットで構成されている 2030 年までの国際目標です。
「 leave no one behind 」地球上の誰一人として取り残さない ことを誓っていますが、私たちの身の周りではどのように関係するのでしょうか。
この公開講座ではSDGsと子どもの人権に焦点をあて、国際社会における子どもとSDGs、子どもを取り巻く環境と人権、企業が取り組む子どもの人権などについて学び、自分たちができることを考えます。

日時：12月16日（水） 4限（15:15-16:15）
講師：秋山映美氏（株式会社クレアン）
参加方法：WebexMeetingsにて実施

※この授業は事前にオンデマンド(youtube)にて講義を受講し、当日は担当教員（児童福祉論B担当森田明美）、講師および受講者でディスカッションや質疑応答を行います。

事前申込制：（下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント2日前までに当日の参加URLをお送り致します。）12月13日締切
申込：https://forms.gle/gvg5rC4pWWsn4yBz5

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

東洋大学　ボランティア支援室
TEL ：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

[東洋大学ボランティアウィーク2020]

ボランティア入門講座(オンライン)

ボランティアについて、参加者同士交流しつつクイズを交えながら楽しく学ぶオンラインセミナー（ウェビナー）です。
ボランティアが「何かちょっと気になってる」というくらいの感覚で参加していただいて構いません。気軽な気持ちで参加してみてくださいね。

●日時
2020年12月10日（水）10:30～12:40（10:30より受付開始、10:40より開始予定）
●会場：オンライン（申し込みをした方に、URLをお送りします）
●参加の方法：mlvolsup@toyo.jp宛に、氏名・所属（学部学科学年）、メールアドレスを記載し送付してください。また、聞いてみたいことや知りたいことなどがあったら、合わせて記入いただければ幸いです。
●講師：日比野 勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
渡邉 蛍都　杉本昂照（たかき）
（東洋大学ボランティア支援室 学生サポートスタッフ）
●その他：本ウェビナーの内容は、社会学部「ボランティア活動入門」や、教育学科・社会福祉学科の基礎演習における日比野の講義をベースにしていますが、クイズを取り入れるなど、一部内容の追加や手法の変更などを行っています。

お問合せ先：03-3945-7927（東洋大学エクステンション課）
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2甫水会館1階

ボランティア支援室

「しゃべり場（オンライン窓口）」オープンのお知らせ

＊開室時間：開室カレンダーで確認

新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた東洋大学の取り組みとして、ボランティア支援室は閉室を余儀なくされておりますが、夏休みを目前に迎えて、「外出はできないけど、何かできないか」「ボランティアに興味はあるけど、どうしたらいいかわからない」「ボランティアのことを知りたい」「１年生だけど、授業以外での知り合いが欲しい」等の声を聞き、『東洋大学生がweb上で気軽に集まる場所』として「しゃべり場（オンライン窓口）」をオープンいたします。

場所：https://zoom.us/j/99605027750?pwd=YWVYR3k3ZFZHRmFFeWQvU3M3OEFBZz09

ミーティングID: 996 0502 7750
パスワード: 2pJZ8h

・開室日時の詳細は「開室カレンダー」をご覧ください。
・原則、東洋大学の学生・教職員及びボランティア支援室より依頼を受けた講師等以外の方は入室できません。上記ミーティング情報の学外者への転送・共有はご遠慮願います。
・また、参加される方の個人情報保護の観点から、参加者によるレコーディングやスクリーンショットの撮影はご遠慮ください。

○事前の準備
「ボランティア支援室オンライン窓口」は当面、下記のアプリを使用します。
事前にアプリのインストール、環境のご確認をお願いします。
・アプリのダウンロードはこちら(zoom の公式サイト)から可能です。
（モバイルアプリ）https://zoom.us/download#mobile_app
（PC）https://zoom.us/download

東洋大学ボランティア支援室　mlvolsup@toyo.jp　03(3945)7927

Toyo University

Hands to Hands

みんなで乗り越える、コロナ禍

「がんばってね」を
「ありがとう」の
バトンで繋ごう!!

東洋大学ボランティア支援室では
食料品の寄贈を募ります。

「Withコロナ」時代を生きる学生の中には実家からの仕送りやアルバイトが減少し、生活がピンチの学生が出ています。東洋大学ボランティア支援室が仲介して、そうした学生を含めてみんなで助け合い、コロナ禍を乗り越える場を創り出し、そこで必要な食料品などが入手でき、学業継続の意欲を支えあう活動を展開することにしました。多くの方々からの寄贈とご協力をお願いします。

ご提供していただきたい食品

○缶詰　○レトルト食品　○お米　○麺類　○粉類　○茶葉、コーヒーなど
○菓子類　○ペットボトル・缶などの常温で保存のきく飲料（酒類を除く）
※生鮮食品および原則として賞味期限が１ヶ月未満のものは対象外。

第1弾：9月８日（火）～ 9月30日（水）
平日10：00～16：00まで

【※平日13時～14時、※9月16日（創立記念日）、土日祝日は除く】

物資の送付場所について（ご郵送の場合、郵送代は自己負担でお願いします。また、別紙受付カードを同封してください）
113-0021　東京都文京区本駒込1-10-2　甫水会館1F
社会貢献センター（ボランティア支援室）
☎03-3945-7927　✉mlvolsup@toyo.jp
学生さんからの寄贈も大歓迎!!　仕分け等のボランティア同時　募集中!!

後援・協力：東洋大学甫水会　東洋大学校友会　東洋大学生協

学生の皆さんへ

Hands to Hands

-みんなで乗り越える、コロナ禍-

「With コロナ 」時代を生きる中で、実家からの仕送りやアルバイトが減少したことにより、生活に不安をお持ちの方がいらっしゃるかと思います。

ボランティア支援室では、「Hands to Hands-みんなでのりこえるコロナ禍-」として、食料品の寄贈を通じて“学生・教職員がみんなで助け合い 、コロナ禍を乗り越える”『場』を提供いたします。ここでは学生さんが必要な食料品などを入手できることで、学業が継続できる環境を支えあうことを目指しています。

現在、物資の受付を行っております。
学生の皆さんが物資を受け取ることで、少しでも不安を取り除けるのであれば幸いです。
ご応募お待ちしております。

1．受付期間：2020年10月１日（木）～寄贈品がなくなり次第終了
2．申込方法：Google Form(アドレス等、入力必須)にて受付
3．受取期間：2020年10月２日（金）～寄贈品がなくなり次第終了
　平日10：00～18：00まで【※平日13時～14時、土日祝日は除く】
　※受け取り日程についてはお申込後改めて事務局から連絡します。
4．受取場所：白山キャンパス：8号館前　甫水会館１F　ボランティア支援室
　川越キャンパス：川越教学課
　朝霞、板倉、赤羽キャンパス　現在調整中
5．問合せ先： E-Mail:mlvolsup@toyo jp（ボランティア支援室）

お申し込みは
こちら⇓⇓⇓

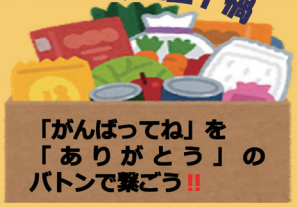
※多くの学生さんへ支援を行う目的から、お一人当たりの受取回数及び品数を調整させていただくことがあります。
※窓口での「密回避」のため、受取日時につきましては「予約制」とさせていただきます。
※物資の提供も積極的に受け付けております。みんなで支えられる場を目指しておりますので、ご協力　いただきますようお願いします。

後援・協力：東洋大学甫水会 東洋大学校友会 東洋大学生協

Toyo University

Hands to Hands

みんなで乗り越える、コロナ禍



好評につき
第2弾！

「がんばってね」を
「ありがとう」の
バトンで繋ごう!!

東洋大学ボランティア支援室では
食料品の寄贈を募ります。

10月より開始いたしました「Hand to Hands」プロジェクトですが、おかげさまで200名の学生から申し込みをいただき、配布が終了する予定です。
しかしながら、支援を必要とする学生さんはまだまだいると思われます。引き続き「Withコロナ」時代を生きる学生のために、寄贈とご協力いただきますようお願いします。

ご提供していただきたい食品

○缶詰　○レトルト食品　○お米　○麺類　○粉類　○茶葉、コーヒーなど
○菓子類　○ペットボトル・缶などの常温で保存のきく飲料（酒類を除く）
※生鮮食品および原則として賞味期限が１ヶ月未満のものは対象外。

第2弾：10月19日（月）～11月13日（金）
平日10：00～16：00まで

【※平日13時～14時、大学祭（10/30～11/3）土日祝日は除く】

物資の送付場所について（ご郵送の場合、郵送代は自己負担でお願いします。また、別紙受付カードを同封してください）
113-0021　東京都文京区本駒込1-10-2　甫水会館1F
社会貢献センター（ボランティア支援室）
☎03-3945-7927　✉mlvolsup@toyo.jp
学生さんからの寄贈も大歓迎!!　仕分け等のボランティア同時　募集中!!

後援・協力：東洋大学甫水会　東洋大学校友会　東洋大学生協

学生の皆さんへ

Hands to Hands 2

-みんなで乗り越える、コロナ禍-

ボランティア支援室では、「Hands to Hands-みんなでのりこえるコロナ禍-」として、食料品の寄贈を通じて“学生・教職員がみんなで助け合い 、コロナ禍を乗り越える”『場』を提供いたします。ここでは学生さんが必要な食料品などを入手できることで、学業が継続できる環境を支えあうことを目指しています。前回、申込者多数により一旦受付を中断しましたが、今回、第2弾として受付を再開します。申込方法、配布場所等は前回と同じです。

学生の皆さんが物資を受け取ることで、少しでも不安を取り除けるのであれば幸いです。
ご応募お待ちしております。

1．受付期間：2020年11月9日（月）～寄贈品がなくなり次第終了
2．申込方法：Google Form(アドレス等、入力必須)にて受付
3．受取期間：2020年11月16日（月）～寄贈品がなくなり次第終了
　平日10：00～18：00まで【※平日13時～14時、土日祝日は除く】
　※受け取り日程についてはお申込後改めて事務局から連絡します。
4．受取場所：白山キャンパス：8号館前
　甫水会館１Fボランティア支援室
　川越キャンパス：川越教学課
　朝霞、板倉、赤羽各キャンパス　各事務課窓口
5．問合せ先： E-Mail:mlvolsup@toyo jp（ボランティア支援室）

お申し込みは
こちら⇓⇓⇓⇓

※多くの学生さんへ支援を行う目的から、お一人当たりの受取回数及び品数を調整させていただくことがあります。
※窓口での「密回避」のため、受取日時につきましては「予約制」とさせていただきます。
　予約は受取希望日の前日 (白山以外のキャンパスは前々日)の午後4時までにお願いします
※物資の提供も積極的に受け付けております。みんなで支えられる場を目指しておりますので、ご協力　いただきますようお願いします。

後援・協力：東洋大学甫水会 東洋大学校友会 東洋大学生協

もし、災害時に避難所に行かなければならなくなったら、そこであなたはどうしますか？

避難所運営 させてもらえませんか？

～ゲームで学ぶ避難所運営～

近年では毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。

もし、あなたが家にいるときに災害が発生した場合、自宅に留まりますか？避難所に行きますか？
避難所に行くとすれば、避難所に対してどんなことを求めますか？？

HUG(避難所運営ゲーム)は、避難所で起こるさまざまな出来事の解決に向け、
共に考えどう対応していくかを模擬体験できます！

「避難所運営なんて自分には関係ない」そう思っていませんか？

しかし、実際の避難所は避難する一般市民も協力して行かなければ成り立ちません。
避難する側も避難所運営を模擬体験すれば、いかに大変なのかがわかり、「私も手伝えないか」という共助の視点を持つことができます！

オフラインでの HUG の様子
（2019.12 東洋大学にて）

コロナ禍で大災害が起こったら…？コロナ禍の避難所ってどうなるの…？

災害はいつ起きるか分かりません。
だからこそ、ゲームを通して今からできることを楽しく学んでいきましょう！！

ちょっと避難所運営させてもらえませんか？

当日は、ブレイクアウトルームでのグループセッションの進行を学生ファシリテーターが行い、話題提供と解説を講師が行います。
（ZOOM を使用しますので、予めご準備をお願いします）

講師：宮崎猛志氏（NPO 法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）理事）

北海道南西沖地震以降の国内、国外の災害現場において救援・復旧・復興活動を行う NPO 法人国際ボランティア学生協会理事
平時には、地域防災や危機対応に関する講演やワークショップを実施

協力：IVUSA 白山クラブ

オンライン開催！

日　時
3月3日（水）
10時～12時

募集人数
30人

参加費
無　料

申　込　方　法

申込方法：お問い合わせ欄の QR コードより申込フォームに入力してください。
申込期間：2021 年 2 月 19 日（金）～2 月 28 日（土）
※申込み者多数の場合、抽選になります。参加の可否および URL については、3 月 2 日（月）に申込時に登録したメールアドレスにお送りする予定です。

お問い合わせはこちら

東洋大学ボランティア支援室
TEL： 03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

こちらの QR コードを
読み込むと、申込フォームに
ジャンプできます！

社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会
地域活性化活動支援事業報告会

式 次 第

1．開式の挨拶　　社会貢献センター長　森田　明美
2．式辞　　東洋大学学長　矢口　悦子
3．受賞者発表・報告

【個人表彰】表彰状と賞金（3万円）目録
寺田　一世（テラダ　イッセイ）　（情報連携学部情報連携学科 3 年）

【団体表彰】表彰状と賞金（3万円）目録
Brand New Toyo(BNT)
佐々木茂ゼミナール 30期
お友達プロジェクトLEAF

【助成金採択団体】表彰状と盾
Food Project Fukushima
国際ボランティアサークル　salamat

5．閉式

日時：2021年3月16日（火）
社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会
10：30 ～ 11：30
地域活性化活動支援事業報告会
13：00～
会場：Web開催（webex）
ID:184 627 8741　PASS: PPjHsaFH272
申込不要！どなたでもご参加ください！！

社会貢献センターでは、「地域活性化活動支援事業」の助成を行っています。
地域活性化活動支援事業は、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に先生方と学生が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施しています。
この活動報告会に是非お越しいただき、東洋大学の社会貢献活動の様子をご覧ください。

【2020 年度 活動一覧 】

1．香川県さぬき市とアイゼンシュタット市（オーストリア）との姉妹都市交流協力（オンライン活動）
2．在住外国人と協働する宮城県気仙沼の復興活動の支援
3．南会津町観光まちづくりデザイン研究Ⅱ
　－アドベンチャー・ツーリズムの開発に向けて
4．広島県呉市御手洗地区における地域活性化支援事業
5．世代間交流型健康体操教室による地域在宅高齢者に対する健康づくり活動　（オンライン活動）

お問い合わせ：☎03 3945 7460 ✉ mlext@toyo.jp
東洋大学社会貢献センター（エクステンション課）南水会館 1F

2020年度　ボランティア支援室について

ボランティア支援室　ガイダンスの実施

ボランティア支援室では、学生のボランティア意識向上を図るため、授業単位でボランティア支援室のコーディネーターによるガイダンスを実施した。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、春学期は「対面」での授業が中止となり、「Web」を用いたガイダンスが中心となった。

概要は以下のとおり。

1．実施コース

A.	概要説明・ワーク（注）・白山キャンパスボランティア支援室見学	90分コース
B.	概要説明・ワーク（注）	60 ～ 90分コース
C-1.	概要説明	30分コース
C-2.	概要説明　※映像によるガイダンス	30分コース
D.	Web 紹介動画の利用（You Tube 動画でのご案内）	30分程度

（注）ワークはディスカッション等を行います

2．実施日時

授業期間に授業単位での実施

3．申込方法

①ボランティア支援室サイト内のお申し込みフォームにご入力

②別紙の「ボランティア支援室ガイダンス申込書」に必要事項をご記入の上、ボランティア支援室（白山キャンパス・甫水会館1階）に電子メールまたは直接提出

① ②のいずれかの方法でお申込ください。

4．実施実績（2020年度）

13件（５月…３件、６月…９件、１月…１件）

5．受講者の感想（抜粋）

・今まではボランティアというものを全く理解していなかったのだなと思い知らされました。
・ボランティアは「やりたい」という意思も大事だがそれと同時に「やりたくない」という意思も尊重すべきである。
・コロナウイルスによる制限もなくなったら比較的簡単なボランティアから始めたい。
・ボランティアと奉仕活動の違いが今まで同じだと思っており、自分がボランティアだと思っていたことが奉仕活動だったことに驚いた。
・自分の趣味や特技も活かせるボランティアについて興味が湧きました。

東洋大学ボランティア支援室要項

平成29年要項第３号・平成29年４月１日施行

東洋大学ボランティア支援室要項

（設置）
第１条　東洋大学社会貢献センター規程第４条第４項に基づき、社会貢献センターに「東洋大学ボランティア支援室」（以下「ボランティア支援室」という。）を置く。

（目的）
第２条　ボランティア支援室は、本学で実施する学生及び教職員によるボランティア活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献活動の発展に寄与することを目的とする。

（機能）
第３条　ボランティア支援室は、学生支援課をはじめ各部署が所管するボランティア活動と相俟って相互に連携及び協力するとともに、全学的な統括部署としての機能を有する。

（業務）
第４条　ボランティア支援室は、第２条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。
（１）ボランティア支援室の方針及び計画の策定に関する事項
（２）ボランティア活動の開拓及び実施に関する事項
（３）ボランティア活動に関する情報の収集、管理及び提供に関する事項
（４）ボランティアに係る相談、助言及び支援策に関する事項
（５）学外ボランティア関係機関等からの紹介及び連絡調整に関する事項
（６）その他ボランティア支援室の目的達成に必要な業務

（室長）
第５条　ボランティア支援室に、室長を置く。
２　室長は、社会貢献センター長とし、ボランティア支援室の業務を統括し、ボランティア支援室を代表する。

（副室長）
第６条　ボランティア支援室に、副室長を置くことができる。
２　副室長は、本学の専任教授のうちから、室長及び学長の推薦により、理事長が任命する。
３　副室長は、室長を補佐するとともに、室長に事故があるとき又は室長が欠けたときは、室長の職務を代理し、又は代行する。
４　副室長の任期は２年以内とし、室長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

（専門スタッフ）
第７条　ボランティア支援室に、ボランティア支援活動に従事する者として、専門スタッフを配置する。

2　前項のスタッフの任用及び職務等については、別に定める。

（運営委員会）
第８条　ボランティア支援室に、運営委員会を置く。

（運営委員会の組織）
第９条　運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
（１）室長及び副室長
（２）社会貢献センター運営委員会委員（通信教育部長を除く。）から互選した者　若干名
（３）室長が推薦する者　若干名
（４）学生部長
（５）教務部長

（委員の任期）
第10条　前条第２号及び第３号に掲げる委員の任期は、２年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。
2　委員は、再任することができる。

（審議事項）
第11条　運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
（１）ボランティア支援室の基本方針
（２）ボランティア支援室の業務計画に関する事項
（３）学長から諮問された事項
（４）その他ボランティア支援室に関する重要事項

（議長）
第12条　運営委員会は、室長が招集し、その議長となる。

（委員以外の出席）
第13条　議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

（専門部会）
第14条　運営委員会は、専門的な事項について調査審議するほか、ボランティア支援室業務に係る企画立案等の作業を支援するため、専門部会を置く。
2　専門部会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて室長が定める。

（業務計画）
第15条　室長は、当該年度の10月末日までに次年度の業務計画を定め、学長の承認を受けなければならない。
2　室長は、各年度の業務の実施結果について、当該年度終了後１カ月以内に、学長に報告しなければならない。
3　業務計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

（評価委員会）
第16条　ボランティア支援室が実施したボランティア活動等業務内容を評価し、その活動内容について室長に適切な助言をするために、評価委員会を置く。
２　評価委員会の運営及び評価方法に関する必要事項は、別に定める。

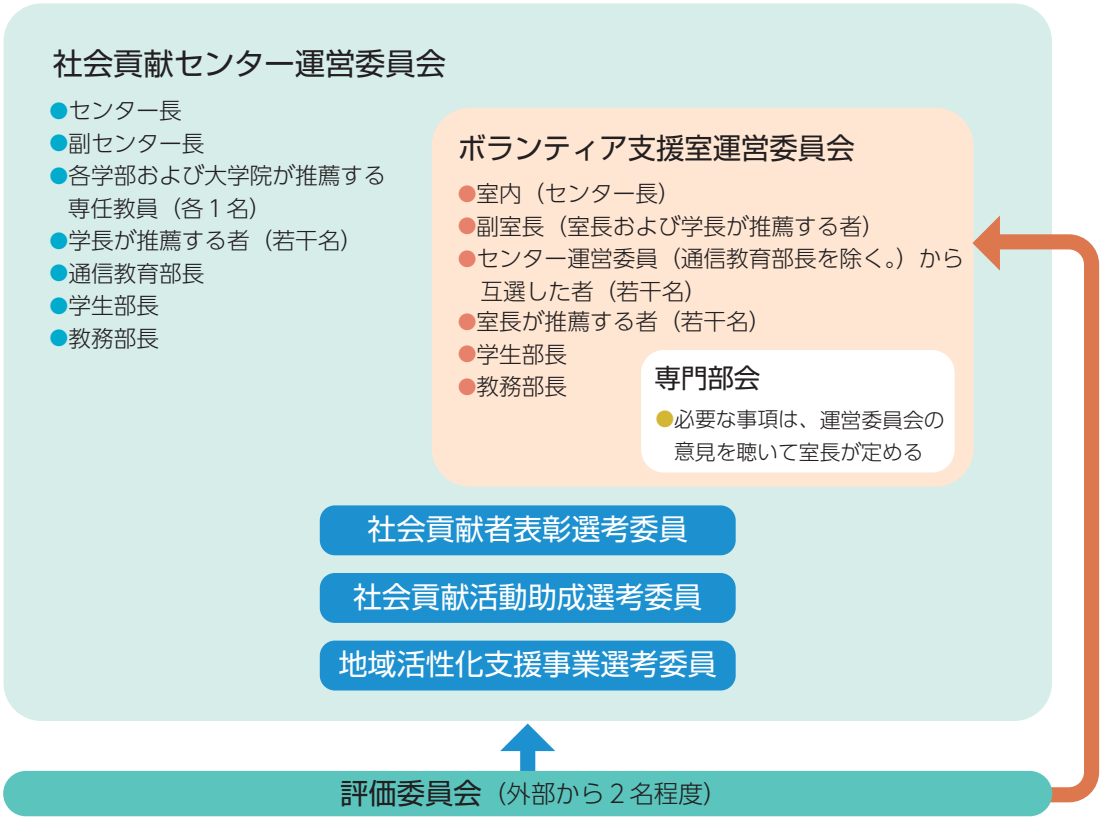
（事務）
第17条　ボランティア支援室の事務は、学生支援課その他関係部署と連携協力のうえ、エクステンション課が行う。

（細則）
第18条　この要項の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて室長が定める。

（改正）
第19条　この要項の改正は、学長が室長の意見を聴いて行う。

附　則
この要項は、平成29年４月１日から施行する。

組織図



ボランティア支援室運営委員会委員名簿

所属キャンパス	所　　属	氏　　名
白　山	室　長	森　田　明　美

東洋大学ボランティア支援室要項第５条による
(任期：2019 年４月１日～ 2021 年３月 31 日)

所属キャンパス	所　　属	氏　　名
白　山	法　学　部	今　井　雅　子
板　倉	生　命　科　学　部	藤　村　　真

東洋大学ボランティア支援室要項第９条２号による
(任期：2019 年４月１日～ 2021 年３月 31 日)

所属キャンパス	所　　属	氏　　名
白　山	室　長　推　薦（文 学 部）	高　野　聡　子
白　山	室　長　推　薦（法 学 部）	谷　釜　尋　徳
白　山	室　長　推　薦（社 会 学 部）	箕　曲　在　弘
朝　霞	室　長　推　薦（ライフデザイン学部）	内　田　塔　子
川　越	室　長　推　薦（総合情報学部）	小　瀬　博　之

東洋大学ボランティア支援室要項第９条３号による
(任期：2019 年４月１日～ 2021 年３月 31 日)

所属キャンパス	所　　属	氏　　名
白　山	学　生　部　長	早　川　和　宏

東洋大学ボランティア支援室要項第９条４号による
(任期：2020 年４月１日～ 2022 年３月 31 日)

所属キャンパス	所　　属	氏　　名
白　山	教　務　部　長	東海林　克　彦

東洋大学ボランティア支援室要項第９条５号による
(任期：2020 年４月１日～ 2022 年３月 31 日)

専門部会委員名簿

所属キャンパス	所　　属	氏　　名
白　山	室　長　推　薦（文 学 部）	高　野　聡　子
白　山	室　長　推　薦（法 学 部）	谷　釜　尋　徳
白　山	室　長　推　薦（社 会 学 部）	箕　曲　在　弘
朝　霞	室　長　推　薦（ライフデザイン学部）	内　田　塔　子
川　越	室　長　推　薦（総合情報学部）	小　瀬　博　之
白　山	ボランティアコーディネーター	日 比 野　　勲
白　山	ボランティアコーディネーター	山　本　奈　央

外部評価委員

東 海 大 学　　市　川　享　子　講師

（参考）東洋大学　5 キャンパスの学部配置

キャンパス	特　　徴
白山（東京都）	文系７学部（文、経済、経営、法、社会、国際、国際観光）
	特に社会学部や国際学部、国際観光学部でボランティア活動が盛んに行われている。 また、ボランティアサークルも多数存在。
朝霞（埼玉県）	ライフデザイン学部１学部
	2021年度に赤羽台に移転予定。 こども支援や健康スポーツ等学科の学びは広く、それぞれにボランティア活動も行われている。
川越（埼玉県）	理系２学部（理工、総合情報）
	キャンパスと地元（鶴ヶ島市、川越市）との連携して正課内外で多くの活動が行われている。
板倉（群馬県）	理系２学部（食環境科、生命科）
	学部の特色を活かした地域への貢献活動を中心に展開されている。
赤羽台（東京都）	情報連携学部１学部
	2017年に新設された新しい学部

2020年度　ボランティア支援室専門部会活動記録

第１回：2020年６月11日（木）　14:50 ～ 16:40

報　告　事　項

①ボランティア支援室利用状況報告（授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況）
②東洋大学学生団体による社会貢献活動プロジェクトに対する助成事業選考【追加】について
③ボランティア活動に関する意識調査について（中間報告）
④ボランティア支援室企画報告（オンラインサロン、オンラインミーティング、サポートスタッフミーティング他）
⑤その他

審　議　事　項

①学生課外活動育成会費によるボランティア支援室企画について
②今年度の活動計画について（コロナウイルスに伴う予定変更について）
③東洋大学学生団体による社会貢献活動プロジェクトに対する助成事業の変更について
④その他

第２回：2020年７月６日（月）【書面会議】

報　告　事　項

①ボランティア支援室「しゃべり場（オンライン窓口）」開設について
②学生社会貢献活動助成金事業について
③課外活動育成会企画について

第３回：2020年９月18日（金）　10:40 ～ 13:00

報　告　事　項

①ボランティア支援室利用状況報告（授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況）
②課外活動育成会企画報告「福島県（郡山市）の子どもに寄り添うプログラム」
③ボランティア支援室企画報告
④その他

審　議　事　項

①課外活動育成会企画「いわき OLIVE&COTTON」の実施について
②ボランティア支援室企画実施について
③その他

第４回：2020年10月16日（金）　10:40 ～ 12:10

報　告　事　項

①ボランティア支援室利用状況報告
②【各種活動報告】
　・「Hands to Hands」プロジェクト（第1弾）
　・「環境問題から学ぶ初めての SDGs」
　・福島県いわき市の農業の現状を発信する（東洋大学学生課外活動育成会）

審　議　事　項

①2021年度ボランティア支援室予算について
②各種活動実施
　・課外活動育成会企画「デイキャンプで遊ぼう」
　・ボランティア支援室企画「ボラカフェ」
③人権週間におけるボランティア支援室イベントについて
④その他

第５回：2020年11月20日（金）　10:40 ～ 11:30
報　告　事　項 ①ボランティア支援室利用状況報告 ②【各種活動状況報告】 ・「Hands to Hands（2期）」プロジェクト（経過報告） ・課外活動育成会企画「デイキャンプで遊ぼう」 ③その他 **審　議　事　項** ①2020年度東洋大学ボランティアウィーク企画について（進捗状況の確認および新規企画） ②【ボランティア支援室企画他】 ・「ボランティアカフェ（意外と広い、ふくしの話）」 ・「サポートスタッフ募集」について ③その他
第６回：2021年１月22日（金）　10:40 ～ 12:00
報　告　事　項 ①ランティア支援室利用状況報告 ②【各種活動報告】 ・「Hands to Hands」プロジェクト（最終報告） ・ボランティア WEEK 各種企画 ③その他 **審　議　事　項** ①・2020年度「社会貢献活動に対する表彰制度」 ・2021年度「社会貢献活動等奨励プロジェクト助成制度」 ②【各種活動企画】 【課外活動育成会】 ・「東日本大震災から10年、被災地の現状を知り、復興応援 ‼ 『いわき市の農漁業の現状を発信するスタディツアー』」 ・「SDGs ワークショップ〈第５回〉“貧困”をテーマ」 ・「SDGs コンテスト」 ・「SDGs ボランティア情報展」（朝霞・板倉） 【各種活動企画】（支援室企画） ・「東日本大震災から10年を迎えて」イベント月間 ・「SDGs ボランティア情報展」（朝霞・板倉） ③その他 ・2020年度外部評価について ・2021年度 SDGs 関連企画について ④その他

ボランティア支援室外部評価

（東海大学健康学部健康マネジメント学科講師　市川　享子氏）

Ⅰ　判　定（S～C）：A

S：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A：おおむね、ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。
B：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。
C：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

Ⅱ　総　評

新型コロナの感染拡大により、教育活動、社会的活動が大きく制約を受けるなか、多様な方法を駆使しながら、活動と学びを止めないで果敢に歩み続けていることを高く評価する。

特に、遠隔ツール（オンライン、オンデマンド）の活用や授業との連携等の工夫により、これまで窓口に来なかった学生ともつながるなど、学生に浸透を進めている様子もうかがえた。

また、活動テーマも、福祉、環境、震災、SDGs に加え、新型コロナ感染拡大による影響の広がりなど、社会的に重要なテーマに対して、丁寧に向き合っている様子は、貴センターが真摯に社会的責任を果たそうとしている姿として伺える。

昨年度、課題であったボランティア支援室の活動の受益者が白山キャンパスに集中しがちであるということに対しても、オンライン相談の活用により改善の兆しがうかがえる。新年度に対面の機会が増え、新キャンパスの活用が本格化するなか、さらに新たな工夫を期待したい。

Ⅲ　概評及び提言

1　理念・目的

〈概評〉

①ボランティア支援室の目的を適切に設定しているか。

貴学はボランティア支援室を開設後、活動を発展させてきている。その位置づけをさらに強化するためにも貴学の社会貢献や教育理念との関連づけながら、目的をさらに明確化することが重要であると思われる。貴学の中期計画「TOYO グランドデザイン」で明示されている「活動のなかで奮闘する」と、ボランティア支援室の目的、方針、内容などを有機的に関連づけていくことなど、貴学独自のボランティア支援室の理念と機能を創り上げていくことをぜひ期待したい。

②社会貢献センターの目的を明示し、社会や学内と共有しているか

ボランティア活動の実践に留まらず、ボランティアの精神の背後に有する包摂性や多様性等の価値や理念の浸透に向けて、多様な角度から工夫を重ねながら取り組んでいることが大変印象深い。そうした実践や価値を学生のリーダー層とも共有し、ともに企画を練り上げている様子は素晴らしく、学生がリソースパーソンになっている講座では、学生の参加者数も

多く学生間の相互作用がうまく機能していることが伺える。

③ボランティア支援室の目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

東洋大学の中長期計画のなかで、ボランティア支援室の目的、各段階に応じた計画を位置付けていくことが重要である。特に「TOYO グランドデザイン」の社会貢献分野で示される「活動のなかで奮闘する」の実現とはどのようなことか、その具体像について、支援室の運営委員会や専門部会での検討を通して、支援室活動と有機的な関連づけを明示していくことも必要である。その際参加型評価やプログラム評価の手法を用いて、ボランティア支援室の多様なステイクホルダーである地域関係者、学生（学生スタッフやそれ以外の学生）、教職員、大学の執行部等とともに、ボランティア支援室の中長期像を創り上げていくことも効果的で可能性がある。

〈提言〉

長所

コロナ禍において、使命を見失わず普遍的、今日的課題に対して真摯に取り組んでいる。一人ひとりの教職員や学生の情熱や実践の集大成が報告書として結実していることが大変印象深い。

遠隔授業体制が進み、学生とのコミュニケーションに制約があるなか、工夫を重ね学生や地域社会とともに、持続的に活動や企画を広げていることは大変素晴らしい。

さらに、ボランティア支援室や学生の動向についてのデータの収集と分析がされており、支援室によるデータの蓄積が進められていること。活動の記録が定型的なフォーマットのもとに、毎回作成されており、記録の仕組みが構築されていることは貴支援室の強みと思われ、今後もぜひ継続してほしい。

改善課題

・改善課題ではないかもしれないが、新型コロナ感染拡大によって失われた学生間や学生と社会とのつながりをどのように回復、強化していくか、貴支援室の取り組みと支援に大いに期待をしたい。
・新キャンパスでの教育活動の進展とともに、大学と地域の教育や実践面での連携に向けて、ビジョンを明確化し、実践につなげることも、コロナ禍で難しいとも思われるができるところから着手していただけるとさらによいと思われる。
・ボランティア支援の目的・活動と大学教育の接続像が見えづらいので、その関連づけの議論によって貴学の教育力の向上にも寄与することも考えられる。今後はサービス・ラーニングのような社会貢献と教育と統合した教育プログラム／カリキュラムの開発等、大学の複合的な使命との関連づけについても検討を期待したい。

以　上

2020 年度版

東洋大学　ボランティア支援室年報

発行　2021年６月30日
東洋大学　ボランティア支援室
〒113-0021　東京都文京区本駒込1-10-2　甫水会館１階
TEL：03-3945-7927　FAX：03-3945-7601